

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	永町 友恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学（新約聖書）	1	後期	必修	はい	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>聖書を学ぶことが初めての学生にも、分かりやすくなるように準備いたしました。インターネットの教材も取り入れながら、視覚的に説明するために、ユーチューブなどの教材も積極的に取り入れました。また教会音楽を多く取り入れ聴覚的にもキリスト教会の雰囲気味わえるように工夫し、色々なジャンルの教会音楽を紹介しました。さらに聖書の言葉を信じた、キリスト者の人生からも学べるように何人かの人物を紹介して学んでいただきました。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績は前期よりも厳しく採点しました。そのことで、大学の講義だという自覚を持たせました。対面の講義は、ネット講義よりもキリスト教学にとっては講義しやすかった。しかし学生から質問を受けることは、ほとんどありませんでした。課題提出の時に質問した学生には、その場で返答できましたし、学生共通の質問や誤解している場合は、次の講義の冒頭で説明しました。またキリスト教、そして聖書の入門的な位置づけの講義ですので、授業だけで完結するようにプログラムを組み立てました。今後はさらに図書館に多くのキリスト教関係の書物があることの紹介や、さらなる学びの方向性についてもアピールできたらと思います。最後にキリスト教会との礼拝の体験をできたことは素晴らしいのではないのでしょうか。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

この講義の目的は、実際に聖書を手に取り、読んでもらうこと。そして聖書の全体像をつかんでもらう。さらに、この西南女学院大学の創立精神がこの聖書の中にあることを知ってもらうことです。後期は新約聖書を学ぶことでしたので、イエス・キリストとはどのような存在なのか、聖書の人物はどのような人生を経験したのか。またキリストの教えが世界にどのように影響を与えたかを知っていただくことでした。しかし聖書にあまり興味のない学生がいたことは事実です。その方々に色々なジャンルの教会音楽を通して、キリスト教学に興味を持って頂けるようにアピールしました。またこのコロナ禍にあって学生たちが不安を持つ中で、講義の最初の祈り、心休まる体験もできたと思います。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

1年目はオンライン講義であり、2022年度は、対面初年度の講義義でした。事前に講義ノートを準備して、講義前に配りました。昨年度の講義のカリキュラムを全体的に見直し、より良い講義を進められるように改善しました。この講義は知的面だけの学びではないので、実際に教会の礼拝に参加することや、大学のチャペルをリアルに参加することができたら、より講義の内容が理解できるのではないかと思います。賛美や講義のまとめたものを、最大限ユーチューブなどから教材を選び視覚的に見せられたことは良かったと思います。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

2022年度は改善されたとは言え、新型コロナウイルスの影響があり、チャペルも半分はオンラインでした。しかし学生たちが教会の礼拝に実際に参加できました。また昨年度のオンライン講義のやり方を踏まえながら、学生たちに、神、イエスさま、そして聖書のすばらしさを講義で感じていただけたのではないかと思います。またキリスト者の社会的貢献から学び、弱さを覚える方々がキリストにあって生き生きと生活した姿をお知らせすることもできました。また福祉の精神がキリスト教の精神とも共通性があることも学んでいただけたと思います。そして聖書の中の女性にスポットを当て、女子大の学生に聖書登場人物に対して近さを感じていただきました。さらにこのキリスト教の信仰で、この西南女学院大学が創立されたことを分かち合うことができました。しかし大学の講義ですから、さらなるキリスト教学、聖書の学びに進めるよう、学生たちに今後紹介していきたいと思っています。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
初年次セミナーII	1	後期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>回答者数は59名（回答率68.6%）であった。学生の受講動機は「必修科目である」が98.3%であった。このほか、「資格取得に必要である」が27.1%、「単位数を確保する」が20.3%、「関心のある内容である」が13.6%であった。この科目は、全体での共通の講義のほか、教員のオムニバス形式(6回1クールで行うので、実際に学生が受講する教員は2名)で行う科目であることから、各教員の専門性を重視しつつ、「初年次セミナーI」で学んだ「調べる」「聞く」「読む」「書く」ための技能に加えて、「発表する」「討論する」ための技能を身につけることを目的として授業を行った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された		達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価について、理想的レベル（90点以上）に達した学生は26名いた一方、昨年度に引き続き再試験対象者が1名出たほか、出席数不足により単位取得できなかった学生が4名と、昨年度ほどではないものの、意欲的な学生と意欲の低い学生の格差が目についた。到達度自己評価をみると、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」の平均値がともに4.3、「自分なりの目標を達成した」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値がいずれも4.2であるほか、その他の項目の平均値も4.1～4.0を示しており、昨年度と比べて、全体的に数値は上昇している。学習量については、授業の準備を1回も行わなかった学生が14名、1回行った学生は5名、2、3回行った学生は25名、4,5回行った学生は8名、6回行った学生は7名であり、「初年次セミナーI」に比べて回数は減少しているが、学習している学生はやや増加している。また、図書館の図書、雑誌を利用した学生は29名、学術データベースを利用した学生は20名、インターネットを利用した学生は37名であった。いずれも昨年度より増加しており、とりわけ図書館や学術データベースを利用した学生は大幅に増加している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると本科目は「必修科目」、「総合人間科学科目」であり、大学における学習の技能を身につけるための科目である。当然福祉の専門領域を学ぶための技能を身につけるための科目でもあり、内容的には妥当であると考えられる。②DP行動目標から見ると、すべてのDPの基礎となる内容を網羅しているともいえる。よって、内容的妥当性には問題ないと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価について、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値はともに4.5、「説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.4、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値がいずれも4.3であった。これらの数値については、昨年度よりやや上昇しており、前期の「初年次セミナーI」と同様の水準を維持している。学習量について、授業の復習を全くしなかった学生は17名、授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生は38名と、昨年度並みの人数であった。授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は21名であった。具体的に取り組んだ学習は、「本を読む重要性を講義の中で学び隙間時間を見つけて積極的に本を読むようにした」、「複数の文献を読んでみた」、「インターネットを使ってスライドに使う資料を集めた」、「レポートの作成」、「他の人の発表で気になった事調べた」などが挙げられていたが、これらは授業の課題と密接に関連する学習でもある。また、「主に気になる用語を調べてみて身近な現象について新しく知ることが楽しかった」という回答もあった。他方、授業の課題以外の学習に取り組まなかった理由については、「課題で精一杯だった」との意見が多く見られたほか、「授業中にしたこと十分だったため」、「他の科目の勉強を優先したから」、「学習の取り組み方がわからなかったから」との意見がみられた。学習の技能については、振り返り、繰り返ししながら徐々に身につくものでもあり、学生が積極的な学習姿勢をとるための動機づけが今後の課題であると言えよう。学生の意見については、「レポートの基本的な書き方や、もっとこうしたらいいなどのアドバイスをたくさん学ぶことができ、とてもよい機会になりました」、「最終講義の時に、先生の方から良かった点が挙げられなかったため、残念だった。今後より努力しようと思う」などの意見があった。</p>
--	--

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総合的評価と課題をお示ください。</p>	<p>この科目では、全学共通の総合人間科学科目として、「調べる」「聞く」「読む」「書く」技能の習得に重点を置いた「初年次セミナーI」を基礎として、研究倫理のほか、さらに「発表する」「討論する」技能の習得を目指したが、当初の目標はおおむね達成できたと言えよう。次年度以降も「初年次セミナーI」「初年次セミナーII」を通じて、専門教育が本格化する2年次以降の学習をより深めるため、大学で学ぶための基礎的な知識、技能を身に付けることを目指す。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生涯スポーツ	1	後期	選択	いいえ	67

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、からだを動かすことが中心のスポーツ実技の授業であり、学生が積極的に自律心をもって楽しく行えるように、指示は必要最小限にした。また、カロリーカウンターを用いることによって、授業中の歩数や消費カロリーを把握させ、からだを動かすことへの動機づけを図った。</p> <p>ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）では、練習によって各種スポーツにおける技能を高めさせると同時に、ルールを理解させることによって、学生自身が積極的に試合ができるようにした。また、ダブルスのゲームでは毎回ペアを入れ替えるなど、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。試合後は反省点や次回に向けての改善点（課題）などを実習記録にまとめさせることによって、各種スポーツ技能のさらなる向上を意識させた。</p> <p>ウォーキングやジョギングについては、自分に合ったペース、友達と会話ができるペースで行わせることによって、無理なく運動が続けられるようにした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>履修者64名中、3名（4.7%）が履修を放棄した。履修者61名の最終的な成績の平均値は85.8（±8.7）点であった。成績分布別にみると、90点以上が23名（37.7%）、89～80点が30名（49.2%）、79～70点が3名（4.9%）、69～60点が4名（6.6%）であり、60点未満が1名（1.6%）であった。ほとんどの学生が標準的レベルに達しており、86.9%の学生は理想的レベルに達していた。</p> <p>授業評価アンケートに回答した39名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が17名（43.6%）、「わりにそうだと思う」が17名（43.6%）、「まあまあそうだと思う」が13名と（12.8%）であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3）。</p> <p>「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が19名（48.7%）と11名（28.2%）、「わりにそうだと思う」が15名（38.5%）と12名（30.8%）、「まあまあだと思う」が5名（12.8%）と13名（33.3%）、「少しそうでないと思う」が2名（質問項目3のみ5.1%）、「全くそうでない」が1名（質問項目3のみ2.6%）であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.4と3.8）。</p> <p>「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目9）についても、「かなりそうだと思う」が15名（38.5%）、「わりにそうだと思う」が14名（35.8%）、「まあまあだと思う」が9名（23.1%）、「少しそうでないと思う」が1名（2.6%）であり、ほとんどの学生が肯定的に捉えていた（平均値4.1）。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

総合人間科学・全学共通科目の「女性と健康」領域に含まれる科目である。ラケットスポーツ（バドミントン、卓球、テニス）の技術練習およびゲームを行った。「全体を通じた」学生の到達度自己評価では、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。また、「知識・理解（DP1）」、「態度（DP4）」、および「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価でも、ほとんどの学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価は、平均値が3.8～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。
本科目では、ラケットスポーツおよびウォーキング・ジョギングを実技として行うため、講義の時のような予習・復習を必ずしも必要としていない。そのことを反映してか、ほとんどの学生は予習・復習を行っておらず、その必要性もないと考えている学生も数人いた。このことに対しては、ラケットスポーツのルールや練習方法などを調べさせ、レポートとして提出させるなどしたいと考えている。
また、日常生活を活動的に過ごすことが、健康や体力の維持・増進につながることを考えれば、学生自身に日々の歩数や消費カロリーを記録させ、それを提出させることは、運動することへの動機づけになると考える。すでに学生の中には授業以外で日々意識的に歩いたり、トレーニングなどを行っている者もいた。来年度は、このような活動的な学生が更に増えるように工夫したいと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

概ね目標は達成できたと考える。
今後の課題としては、本実習以外でも積極的にからだを動かす学生の数を増やすことである。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性史	2	後期	選択	いいえ	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>近代日本の女性史の学習を通して、現在に続くジェンダー問題の所在を確認することを重点化し、教育制度やメディアが意識形成に与えた影響を取り上げながら授業を進めた。初回に女性史を学ぶ意味が「伝統」を疑う知的根拠を獲得すること、そのためにジェンダーの視点で歴史を見直すことを伝え、全講義の流れを、明治時代、大正時代、15年戦争期、高度成長期、21世紀までであること確認した。中学高校までの歴史の授業で得た知識を反芻することが準備になることを確認した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>明治から戦後に至る近代日本の女性史に関する基本的な知識を理解することを目標としていたが、歴史に関する基礎知識量や歴史的関心の差が学生間で見受けられた。試験前に、授業の総復習をして、ジェンダーの視点でみる近代日本の女性の位置づけを確認した。特に重要なポイントについては、各授業の課題を各自で振り返ることで理解を深めるよう勧めた。授業評価では、授業後にネットで調べて考えた学生も存在した。試験の結果からみると、ポイントはおおむね理解しており、他科より平均点は高かった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

現在の社会経済フォーラムが示す日本の女性の地位の低さの原因を歴史的背景に見出し、産業化と女性の民主化と関連付けて理解できるよう、ネットで取得できる最新のデータを示した。また、テレビや映画で描かれた女性像もネット動画で視聴できるものを活用し、時代背景を映像で確認するとともにジェンダーの視点で映画や雑誌の製作者の意図を考えさせた。おむね内容的妥当性は認められるが、当事者性を持って考えるまでに至らない一部の学生は存在した。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

初回の授業で、通説となっている歴史観をジェンダーの視点で見直すと新たな歴史が見えることを伝えた。授業では近現代史が中心であるが、各自の高校までの歴史授業による知識量に格差がある点を踏まえ、インターネット上の図表や動画も使用した。他学科も合わせると人数が多いため、双方向のやり取りができないのが課題である。改善策としては、前回の授業課題レポートをもとに振り返る時間を確保するようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

女性史は範囲が広いと、主に日本の近代史を中心に絞り、現在の女性の状況と関連付けて授業を進めたために、生徒の関心を現状のジェンダー課題、すなわち根深い固定的性別役割分担意識の原因である家父長制であることについて考えさせることができ、実感を伴いながら知識の理解を深められたと評価できる。今後は、日本の家父長制が根付いた経緯を古代・中世までさかのぼりつつ、世界史的にも家父長制の歴史を触れてその普遍性への理解を深め、現在の国際的なジェンダー平等の現状から日本の課題を改めて客観的に考えられるよう思考力を高めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
文学	1	後期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>文学とは何か、という考察から始め、人が生きていくうえで関わる全ての事象・・・つまりは「実学」を学ぶものであることを、多くの上質の文学作品に触れて究明していった。そして最終時にはいかに生きていくのか、といったシンプルではあるが自身のアイデンティティーと向き合い、活力となる原点を導き出すことを学ぶのである。そうして初めて物事を解釈するという文学の原点に到達することを説きつつ講義を進めていった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生たちは毎回の講義において非常に熱心に取り組んでいたように思う。また学生からの質問や感想文も活気にあふれ、意欲もあり、関心の要になるものを把握してくれているように感じた次第である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけについては良かったように思う。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生たちの集中は途切れることなく反応はかなり良かったように思う。向上心も高く、殊の外、論文の書き方、面接の対応などに対して熱心に取り組んでいたように思う。もう少しマンツーマン指導を増やすべきであったように思っている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成状況の総括的評価としては、75%から80%までは習得できたのではないかと思います。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	はい	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>回答者数は48名（回答率63.2%）であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」70.8%、「必修科目である」50.0%、「単位数を確保する」29.2%、「関心のある内容である」18.8%であった。教職必修科目であるが、今年度も福祉学科の1年生の多くがこの科目を受講した。憲法は学生自身の今後の生活や人生に関係が深い、ということを明確に伝えることを心掛けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度はすべて対面で授業を行ったが、成績評価は昨年度と同様に、授業中の確認テスト、コメントおよび後期終了時のレポートを用いた。素点の平均点は76.06点であった。不可と評価した者は0名（ほか出席数不足の学生が4名）、理想的レベル（90点以上）に達した者は8名であった。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.4、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値がともに4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値がともに4.2であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除く他の項目の平均値は4.1-4.0の間にあり、全体的に昨年度よりやや上昇している。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、教職指定科目であることに加えて、シラバスにも明記してある通り、福祉専門科目である「権利擁護論」で学ぶ内容の基礎となる。加えて将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、援助の対象者を人権の主体たる個人として理解するための基礎を得るためには重要であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。

②DP行動目標から見ると、自己評価と成績に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考えられる。よって、内容的妥当性には問題ないと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値はいずれも4.5、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値が4.2であった。いずれも昨年度より上昇している。他方、講義の冒頭で予習・復習の具体的な仕方について説明したが、予習を全くしなかった学生は19名、復習を全くしなかった学生は12名と、昨年度より半減している。また、授業の課題以外の学習に取り組まなかった学生は27名、取り組んだ学生は21名であった。授業以外の学習として「憲法に関する本を読んだ」、「ニュースなどを観て国の動きに注目した」、「初めて聞く言葉などを自分なりに調べた」などの記述があった。他方、授業以外に学習していない理由として「授業で十分だったから」との回答が多く、そのほか「何をしたらいいか分からなかった」、「取り組む時間の余裕がなかった」などの記述が見られた。学生の意見については、「苦手な教科でしたが、説明が分かりやすく良かったです!」、「今まで知らなかったことをたくさん知れて楽しかったです」、「毎回配布する講義のレジュメがとても見やすく自学がしやすかったです」、「質問に答えてくれたので、より理解を深めることができましたし、全体で共有できたのでとてもよかったです」といふように、授業全般について評価するコメントが見られた。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな教養のもと、社会を多面的に捉える基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考えており、特に改善すべき課題はないと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	桐原 隆弘

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人生と哲学	1	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教科書をもとにした資料を用いて、学生に教科書を読ませ、空欄補充により用語やその意味を理解させるよう工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>例年、授業は難しすぎて理解できなかった、という直截的批判があるが、レスポンスペーパーや試験結果をみれば内容をおおむね理解していたことが分かる。今年度も同様で、とりたてて難解な内容・説明に終始してはいたわけではない。</p> <p>アンケート（特に自由記述）を根拠とすれば、上記の評価は導き出せないように思われるかもしれないが、教員としてはあくまでもレスポンスペーパーや試験での学生の反応を中心にみる。その観点から、上記のように判断した。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

おおむね妥当であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

数年間、「人生と哲学」を担当し、レスポンスカードと試験での優秀な見解、答案をみてやりがいを感じてきたが、その反面、学生評価のなかの厳しい表現に意気消沈させられる。その文面からは、テキスト選定、講義資料の作り方、説明、いずれについても不適切であったかのような印象を受けるかもしれない。教員自身の観点はこれとは異なるので、だからこそアンケートとこのリフレクションカードの両方があるのだろう。授業評価について学生の視点と教員の視点から意見交換し、授業で得たものについて共通の見解を見出すという、建設的な方向は打ち出せないものだろうか。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

学生は難解な内容にもかかわらず授業に必死でついてきてくれたと思う。この経験を活かせる場面があればと願う。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	森 敦嗣

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
比較文化と国際理解	2	後期	選択	はい	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目であるが、科目名は多様な内容を含んでいる。例年言えることだが、関連分野以外の学科の学生にとっては具体的に何を学ぶかをイメージしにくいことが課題として挙げられる。2022年度の受講動機をみると「関心のある内容である」を動機とする回答が観光文化学科90.9%、福祉学科および看護学科83.3%に対し、英語学科では66.7%と、学科によって開きがあった。開講時点で関心意欲がそれほど高くない受講者もいることはある程度想定していたため、授業では毎回の授業内容に関わる様々な「確認チェック」という名のQ&Aに答える作業を行わせて彼らの関心を高めることを試みた。</p> <p>②本科目の授業では専門的な用語が頻出し、授業内容の理解が困難となる学生が出るのが想定された。そこで毎回の授業の終りに授業内容のまとめ問題を実施し、授業全体の復習を行った。</p> <p>③比較文化に関しては授業の内容だけではイメージしにくいので、受講者達には「差別」そして「異文化対立」に関連する具体的な動画を見せた。さらにそれぞれの動画内容について学生自身の考えをレポート形式で書いてもらった。</p> <p>④昨年度の課題として受講者が予習復習にかける時間がやや少ないという点が挙げられた。そこで今年度の授業では授業内容に関する知識理解を確認するための小テストを2回実施した。加えて小テストを行う前の週にテスト範囲の予告を行い、予習に時間をかけるよう促した。また今年度も受講者にはテキストを購入してもらい、授業の前に関連個所の予習をしてもらった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>本科目は4つの学科にそれぞれ所属する学生が受講していたが、受講者全体の最終的な成績の平均値は80点以上であった。再試対象となる学生は数名いたが、いずれも再試験にて合格点に達したため、全員が標準的なレベルに達したと言える。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては本試験の対象問題の結果を見る限り83%であった。これに関しては本試験前に知識理解を高める小テストを2回実施したことが結果につながったと考えられる。学生の到達度自己評価に関するアンケートでも、「自分なりの目標を達成した」の回答が4学科平均4.0であった。態度については昨年度みられたレポート問題の提出が遅れる受講者は、やむを得ない欠席による遅れを除いてはほぼいなかった。映像関連に関しては授業を欠席した場合観ることができないため、対応として後日こちらから映像媒体を渡し、個別に視聴させてレポートを書かせた。</p> <p>前年度の課題であった学習量の評価では「授業前の準備に30分以上かけた」と回答した受講者の数は4学科合計で70%以上であった。同様の問いに対する前年度の回答は半数であったため、前年度からさらに大きな改善がされたといえる。また「授業後の復習に30分以上かけた」と回答した受講者の数も4学科合計で70%以上であった。受講者の自由回答でも「小テストがあったことで授業後の復習時間をとるようになった」という記述があり、今回小テストを実施したことが大きな効果をもたらしたと思われる。来年度も引き続き行っていきたい。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、 「学習到達度の自己評価」、 「学習量の評価」、 「学修のための情報利用」、 「図書館、インターネット利用」、 自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性
本科目は選択科目ではあるが、総合人間科学の共通科目の位置にある科目である。総合人間科学のカリキュラムポリシーには幅広い教養と異文化理解の基盤を養うことを方針としており、本科目はその方針からみても内容的には妥当であると考えられる。

②DP、行動目標からみても内容的妥当性
知識理解に関する達成度は、成績評価および到達度自己評価の平均値をみても達成されたといえる。態度についても、昨年度のようにレポート提出が遅れる学生はほとんどみられず、レポート内容自体も一定の基準値以下はいなかったことから、内容的には妥当であったと考えられる。

③まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業評価においては、ほぼ全ての項目において高い評価が得られた。ただ公欠による小テストの評価基準に関して明確でないとの回答があった。これに関してはこちらの説明不足であったと反省し、次年度からは該当者がいた場合は評価基準について明確に説明する予定である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

前年度の課題であった予習、復習含めた授業時間の向上は、小テストの実施と事前の試験範囲の予告を行う事により、先述したように大幅な改善が見られた。特に予習復習ともに30分以上の時間をかけたと回答した学生の数が全体の70%以上いたことは、これまで数年間の授業評価結果をみても過去最高の数値であった。小テストの実施と事前予告は授業時間の向上に非常に効果的であるということが判明したため、次年度も引き続き行っていきたい。

今年度の課題としては本試験、小テスト評価の明確化があげられる。これに関しては、小テストについては採点后に点数を表記して返却し、質問のある学生に関しては個別に対応していく。本試験については次年度より試験終了後に模範解答を提示することが必須となったため、この方法で改善を行いたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	花沢 明俊

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報処理演習	1	後期	選択	はい	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講人数が少なかったこと、個人差はあるものの全体的に経験値が高く、授業進行が容易であり、受講者の理解度に合わせて、授業の進行速度や内容を調整することができた。エクセルによる統計処理とVBAを中心に講義を行い、情報処理基礎で学んだ基礎的知識をベースとした主体的・実践的な内容となることを重視した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績点は、課題の提出やプレゼンテーションなどのプロセス評価50%と、中間・期末試験の点数による達成度評価50%から構成されているが、課題の提出率が非常に高く、目標達成のためのプロセス遂行が確実に行われた。結果として、試験の点数も全体的に良好であった。全受講生が授業内容を主体的・実践的に使いこなせるレベルまで到達した。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、在学中のレポート作成や発表など、さらには、就職後の実務において、データの扱い方の理解と効率化を目的としている。このような観点から、学生それぞれの学習準備性の高低にかかわらず、全員がある一定レベルの技術水準を達成すること、授業終了後も技術習得を継続できるよう、受動学習だけではなくグループワークによる能動学習を行うこと、これら2点を柱としている。授業の妥当性が真に問われるのは、3年生、4年生の実践の機会や、就職後であるが、このような将来の展望から必要性を理解した受講動機の割合は非常に高いものの、履修率が低いため、本科目の意義を理解している学生は、学科の全学生の1割程度と推測される。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

エクセルによる統計処理およびVBAの両方について授業を行ったが、受講者数が少ないことから、各受講者の理解度や学習進度にあわせて、きめ細かく指導できた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

出席率および課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。また、結果として試験においても全体的に高得点であり、高い達成度が得られた。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	塚本 美紀

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
北九州の過去・現在・未来	2	後期	選択	はい	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>総合人間科学の「地域創生」の中の科目であり、2年後期に設定されている。北九州についての基本的な知識を外部講師の講演から学び、地域や国際社会の課題について、自分が学んでいることをどのように生かせるのかということを考えるよう授業を設計した。全学共通で講座が開かれているので、オンラインのポスターセッションを実施し、それぞれの専門分野のことについて互いに学び合える場も設定した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員の最終的な成績が標準的なレベルを超えており、到達度自己評価では1～2名の学生が「全くそうでないと思う」または「少しそうでないと思う」と回答しているが、大半の学生は肯定的な回答をしている。また、レポートや発表なども、専門教育科目で学んだこととこの授業内で学んだことが反映された内容になっており、教育目標は概ね達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

① CP, カリキュラムマップ上の位置付けからみでの内容的妥当性
本科目は総合人間科学の「地域創生」の中の科目で、2年後期に設定されている。大学がある地域のことについて学ぶとともに自分の学んでいる専門分野をこの地域でどのように生かせるかということについても考える内容となっている。学生の成績についても、標準的なレベルに達していることから、内容的には妥当であったと考える。

② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
DPの各項目について目標が達成されていることから内容的に妥当であったと考える。

③ まとめ
以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について、ほとんどの学生が全ての項目について肯定的な回答をしているが、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」という項目について、1名の学生が「少しそうではないと思う」と回答している。200名を超える受講生であったため、学生が発言する機会を作ることが難しかったため、アプリ等を使って学生が自分の考え等を授業中に表明できるように工夫したが、実験的な面もあり十分ではなかったと言えるのかもしれない。その部分を補完するため、Googleクラスルームやメールで常時質問等を受け付けるようにして対応した。テストや提出物の評価基準については、詳細に説明した書類を配布し口頭でも説明したが、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」という項目について、1名の学生が「全くそうでないと思う」と回答している。繰り返し説明するようになりたい。受講生が多いので、授業中に質問しにくいことが考えられたので、Googleフォームで質問を受け付けるようにし、次の授業で解答するようにはしていたが、「口頭、文書など何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」という項目について「全くそうは思わない」と回答した学生が1名いた。記入欄がわかりにくかった可能性もあるので、毎回注意を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

最終的な成績や到達度自己評価から、地域のことについて学ぶとともに専門教育科目で学んだことを地域の中でどのように活かすかということについて考えることを通して、学びを深めていくという目標はある程度到達できたのではないかと考える。しかしながら、受講生がかなり多いため、授業運営上難しい面も多くあったため、今年度は新たなアプリ等を活用したりしたが、さらに工夫を重ねたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	倉富 史枝

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キャリア開発	1	後期	必修	いいえ	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>初回に、この授業で労働政策や福祉政策、企業の雇用システムとの関連において自身のキャリア形成を考える力を身につけること、多角的な視点でキャリア形成をとらえられるよう多様な外部や内部の講師を招いていることを伝えた。また、初回では、ジェンダー平等について説明し女性のキャリア形成を考えるうえでジェンダーの視点が欠かせないことを意識づけした。2回目、主体的な意識で授業に臨めるよう、キャリアコンサルタント(外部講師)から学生と双方向的なやり取りをして、1年生の必須授業として受講を義務付けられているが受け身にならないよう工夫した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>メディアリテラシー、リーガルリテラシー、データリテラシーなど身の回り情報を読み解く力、自らのキャリア・デザインについて考える力は、各講義後の課題や、期末レポートで測った。特に、期末レポートでは、自分の望むキャリアにおける社会的課題を把握し、その解決方法について主体的に客観的に考えることができるかを評価した。レポート課題を出す際に、この評価基準を文書で説明し、キャリアをめぐる思考が個人的体験を根拠とすることにとまらないこと、社会構造と関連づけることを明確にした。ほとんどの学生が基準を達成した。ただし、社会的課題の背景にある事象への言及が不足している学生が一部存在した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

自分の望むキャリアにおける課題を把握し、その解決方法について主体的に考えることができることを目的に、キャリアについての個人の意識がどのように社会的に形成されてきたかを学術的な視点による現状の制度の分析や歴史的背景を解説した。また、多様な講師が講義をすることで、現状把握はより深まったと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義で知識を得るだけでなく、外部講師の体験談を盛り込み、労働法では招聘弁護士が自身の関わった事件から法律を解説したり過労死された方の遺族から具体的な困窮状況を話してもらったり、ほかにも専業主夫の体験談、本学卒業生の職業生活、キャリアコンサルタントによるワークショップなど、共感的に主体的に自身のキャリアの可能性や社会的課題を理解できるような内容となった。今年度は、講義をすべて対面で実施することができ、昨年度と比べ学生とのやり取りも反応も見ながら進められた。各回の感想及び授業評価アンケートをみると、外部講師の話から刺激を受け、自分の関心のあるテーマでは自ら調べる学生もいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

期末レポートなどから、概ね、学生が自身のキャリア形成について考える時間となったこと、自身の可能性について自信を持てるようになったこと、今後の学生生活の重要性に気づいたことは、評価できる。受講者人数が多いため個別対応がすべての学生とはできなかった。次年度はより多くの学生との活発なやり取りの工夫が求められる。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
現代社会と福祉	3	通年	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は社会福祉士指定科目（3年次・必修）の1つである。内容は、主に福祉政策に関するものであり、学生にとってはやや難易度が高いと思われる。したがって、授業は教科書を中心に展開し、単元ごとにレジュメを作成した。また、重要語句やポイント等を判別しやすいようレジュメの内容・形式を工夫するとともに、図表・イラスト等も積極的に用いた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>期末試験の平均は82.3点であり、教育目標は達成したと考える。各DPの達成度について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（かなりそうだと思う41.4%、わりにそうだと思う34.5%）であり、目標をある程度達成したと言える。「思考判断」（DP2）は、「事象（自然、人、社会、歴史など）を理解する視点や考え方を得ることができた」（かなりそうだと思う36.2%、わりにそうだと思う36.2%）であり、これも目標をある程度達成したと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う36.2%、わりにそうだと思う34.5%）であり、ある程度目標を達成したと考える。</p> <p>一方で、授業評価アンケートでは、「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」（していない51.7%）、「授業の予習・復習」（していない36.2%、22.4%）など、主体的・自発的学習態度が十分でない学生も一定数見受けられ、この点、課題が残ったと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP上の位置づけ 既述の通り、期末試験の平均は82.3点であった。また、学生の到達度自己評価においても、本科目の教育目標はある程度達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。</p> <p>②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ 本科目は、従来1年次の開講であったが、難易度がやや高く、2018年度カリキュラムにおいて3年次開講へと移行した。期末試験の結果や教育目標の到達度を見ても、CP・カリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。 なお、社会福祉士養成の新カリキュラム移行に伴い、本科目の開講は本年度で最後であった。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目の教育目標はある達成されたものの、「学習量の評価」を見ると、授業の課題以外の学習に取り組んでいない割合や予習・復習に1回も取り組んでいない割合が一定数見られた。今後は、学生の自発的な学習態度を引き出す観点から、授業運営の改善を図っていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生にとってはやや難易度が高いと思われた本科目であったが、教育目標はある程度達成できた。これには単元ごとのレジュメの作成、図表・イラストの積極的活用などが有効であったと考える。また、開講年次を1年次から3年次に引き上げた点の効果もあったと考える。引き続きこれらの取り組みを行っていききたい。</p> <p>一方で、学生の自発的学習の促進という点では、昨年同様の課題が示された。授業を通して抱いた福祉への興味・関心を自ら主体的に深めていく学習態度をどう培っていくか、今後も考えていきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助の理論と方法Ⅱ	3	通年	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>講義形式の授業であるが、テキストの内容を理解しやすいよう、毎回事例を交え、わかりやすく説明するよう努めた。加えて毎回、国家試験を意識したミニテストを行い、テストの用紙には、質問などを記入できるよう工夫した。質問に関しては、翌週に全体で共有した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>国家試験受験に必要な科目であり、講義形式の授業であるが、「コミュニケーション能力を高める」が4.0である以外は4.2～4.4であり、成果はあったと評価する。また、学生の自由記述の「支援の仕方についてしっかり学べました」や「学びの多い授業でした」、「授業がわかりやすかったです」、「現場の話をきいて、イメージしやすかった」などからも学習の効果を感じている。また、回答した学生の半数以上が、予習や復習の時間を取っていたこともわかり、自己学習を促す効果も、一部あったと感じている。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

社会福祉の基本的な知識理論と学ぶものであることから、関連DPについては妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の前後に自己学習した学生もいたことと、自己学習をしていなくても「授業で理解することができた」とする学生もいたことから、現在の授業方法を基盤とする。また「学びが多かった」という自由記述も数名あり、コメントなどを記入し、返却したことで、双方向で授業を進めることができたと思う。しかし、今後は課題を提示するなど、自発的学習を促す工夫も引き続き、取り組んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

全体的な方向性は現状を基本とする。ただし、学生の自己学習を促す機会を増やす工夫や、教員と学生の双方向での授業ができるよう意識して取り組みたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
権利擁護論	3	後期	選択	いいえ	66

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>回答者数は27名(回答率40.9%)であった。受講動機を見ると、「資格取得に必要である」74.1%、「必修科目である」66.7%であった。社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、相談援助に必要な成年後見制度とその知識の前提となる民法・行政法の内容を中心に、なるべく理解しやすく伝えるよう努めた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度からは全面的に対面で授業を行った。成績評価は、遠隔授業の際に導入した授業中の確認テスト、コメントに加えて、3年ぶりに実施した後期試験を用いた。素点の平均点は72.15点であった。なお、昨年度はレポートで評価を行ったため、昨年度との単純な比較はできない。コース別の平均点は福祉・養護教諭コース72.74点、子ども家庭福祉コースの平均点は68.85点と、両コース間にやや差がついている。理想的レベル(90点以上)に達した者は6名、再試対象者は13名であった。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.1、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値がいずれも4.0であった。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除く他の項目の平均値も3.9-3.7を示しており、ほぼ昨年度並みであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考ええる。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考ええる。よって、内容的妥当性には問題ないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価のうち、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値はともに4.3、「学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.2、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は3.9であり、いずれも昨年度とほぼ同様の数値を維持している。授業以外の学習をしていない学生が12名いるが、授業の課題以外に学習していない理由として「他の科目の課題が多かったから」と回答した学生が多く、そのほかには「授業資料で要領を得た」、「特にすることがなかった」などの意見が見られた。一方、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は15名で、具体的に取り組んだ学習として「授業中わからなかったことを調べた」、「確認テストの復習」、「試験勉強」などの意見が挙げられていた。学生の意見については、「先生の講義はいつもわかりやすく丁寧で、楽しみにしています。コメントカードの紹介もうれしいです。権利擁護という取っ付きにくそうな範囲を先生が教えてくださって本当によかったです」と、授業内容に非常に満足しているものが見られた。一方、「授業中に、遅刻して入ってきた人に対して『こんにちは』とわざわざいうひつようがあるのでしょうか？先生がそれをいうことで入ってきた人は注目され、嫌な思いをするのではないのでしょうか？」との意見もあったが、遅刻している学生への声かけ自体は何ら否定されるものではないと考える。声をかけられることで学生が「嫌な思い」をするということは、学生が遅刻をしていることにうしろめたさを感じているからではないだろうか。授業に遅刻しないことは当然の前提であるが、遅刻したことについて何かしらの事情があれば、うしろめたさは感じないであろう。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えている。授業以外の学習をいかに増やすかが、今後の課題となろう。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	秋竹 純

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
介護技術演習	1	後期	選択	はい	24

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生が本授業に対し自主的に事前、事後学習が行いやすいよう声掛けは行ったものの、振り返ると具体性をもってそのことを意識させることができていなかったと考える。次年度は、授業の終了時に具体的なテーマや課題の提示、授業開始後には、口頭試問等を通じて準備状況や復習状況の確認を行えば、学生も少し意識が変わるのではないかと考える。また、次年度は授業の中間地点において小テストを実施し、より自主的に学習の振り返り時間を確保できるよう工夫したい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>アンケート結果を見ると、資格取得に向けた意識は他学科より優位に高く、授業への参加態度も高く評価できる。結果、成績についても平均が80.01点であり、再試験該当者もなく授業への積極的な取り組みが結果へも繋がったと評価している。ただ、まだコロナ禍でもあった為、直接の相互実習をする機会が、十分にできない判断の上で授業を遂行した為、本来の目指した修得すべき内容には至らなかった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
本科目は「福祉専門科目」として位置づけられており、福祉専門職を目指す学生には広義に汎用できる能力が養える内容と理解している。少人数性で実施したこともあり、受講学生は自ら積極的に授業へ参加する傾向であった。本講義は将来、さらなる専門分野へ進むに辺り、要介護高齢者への基本的対応技術や認知症の理解、緊急時の対応等、他科目との連動した学びによって、より深い人間理解や対人援助スキルが獲得できると考えることから妥当な内容であると判断する。

②DP,行動目標からみでの内容的妥当性
D5)-1,D5)-2については、遠隔授業の経験が長い世代なので当初は心配していたが、他科目でも並行して学習している事が本授業でも相乗効果として伺えた。アンケート結果（演習）においても、コミュニケーションスキルの習得度合いを高く自己評価している学生が多く内容は妥当であると判断する。

③まとめ
以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実技演習科目でありながら、前年度まではコロナ禍を配慮し相互実習のウエイトを低くして実施していた為、実質今回が初めてシラバス通りの授業進行ができた。初回の授業でシラバスの確認と説明を行い、その後も予定通りに進めることができた。コロナ禍ではあり無理はできないが、体験や相互実習をなるべく多く取り入れるように努力した。今年度は移動介助の実技試験で評価を行ったが、再試験対象者もなく概ね基本知識と技術の習得は出来ていたと評価する。授業の中で、本の紹介や動画視聴などを部分的に取り入れ、中にはそれを図書館で借りた等のコメントもあった。一方で、学生の学修準備性や学習量の項目で振り返り時間がやや少なかったことは、次年度の課題とし、授業終了時等に復習するための課題や確認を通じて自己学習の時間を増やせるきっかけづくりも授業の中で工夫したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

今年度より開始した授業であった為、今回の学生評価を基本に次年度の課題を挙げていきたい。
学生同士が接近して行う実習をなるべく省いたこともあり、実習内容にやや物足らなさを感じている学生もいた為、次年度は相互実習の割合を50%程度に増やしたい。なお、授業の途中においても、本授業に対する要望等を調査し、後半の授業に反映させたい。また、技術の小テストを授業中に取り入れ、予習復習時間を意識して取り組めるよう授業のレイアウトを考えたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は社会福祉士指定科目（3年次対象・選択）の1つであり、相談援助演習Ⅲ（2年後期）及び相談援助演習Ⅳ（3年前期）と連動し、4人の教員がオムニバス形式で担当している。主な教授内容は、各担当教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、医療福祉、地域福祉）における事例を活用した支援内容の検討である。</p> <p>授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「資格取得に必要である」（55.6%）が見られ、約半数の学生が社会福祉士取得を意識した受講動機となっている。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>各DP項目の達成状況について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見てみると、「知識理解」（DP1）については「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う55.6%、かなりそうだと思う44.4%）であり、目標を達成できたと言える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う66.7%、かなりそうだと思う33.3%）であり、目標を達成できたと言える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う55.6%、かなりそうだと思う33.3%）であり、これも目標を達成できたと言える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う66.7%、かなりそうだと思う22.2%）であり、目標を達成できたと考える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う66.7%、かなりそうだと思う33.3%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う44.4%、かなりそうだと思う44.4%）であり、目標を達成できたと考える。</p> <p>この他、授業評価アンケートにおける学生の自発的学習状況（授業の課題以外の学習への取組み「していない」44.4%、予習「0回」55.6%、復習「0回」44.4%）から、学生の関心・意欲を高め、主体的学習態度を引き出す必要があると考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP上の位置づけ
授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、全体として教育目標は達成されており、DP上の位置づけに問題はないと考える。

②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ
本科目は相談援助の専門的視点や態度、知識・技術を実践的に修得するものである。これらは当該学年で履修する相談援助実習の展開において不可欠となるものであり、本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。
なお、社会福祉士養成の新カリキュラム移行に伴い、本科目の開講は本年度が最後であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

先述の通り、授業評価アンケートでの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いに対して、「していない」が一定数見受けられ、本科目において学生の主体的学習態度を十分に引き出せていない現状が明らかとなった。引き続き学生の関心・興味を引き出す授業展開を検討する必要があると考え

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度は教育目標は達成できたと考えられる一方で、主体的・積極的学習態度の涵養という点では課題が残った。本科目は教員4名によるオムニバス形式の授業形態となっており、教員間の連携が特に重要になる。今後も授業内容や展開方法等について教員間で十分な共有を図りながら、より教育効果の高い授業を目指したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	はい	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>実習で実践場面の経験を終え人への援助について拡がりを感じられた。実習とともに演習によって、必要となる援助の視点や技術など理解が深まるようにと思い演習を行った。回答者が少ないために妥当性があるとは言えないが高い評価として回答していた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>「学びを深めたいと意欲を持つことができた」に高い評価が得られた。また、図書館利用においても評価は少なかったものの自主的にインターネットを利用し取り組み姿勢が伺えた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「到達度自己評価」「授業の質評価」いずれにおいても高い評価であった。「分からないことを調べた」と回答する者がいたことだけは評価できると考えたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「図書館」をする学生はいなかったものの、僅かでも自主的にインターネットを活用した姿勢は評価できると考える。理解できたことと疑問に思えたことを確認して受講生に示して行きたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

総じて達成されたものとする。今後において更に一人ひとりの疑問や質問について応えていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習Ⅴ	3	後期	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は3年次の社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目である。学生の受講動機をみると、「必修科目である」が80.0%、「資格取得に必要である」が70.0%、「関心のある内容である」が20.0%であり、資格取得のための履修であることがうかがえる。本演習は相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴと連動しており、学生にとって演習Ⅴは最後の相談援助演習となるため、これまで演習・実習で学んできた援助技術を総括できるよう、地域を基盤として、複数の課題を解決することが求められるような事例を用い、ソーシャルワークの理論と実践を統合化できるような内容になるよう努めた。</p> <p>昨年度と同様、地域福祉の実践としてある自治会を中心とした地域づくりを含む事例を取り上げ、コミュニティソーシャルワークの視点を学ぶ内容とした。学生がイメージしづらい地域づくりについて、実際に地区を歩いて地域診断を行う演習や、地域住民を対象としたプログラムの企画立案・評価などの演習を取り入れ、実践的な内容になるよう工夫した。また、相談援助の実践ではチームアプローチが基本となるため、できるだけグループワークを通して課題解決を導けるような演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は84.2点、中央値は85点であり、十分なレベルの成績で合った。学生の学習到達度の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値が4.4、中央値5.0であった。これらの点から学生は概ね目標達成レベルに達していると判断した。各項目については、DP1の知識理解が平均値4.4、中央値5.0、DP2の思考判断が平均値4.3、中央値4.5、DP3の意欲関心が平均値4.3、中央値4.5、DP4の態度が平均値4.3、中央値4.5、DP5の技能表現が平均値4.3、中央値4.5-5.0であった。これらの結果より、目標は達成されたと判断した。</p>
---	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本演習は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業の質評価では平均値4.1-4.4、中央値4.0-5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから内容的に問題はなかったと判断した。

学習量の評価をみると、2, 3回以上の予習をした学生は70%、2, 3回以上の復習をした学生は40%、自発的学習を行った学生は50%であった。自発的学習に取り組んだ学生の意見を見ると、「わからなかったことをインターネットで調べた」「関連する情報の本を読む」といった内容であった。課題の提示等により、予習を促すことはできたが、復習をした学生は少数であった。関連する文献等を紹介し、復習や自発的学習を促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は「相談援助実習」と連動して行われる相談援助の知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、授業の目標は達成されたと考えられる。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	担当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助演習 V	3	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、これまでの相談援助演習科目を通して学んだことを踏まえて、①地域における総合的かつ包括的な援助のあり方、②地域福祉の基盤整備と開発に係る相談援助の方法、③社会福祉士による具体的な支援内容、④社会福祉士に求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを本授業の目的とした。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。</p> <p>① 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。</p> <p>② 地域福祉の計画について理解し、説明できるよう指導した。</p> <p>③ ネットワーキングの方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。</p> <p>④ 社会資源の活用・調整・開発の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。</p> <p>⑤ サービスの評価の方法やあり方について理解し、説明できるよう指導した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、平均値4.3～5.0、中央値4.5～5.0であった。(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」をはじめ、(4)～(10)までが平均値4.5と最も高く、つぎに(1)「自分なりの目標を達成できた」と(3)「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」が平均値4.3であった。3「授業の質評価」は平均値・中央値ともに4.5～5.0の水準であった。</p> <p>本科目は、相談援助に携わる上で、①地域における総合的かつ包括的な援助のあり方、②地域福祉の基盤整備と開発に係る相談援助の方法、③社会福祉士による具体的な支援内容、④社会福祉士に求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを目的に、演習課題を通して表現する練習に取り組んだ。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤により高度なコミュニケーション技術を理解できるように今後も務める。</p> <p>学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門および実践の展開を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉士に求められる知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2022年度の講義に関しては、学生も一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考えている。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、3年生前期の段階では今後の履修状況において学びながら、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達度自己評価において、ほぼ平均値の水準であったが、本年度は、地域社会における福祉的問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、遠隔対応であるため具体的なイメージをもちづらかったと考えられる。科目の性質上、社会福祉における基礎的な内容をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう更に促していきたい。</p> <p>本科目は福祉的課題を抱える当事者等の事例を取り扱うとともに、法律・制度・サービスといった広範な情報量を取り扱う性質があり、講義内容の要点を整理する必要性から、課題を通して講義の学びをまとめ、整理することに重点を置いた。本科目においても、課題の内容を整理し、次年度の講義に生かしていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門および実践の展開を学ぶ位置づけであることから、ソーシャルワーカーによる地域支援の在り方（住民組織化、地域内の支援機関との連携・協働など）についての基本的な専門知識・技術の形成は概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、専門研究による各領域の指導を通して、社会福祉士が対応する事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出ししていきたい。</p> <p>以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、社会福祉士指定科目（3年次・通年）の1つであり、相談援助実習（3年次）の事前及び事後指導を行うものである。高齢者福祉領域と地域福祉領域を担当した。実習前指導では、実習関連書類の作成指導や実習現場で必要となる知識・技術の教授を通じて実習への動機を高めた。実習後指導では、個別面談を通して実習で得た学びや気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問を行い、個別指導及び実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。</p> <p>※昨年同様に、新型コロナウイルスの影響で実習期間・施設等が大幅に変更となったため、授業運営においても個別対応を行った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された	達成された	やや達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>各DP項目の達成状況について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」（DP1）については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」（わりにそうだと思う38.5%、かなりそうだと思う46.1%）となっており、目標を達成したと考える。「思考判断」（DP2）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（わりにそうだと思う38.5%、かなりそうだと思う46.2%）となっており、目標を達成できたと考える。「意欲関心」（DP3）については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（わりにそうだと思う30.8%、かなりそうだと思う46.2%）であり、目標をある程度達成できたと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（わりにそうだと思う38.5%、かなりそうだと思う46.2%）となっており、目標を達成したと考える。「技能表現」（DP5）については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（わりにそうだと思う38.5%、かなりそうだと思う46.2%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（わりにそうだと思う23.1%、かなりそうだと思う53.9%）となっており、目標をある程度達成できたと考える。</p> <p>以上、本科目の教育目標の達成については、各DP項目の達成度から全体としてある程度達成できたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP上の位置づけ
授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目の達成は全体としてある程度達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。

②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ
本科目は相談援助実習の実施に向けた事務手続きや動機づけ、実習で得た学びの整理・振り返りを行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

なお、社会福祉士の新カリキュラム移行に伴い、本科目は次年度以降、「ソーシャルワーク実習指導II」となる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実習前指導では、実習実施に向けた関連文書の作成、実習で必要となる知識・技術の獲得、動機づけ等を行っている。こうした過程において、学生には主体的学習態度が求められるが、授業評価アンケートの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「していない」(30.8%)が見られた。学生の学習意欲を引き出すという点での課題が示されたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目における教育目標はある程度達成されたと言えるが、一方で実習への動機づけや主体的学習態度を引き出す点ではやや課題が残った。今後は本科目で修得した知識・技術が実際の実習現場でどのように役立ったか/役に立たなかったか、実習後指導(個別面談、発表、レポート)が知識・技術の修得に十分寄与したかといった点での評価も必要と考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「相談援助実習」のスーパービジョン、及び事前指導・事後指導を行うものである。児童福祉領域(児童養護施設・障害児施設を含む)での相談援助実習を通して、相談援助の知識・技術を実践的に体得し、社会福祉士として求められる総合的に対応する力を高められるよう事前指導、事後指導を展開した。事前指導においては、実習施設で求められる援助技術や知識の習得とソーシャルワークの視点の形成、実習中及び実習後指導においては実践と理論の統合化を学生の主体的な学びと気づきの中から達成できるようスーパービジョンを実施することを心掛けた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>各DP項目の達成状況について、学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)においては「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う66.7%)「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う66.7%)、「思考判断」(DP2)については「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う66.7%)、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う83.3%)、「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う83.3%)、「態度」(DP4)については「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う66.7%)、「技能表現」(DP5)については「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う66.7%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(かなりそうだと思う16.7%、わりにそうだと思う66.7%)であった。新型コロナウイルス感染拡大防止策がとられる中、多くの制限がある中での実習となったが、学生一人一人が多く学びを得、実習先からも学生の熱心に取り組む姿を評価していただいた。履修学生の中には対人援助場面において困難さを抱える学生も複数名おり、実習においては相当程度のつらさやしんどさに直面しながら自身と向き合い乗り越え、履修学生全員が実習を無事終えることができた。本科目における目標を概ね達成したと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP:行動目標からの内容的妥当性
4(2)に記述したように、学生の到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。

②CP:カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性
本科目は「相談援助実習」と連動して展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、事前学習、学びの整理を行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価においては平均値4.2～4.3が得られた。授業の課題以外に学習に取り組んだ学生は83.3%であった。新型コロナウイルスの影響で児童との直接的な関わりの機会が制限される中、学生が意欲を保ちながら実習に向けての準備と実習の振り返り・自己の課題に取り組み、2回の実習を無事終えることができた。実習後の振り返りとまとめ、後輩に向けての実習報告やアドバイスにも積極的に取り組む姿が見られた。
学生一人ひとりが実習でよい体験や学びを得ることができるよう、引き続き、実習前、実習後、実習期間中の指導とスーパービジョンの質の向上に取り組んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の教育目標は概ね達成できたと考える。学生一人ひとりが対人援助職として目指したい姿を思い描き、さらに意欲をもって学びを深めていけるよう、今後も取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目である。授業は実習前指導、実習配属中の指導、事後指導からなり、事前指導ではソーシャルワークの視点形成、事後指導ではスーパービジョンを通じた実践と理論との統合化を目標に展開した。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が81.8%、「資格取得に必要である」が72.7%、「関心のある内容である」は18.2%となっており、多くの学生は資格取得のための履修である。</p> <p>今年度もコロナ感染症による調整を行いながら、実習担当教員間や実習先と密に連携を図り、実習が円滑に実施できるよう努めた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の最終的な成績の平均値は82.3点、中央値84点で、標準的なレベルの達成度であった。学生の学習達成度の自己評価においては、「自分なりの目標を達成した」が平均値4.2、中央値4.0であった。各項目については、DP1の知識理解が平均値4.5、中央値5.0、DP2の思考判断が平均値4.5、中央値5.0、DP3の意欲関心が平均値4.6、中央値5.0、DP4の態度が平均値4.5、中央値5.0、DP5の技能表現が平均値4.5 - 4.7、中央値5.0であった。全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はおらず、目標は達成されたと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目として位置付けられている。4. に記載したような成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

4. に記したように成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業の質評価については、平均値4.5-4.6、中央値5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから、授業の質については問題なかったと判断した。

学習量の評価については、3～6回以上の予習をした学生が63.6%、復習をした学生が54.5%、自発的学習をした学生が90.9%であった。自発的学習を行った学生の自由回答を見てみると、障害などに関して調べ学習をした学生が多かった。実習の経験をもとに、自発的学習を促すことが一定程度できたと考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目は社会福祉士指定科目であり、「相談援助実習」と連動して展開される科目である。4. に記したように成績および学習達成度の自己評価、授業の質評価から、概ね授業の目標は達成されたと考えられる。学生の意見には、実習を通して自分が成長できたとの記述もあり、次年度以降も実習生が実習を通して自己の成長を実感できるように指導を行っていきたい。

本科目の履修者21名中、授業評価アンケートの回答者は11名であった。回収率を上げられるよう呼びかけを行ってきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
相談援助実習指導Ⅱ	3	通年	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は、「資格取得に必要である」が100%であり、学生の意識も高く実習計画にも積極的な姿勢は感じられた。それに応えられるよう個別に指導を重ねてきた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①「到達度自己評価」「授業の質評価」の項目は、平均値は高く教育目標は達成されたと考える。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.5以上を得ている点は学生自らの成長から伺える。</p> <p>②図書館の利用も、インターネットの利用も高く主体的に調べる取り組みをしていることは評価できる。実習が専門的な場であることや先輩らの経験を目に耳にしたことで真剣みが増し積極的な学習を深められたことからの評価と考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

医療機関は実習先として他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習態度であれば他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けることになると注意をし緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が5.0と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実習先としての医療機関は、他の領域と同じ扱いではあるが、生命を扱う場としての特殊性があると説明し、受験資格を得る為の実習では、他職種の実習生と比較され注意、指摘を受けると注意を喚起し緊張感と積極性持つよう指導した。そのことが「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」が5.0と高く「到達度自己評価」に表れDPは達成できたと考える。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

学生一人ひとりが、実習（現場）において学んできた専門職の方たちと同じ場所で緊張しながら学んだ経験は大きかったと思われる。教員の評価は、実習に出て成長したと評価している。次年度以降も実習を元に学びを深め将来的な方向性を見定めてもらいたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	笠 修彰

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の受講動機をみると、最も高い数値を示したのが「資格取得に必要である」の77.8%であり、受講生の多くが資格取得を目的とした履修であることがうかがえる。本科目が精神保健福祉士国家試験受験資格に関する科目であることから、授業では、国家試験の出題傾向を踏まえつつ、できるだけ養成テキストに沿った内容で進めた。また、必要に応じて実践事例を紹介することで、授業内容の実践的理解が深まるよう努めた。また、適宜リアクションペーパーを用いて学生の授業理解度を把握するよう努め、質問については、次回の授業時に解説したり、補足資料を配布したりするなどしてフィードバックを行った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価については、定期試験、レポート、授業への参加度を踏まえて総合的にを行った。その結果、全体の成績は平均83.2点であった。学生の到達度自己評価「(1) 自分なりの目標を達成した」の項目では、平均値4.2点（かなりそうだと思う33.3%、わりにそうだと思う55.5%、まあまあそうだと思う11.1%）であり、目標は達成されたと考える。「知識理解」については、「(2) 知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が4.3点、「(3) 事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値が4.4点であり、目標は達成されたといえる。「思考判断」は、「(4) 自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値が4.6点、「(5) 自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値が4.4点であることから、目標は達成できたと考える。また、「意欲関心」についても、「(6) 自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均値が4.4点であるため、目標は達成できたと見えよう。「態度」については、「(9) 職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値が4.8点であるため、目標は達成されたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、「精神保健福祉関係科目」において精神保健福祉実践の展開を学ぶ位置付けである。授業準備の欄にも示した通り、学生の受講動機は約77.8%の学生が資格取得を目的としたものであったが、受講態度や課題等への取り組み状況から、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域への高い興味や関心が感じられた。また、学生の自己評価や成績評価から一定程度の成果が得られたことから、内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価では、「(3)説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.3点(かなりそうだと思う55.5%、わりにそうだと思う33.3%、まあまあそうだと思う0%、少しそうでないと思う11.1%、全くそうでないと思う0%)であり、説明の分かりにくさを感じた学生いたことが示された。また、アンケートの自由記述から配布資料の内容に関する指摘が見られたことから、説明方法や配布資料の見直し、改善を行い、学生の授業理解度の向上に向け取り組んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

「精神保健福祉関係科目」において精神保健福祉実践の展開を学ぶ位置づけから、教育目標の知識理解、思考判断、意欲関心、態度については達成できたと考える。他方、授業内容(主に学生への説明方法、配布資料)について見直しを要する点も明らかとなったことから、次年度に向けた課題として改善を行い、授業の質的向上に努めたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助演習Ⅲ	4	通年	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体のWebでの研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、精神保健福祉士の過去の国家試験問題等を利用したりしての解説等を行うことを事前に知らせ実施した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。</p> <p>なお、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとても役に立ったや、幅広く福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が低かった。可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。学術データベースの利用に関しても残念ながら殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。時間の作り方に関しても、昨年度に引き続き具体的に指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。今までの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授を行ったが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、一部ウェブではあったがロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行った。さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めた。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、他の精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更なる考慮をして講義を行った。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を、また、シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。更には、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件等々を詳細に説明した。毎講義ごとにレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。</p> <p>なお、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅰ（医療機関実習）の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等をしてしながら医療機関実習に臨むことができている。終了後のグループワークの中でも振り返ることができており、更には次年度の実習Ⅱの目標も、ある程度立てられるようになってきている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

3年次の精神保健福祉援助実習Ⅰに対しての、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉援助実習Ⅰを通して学んだことを、個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。従って、内容的には妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた項目と、質問の受付答える機会の提供の項目については高得点だった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような、演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。実習事前事後指導については、情報収集や振り返りをさせ、各自の実習目的を明確化することを進めていった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

精神保健福祉士を目指す学生のみが受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身でできていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができたのではないかとと思われる。次年度も、引き続きこの点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	21

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機は、精神保健福祉士の国家試験受験資格の指定科目であるため、必修であると回答した学生が多いと考えられる。また、学生は資格取得に必要な科目であることを意識しての受講であることがわかる。</p> <p>②資格取得のための指定科目という意識づけをオリエンテーションでの目的として、実習指導の進め方や目的、到達目標について具体的に示した。</p> <p>③授業の実施に当たっては、できるだけ具体的な内容を含めて、説明を行った。</p> <p>なお、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>精神保健福祉士の資格取得に課せられた精神保健福祉援助実習Ⅱ（地域実習）の事前事後指導の科目である。3年次の医療機関実習での学びを通して4年次の実習に向けた各自の目標設定や課題の確認等を行いながら、地域実習に臨むことができている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

精神保健福祉援助実習Ⅱに向けた、事前事後指導という位置づけである。精神保健福祉コースの総括としての実習Ⅱを通して学んだことを、事後指導の時間を多く設けて個別体験から総合的包括的な理解へと広がるための科目設定である。内容的には妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価に関しては、授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた、及び質問の受付答える機会の提供の項目についても高得点であった。できるだけ主体的参加によるグループワークが展開できるような演習形式を意識して行っていたための評価であると考えている。実習事前事後指導については、よりリアリティな状況を説明していきながら、各自の実習目的を明確化することを進めていった。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

精神保健福祉士を目指す学生が受講生をしめる本科目において、学生の学習への動機づけはある程度学生自身できていると思われる。実習に向けての職業倫理や行動規範などにより時間をかけるとともに、授業外での学習を促したり、勉強方法の具体的提示を行うことで、より継続して勉強することへの動機づけができたと思われる。次年度も引き続き、この点を取り入れて授業を組み立てていこうと考えている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神障害者地域生活支援論	4	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>国家試験受験資格の指定科目ではないが、福祉専門職として十分に理解しておく必要がある科目であることから、社会福祉士や精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で準備をし、更なる考慮をして講義を行った。</p> <p>具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体のWebでの研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々の基本的なことを詳細に説明した。</p> <p>さらには、「厚生労働白書」、「障害者白書」、「精神保健福祉白書」のデータベースを利用しての講義展開や、よりリアリティを習得できるように、多くの地域生活支援に関する実践事例を提供して、地域共生社会やいわゆる精神障害者への「にも包括」などを含めて講義を進めることを説明した。また、毎講義ごとにレジユメを作成して配布し、理解度を高めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、最終レポート、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の試験対策にとっても役に立ったや、幅広く地域での福祉全般の関連分野まで理解が深まった等の内容の記載もあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、両福祉士の国家資格を取得するための指定の科目ではないのにも関わらず、その関連性の高さから、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものを感じられた。また、受講の全学生が、精神保健福祉士の国家試験受験者であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の項目が他の項目より平均点が低かった。座学での講義スタイルであるがゆえ、なかなか困難かと思うが、可能な限り今以上に事例等の導入を検討したり、アクティブな活動を入れ込む等を検討を行い、引き続き次年度以降の課題としたい。特に、地域共生社会を鑑みた精神障害者に対する「にも包括」の事例をより多く取り入れるなど、今以上の工夫をしていきたい。更には、学術データベースの利用に関しても殆どなされてなく、利用の仕方からのインフォメーションを行うことも工夫をし、厚生労働白書、障害者白書や精神保健福祉白書のデータベースを駆使していくなどの、引き続き検討としたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あったが、演習時に実施している時間管理ノートなどを振り返りながら、時間の作り方に関しても、引き続き具体的に指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

科目とのつながりを考えて教授したが、4年後期の開講科目という点から、前半部分は今までの復習とその関連性も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は両福祉士の国家試験が近付くということも考慮して、その試験に関することに関係性を持たせて講義を行った。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、多くの地域生活支援に関する事例を提供して、地域共生社会やいわゆる精神障害者への「にも包括」などを含めての検討を行った。今後も、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めることができたと感じられる。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
認知行動療法基礎演習	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ひとの体験を認知行動モデルから理解する視点を身に着け、さらに認知行動モデルを基礎とした支援の在り方を学習することを目的とした。受講学生は認知行動モデルや認知行動療法について詳しく学習するのは初めてであることが予測されたことから、授業前半では認知行動モデルについての理解が定着するよう基礎概念の解説を時間をかけて行った。また、授業評価アンケートにおける「受講動機」では、「資格取得に必要である」と回答した学生が多く、保育士を目指している学生も多かった。精神科医療や相談援助場面だけでなく、小さい子どもとの関わりや保護者との会話に認知行動療法の要素をどのように取り入れ、どのように有効であるかについて具体的場面を挙げながら説明した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の成績は平均90.3点（標準偏差6.5点）であった。この成績結果から、DP1および2は目標達成したと判断した。DP3に関しては、学生によって受講態度に差があったため「やや達成された」と判断した。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本講義は保育士取得に関する選択必修科目に位置づけられている。授業内容は、精神科医療や相談援助で活用される心理療法についての解説や演習であるため、保育士と全く関連がないわけではないが、受講学生がニーズと授業内容に差が生じる可能性が考えられる。

1回目のオリエンテーション時に、授業計画の説明を行い、学生からのニーズも聴取し、内容のすり合わせを行う必要がある。また、授業内容では今年度実施したように、保育現場で活用しやすいように発展的な内容を扱うこともこころがけたい。

以上のような授業内容の工夫を実施することも必要だが、改めて保育士取得のための選択必修科目という位置づけが妥当であるかどうかは検討が必要だと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業では演習課題の提出などを度々求め、最終的な成績にも反映されることから、今後も初回のオリエンテーション時や授業の後半時に成績評価基準についての説明を丁寧に行うことを心がけたい。

また、授業評価アンケートにおける「2 到達度自己評価」において「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」はほかの項目に比べると低い結果となった。認知行動療法の考えに基づいて、相手の話を聞くロールプレイングを実施する等、実際にひととの会話や面接に活かす体験につなげていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業の目標は概ね達成された。受講学生が少なかったことも、教員と学生間での相互的なやりとりにつながり、目標を達成しやすかったものと考えられた。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
発達心理学Ⅰ	1	後期	選択	いいえ	58

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機によると、本授業は、「必修科目である」17.5%、「資格取得に必要である」32.5%、「関心のある内容である」72.5%、「単位数を確保する」47.5%、「GPAをあげる」5.0%であった。本授業は、選択科目であるため、関心があること、単位数を確保することを目的とした学生が多く受講したと考えられる。</p> <p>1年前期の「心理学と心理的支援Ⅰ」において発達心理学のいくつかの主要理論について紹介しているため、それを踏まえてさらに学生が発達心理学について理解を深めることができるように準備した。</p> <p>①本授業は発達の前期にあたる「胎児期、乳児期、幼児期、児童期」を取り扱っており、学生が経験した発達段階も含まれていることから、自分自身の経験も意識してもらいながら、理論や知識を提供するようにした。</p> <p>②胎児期、乳児期、幼児期、児童期の各時期における、運動面や認知・情動面など各領域ごとの発達の変化について、研究や理論を提示しながら説明を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>平均点は80.4点であり、80点以上の者が61.4%、70点以上の者が26.3%、60点以上の者が1.8%であった。多くの学生が標準レベルの学力を修得することができた。10.5%の学生が教育目標を達成できなかったが、主たる理由は出席回数の不足で成績評価自体を行うことができなかった。</p> <p>学生の到達度自己評価においても、殆どの学生が「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えている。特に「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は4.4点(中央値5.0)であった。また、「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲をもつことができた」の平均は4.4であった。</p> <p>1回以上予習した学生は、60%であった。1回以上復習した学生は、70%であった。復習を重視した学生が多く見られた。</p> <p>授業の課題以外に学習に取り組んでいない学生は「授業で十分だった」「復習をしているので大丈夫だと感じた」とのことであった。</p> <p>自発的学習に取り組んだ学生は47.5%であった。授業の課題以外の学習の取り組みとしては「授業の気になる単語を調べる」「学んだことをまとめる」「発達心理について調べる」「自身を含め、発達についてどうだったか振り返る」「テスト勉強」などが自由記述にみられた。つまり、授業内容をベースに学びを深めたり広げたりしていたことが伺える。</p> <p>以上、学生による授業内での十分な取り組み、予習や復習、自発的学習により、多くの学生は教育目標を達成した。</p>					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本授業は、1年前期の「心理学と心理的支援Ⅰ」において心理学の概論について触れた学生が、さらに専門性の高い「発達心理学」の領域を学ぶことができるようにと設けている。発達心理学は、社会福祉士として必要な「対象者の理解」のために基盤となる学問であり、2年前期には「発達心理学Ⅱ」として青年期以降の発達心理を学んだり、「発達アセスメント演習」にて発達の査定について学ぶために、「発達心理学Ⅰ」として児童期以前の発達心理を学ぶ時期は早い方が望ましい。1年次後期の開講は妥当であると考えられる。

学生も概ね積極的に取り組めており、授業内容としても1年次後期にふさわしい内容になっていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

テキストに沿って進めたが、不足する情報は適宜プリントして配布した。説明には、パワーポイントを用いて、視覚的に整理され分かりやすく伝わるように工夫をしている。

授業の質評価では、「評価基準は明らかであった」の平均値は4.5、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.5、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.3であった。

毎授業終了後に小レポートの提出を求めているが、殆どの学生が授業内容を自分自身の経験や身の回りの他者から得た情報、これまでの知識等の具体的事象と適切に結び付けて考察することができており、これは授業内容の復習にもつながったのではないかと考えられる。

学生アンケートには「子どもの発達について学ぶことができた」「発達について振り返ることができた」と意見があり、授業内容への理解と関心が深まったのではないかと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

やや達成できた。

評価対象となった全ての学生が単位修得することができた。

学生の欠席には様々な事情があると考えられるが、来年度も、学生がより発達心理学への興味関心がもてるよう資料やスライドに加筆修正を加えて授業を展開していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
障害者心理学	2	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義では、身体及び精神に関する様々な障害を取り上げ、個々の診断基準や障害特徴などについて解説する。授業評価アンケートにおける「受講動機」において、「関心のある内容である」と回答した学生が70.0%であったが、多くの学生が2年次や3年次の学外実習に向けて意欲的に履修していたことが推察された。そのため、障害の特徴だけでなく、心理社会的支援の例についても紹介するよう心がけた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義の学生の成績は、平均83.5点（標準偏差8.0点）であった。</p> <p>この結果から、DP1およびDP2に関しては、概ねの学生が到達目標に達成したと判断した。</p> <p>また、DP3に関しては毎授業で提出を求めた質問感想シートより評価した。受講学生の経験を振り返る記述や授業内容から発展させて考えた感想や疑問が記述されており意欲的な態度であったと評価した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

3年時での実習の前段階として、障害に関する専門的知識を身に着け、適切な援助の在り方について考える姿勢を培うことは重要と考えられ、開講年次は妥当であると考えられる。また、授業の目標にDPも対応しており、設定DPも妥当と考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

個々の障害に関する診断基準及び特徴に関して解説する際には、言語的説明だけでは学生がイメージできずに理解することが難しいことが予測されたことから、適宜映像等を利用し学生の理解を促した。授業評価アンケートにおける「授業の質評価」においても「説明は理解しやすかった」の項目について平均4.5点であったことから、映像の利用は有効であったことが考えられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本講義の目標は達成されたものと考えられる。

有効であった授業上の工夫については、対面形式になる次年度以降も活かしていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床心理学概論	1	後期	選択	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生は、本講義において初めて臨床心理学について本格的に学習する。そのため、授業内容としては、現在の臨床心理学領域において中心となっている心理療法や心理検査について幅広く取扱うこととした。また、受講生にとってなじみのない用語や抽象的概念について解説を行うことも多いため、具体例を挙げたり、学生の質問に答える時間を設けるなどして受講生の理解が深まるよう心掛けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の成績は、平均値80.4点（標準偏差 12.6点）であった。この結果から、概ねの学生が新たな知識理解 (DP1) を身に着けたと評価した。しかしながら成績のばらつきも大きく学生によって習得度が異なることが考えられ、「やや達成された」と評価した。</p> <p>意欲関心 (DP3) については、毎授業で実施した質問感想シートの質的評価や授業評価アンケート「学習量の評価」から判断した。いずれも受講学生によるばらつきがあり、全体的評価として「やや達成された」と判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

専門知識や専門技術を身につけるうえでの基礎知識となることから、1年次での開講は妥当である。また、受講学生は、1年前期の心理学概論において、限定的な内容であるものの臨床心理学領域の事柄について学習している。そのため1年後期に実施される本講義の知識が定着しやすいように感じられた。この点からも開講時期は適切だと考えられた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

復習や学生の質問への回答を丁寧に行うことを心がけつつも、予定している授業内容が15回以内に余裕をもって伝えられるよう時間配分に配慮した。新しく学習する内容が多かったため、余裕のある授業進行を心がけ、学生に知識が定着しやすいよう工夫した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

受講学生が関心をもったテーマについて自主的な学習が出来るよう推薦図書の紹介なども随時行っていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	水貝 洵子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
スクールカウンセリング論	4	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>4年生後期の開講となっているため、学校現場ではどのように心理的支援を行っていくかに関して、事例等を交えより実践的な学習内容となるよう心掛けた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>受講学生は8名であった。受講学生の成績は、いずれも80点以上であり、授業目標は達成されたと判断した。</p> <p>また、DP3に関しては、事例検討の際に、学生自身がこれまで学習したことを踏まえ、心理的な視点のみならず福祉的、教育的な視点も踏まえて多角的に支援の在り方を考察する姿勢が認められたことから目標に到達していると判断した。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学校現場での心理支援について学習するため、講義内容は発展的である。そのため4年時での開講は妥当だと考えられた。
また、新たな知識の習得よりも、これまでの学習内容をどのように活かすかについて思考するため、設定DPについても思考判断（DP2）および意欲関心（DP3）が妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

受講学生の受講動機に注意する必要があるが、内容に関心があり意欲的に受講している学生が多い場合は、事例に関するディスカッションを増やすことも有効であると考えられた。受講学生同士の意見を聞くことで、より理解が深まることが考えられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

授業の到達目標は達成されたと考えられた。次年度以降も、受講学生の人数や動機、学習したい内容（ニーズ）に配慮しながら、事例検討や事例検討を通じたディスカッションの機会を積極的に設けていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学	1	後期	選択	いいえ	55

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①今年度は、講義形式がオンラインから対面に戻った。学生の講義姿勢・状況をよく把握しながら講義を進めた。</p> <p>②講義については、感染症の基礎知識を固め、特に学校現場や福祉施設に必要な内容をピックアップし講義を行った。また、具体的な事例をもとに理解しやすい言葉を使い説明するよう心がけた。</p> <p>③講義内容の理解度を上げるために、教科書で説明しスライドを見せる、逆にスライドをみせて教科書でまとめる、と2パターンを使い分け講義を進めた。</p> <p>④早期からの復習を促し学生が自学できるように、ポイントの整理として重要項目をclassroomにアップした。</p> <p>⑤授業中に小テストを実施している。試験後には必ず解説を行い、classroomを使い個別に成績のフィードバックを行なった。それに併せて質問を受けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①総合評価の平均値は65点であり、再試対象者は12名だった。うち10名が受験し8名が合格した。60点以上の学生が76%、70点以上の標準レベルが45%、80点以上の理想的レベルの学生が20%であった。また、小テストの平均得点は12/20点だった。対面での講義に戻り、昨年に比較し標準レベルに達した学生の割合は低かった。</p> <p>②自由記述から「小テストの勉強をした、ポイント整理をした、振り返りのためノートを作成した」など主体的に学習に取り組む姿勢を認める一方、「何をしたらいいかわからない、時間がない」などの記載があった。</p> <p>③学生の自己点検評価値は、「知識を確認し新たに得ることができた4.6」、「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた4.6」「専門分野について学びたいと意欲をもつことができた4.5」、「自分なりの目標を達成した4.2」であった。</p> <p>④学習量については、1回に30分以上の予・復習を4、5回以上かけた学生が51～54%いた。一方、0～1回の学生は11～19%で、この学習量の割合は、ほぼ再試験受験者の割合と同様であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性
養護教諭免許取得に必要な必須科目として、また、福祉・医療の現場に必要な感染症基礎知識を身につけるうえで、CPの位置付けからみた講義内容は妥当であると考ええる。学生の到達度自己評価「職業選択の参考になった4.4」からも講義内容は適切だったと思われる。

②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性
養護教諭採用試験や福祉・医療現場で役立つ知識の修得を目指しており、上記に記載した学生の知識到達度からみても内容は妥当であったと考える。

③まとめ
以上、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考ええる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の授業の質評価は、「テストなどの評価基準の明確さ4.6、学習範囲の明確さ4.6、説明の理解しやすさ4.5」、「質問を受け、答える機会を作る4.6」であった。授業改善により到達度自己評価や授業の質評価に学生から一定の評価が得られているため次年度もこれらの講義改善を継続し行う。学生の自由意見に「復習の時間があり理解を深めやすかった」、「興味深い内容で難しかったが楽しかった」、「レジュメと教科書で教えてもらいわかりやすく理解が高まった」などの意見があった。

②図書館の図書・雑誌利用率は24%、学術データベースの利用率は87%であった。図書館を利用し感染症・解剖学教科書などを利用したとの学生の自由記述からも提示したポイント整理は、主体的学習を促す意味で効果があったと考えられる。

③主体的に取り組む学生の姿勢には、かなり差が認められる。自主学習が少ない学生のモチベーションをいかに上げていくが課題である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

・専門教育科目、教員免許資格に関わる科目として、将来の就職現場に必要な知識を修得し理解するという目標は、やや達成できたと思われる。しかし、学生間の学習姿勢・学習量にはかなり開きがある。

・次年度も今年度の授業改善を継続し行なう。加えて、教育の質を担保しつつ、将来の就職現場において、この科目がどのような役割を果たすのかをイメージできるように事例などを展開し、学生の学習に対するモチベーションアップを図りたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養学	2	後期	選択	はい	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回はアンケートの回答率が14/46(30%)と低かった。</p> <p>①「栄養学」は、福祉に従事する立場から健康・栄養の大切さへの理解を深める科目であり、養護教諭一種免許状取得に必要な必須科目である。受講動機の「資格取得に必要である(64.3%)」であるのは当然の結果であり、むしろ低い。「関心のある内容である」が約36%であり、養護教諭として学童や思春期の子供たちの食に興味をもつ学生も40%程度いることがわかった、この結果は昨年度よりも10%程度高かった。</p> <p>②講義形式は、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説するようにした。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は46名の受講生中、A(秀)が35名(76.1%)ととても高く、B(優)が17.4%であり、C(良)が4.3%であった、D(可)が2.2%であった、不可の学生はゼロであった。受講生の約93%が理想的レベルに至っており、全受講生が標準的レベル以上であった。昨年度は試験が遠隔であり、高得点の結果となったが、今年度は対面試験にもかかわらず昨年度よりも高得点の学生が多かった。よって講義内容は妥当と評価し、実施していく。また学習到達度の自己評価においては、講義への関心の高さがうかがえ、この科目を「的確に判断する力を得ることができた」、「学びを深めたいという意欲を持つことができた」、「さまざまな課題を検討する力を得ることが出来た」との回答が多かった。これらの評価結果から今年度のこの科目のDPの達成は「やや達成された」と回答する。学習量の評価では、約21%の学生が予習および復習を一度もしていないかった。専門分野以外の科目ということもあるため、予習復習を促すことはするが、主に自主性に任せるようにしたい。</p>
---	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、養護教諭一種免許状取得のための必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である：42.9%」「資格取得に必要である：64.3%」なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度からは、資格取得に必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価では、約21%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は57%であった。講義初回時にシラバスの説明をしており、このシラバスを参考にしながら、講義を受講できたものと思われる。今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していき、常にシラバスを参考にするように促していく。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す予定である。だが、上記にも記載したように、福祉学科の学生にとっては専門科目外の科目であるため、予習復習時間に関しては、自主性に任せる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の位置づけは、養護教諭免許状の必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価から、概ね全てのDPを達成できたものと考えている。今後も学生の学修レベルの把握を行いながら講義を展開していくことを考える。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。授業評価では、担当教員に対し、栄養学に興味を持つことができた、講義がわかりやすかったと良い評価を得ることも出来た。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生理学	2	後期	選択	いいえ	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>生理学は、細胞の機能から生命体の維持の基本となる主要臓器の働きについて学ぶ学問である。福祉学科、特に養護教諭を目指す学生にとっては必要な科目であることから、内臓機能や神経系の働きについて理解することに重点を置いた。高等学校で学んだ生物基礎の知識をもとに、対象を認識するための感覚器の働き、中枢での情報の統合、運動神経による骨格筋の制御の仕組みなど、基本的な事柄が理解できるように努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本試験の合格者は46名中41名で再試験者は5名であり、再試験の結果1名が再履修となった。残りの4名は再試験を受験し合格した。最終成績の平均点は68.07±6.6点であり、標準的なレベル（概ね70点以上）にほぼ到達していると考えられる。標準的なレベル（概ね70点以上）は19名おり、そのうち理想的なレベル（概ね80点以上）が2名いた。来年度は、平均点が標準的なレベル（平均点が70点以上）を超えるよう、工夫したい。</p> <p>到達度自己評価のすべての項目において、「少しそうでないと思う」以下の否定的な意見が1割程度あったが、平均値が3.4-4.0、中央値は「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が3.0であったがそのほかの項目の中央値が4.0であったことをみると、本科目で意図した教育目標はほぼ達成できたと言える。</p> <p>評価は課題の提出をもって行ったが、ほとんどの学生が大変まじめに取り組んでおり、真摯な態度がうかがい知れた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、社会福祉士国家試験の中の「体の構造と機能及び疾病」において必要な生理学分野の科目である。受講生の約6割が資格取得を目指して受講を決めている。カリキュラムマップの中では、「解剖学」、「医学総論」などと連携して、人体の構造と機能と疾病の成り立ちについての正しい知識を身につけるための科目である。

近年の教員採用試験問題は、難易度の高い設問も含まれており、本科目の授業内容では不十分な点もあるかと考える。時間数が限られる中で、採用試験問題のレベルに合致した授業内容となるよう、創意工夫が必要と考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義で使用したスライドや資料は全てPDFとしてclassroomにて学生に配布した。これらの資料はほとんどが教科書から抜粋しており、教科書を読み進めるために必要なエッセンスを書き出している。つまり、自宅での復習や次回の予習に役立てられるよう配慮したつもりである。しかしながら、予習・復習を全く行わなかった学生が1/3程度おり、反省すべき点である。またインターネットの利用など半数以上の学生が行っていなかったことから、周知が足りなかったと考えている。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

限られた時間内に、人体のすべての臓器について基本的事項を習得することは不可能である。生理学で学ぶ事象については、身近な現象や病態などをできるだけ多く例示したつもりであるが、必ずしも学生にとって理解できる内容ではなかったのかもしれない。しかしながら、今年度は受講態度も課題の取り組み方も大変よく、講義をしやすかった。

今後の課題としては、より丁寧な説明を行い、教科書全ての項目を網羅しようとするのではなく、学生に興味を持ってもらえるような事例をもっと多く提示する必要があると考えている。次年度は、2年前期で開講される「解剖学」と連携し、大まかな一連の流れを示しながら、個々の講義の位置づけを伝えられるよう努力したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動処方論	3	後期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>今回の受講動機をみると、3名全員が「関心のある内容である」と答え、2名が「単位を確保する」と答えていた。</p> <p>授業においては、1年次の「運動と健康」の内容を振り返ることで、健康に関する正しい理解を促すと同時に、高齢者、妊婦、および子どもに適した運動（遊び）のプログラムの作成方法について具体的に説明を行った。</p> <p>毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された		

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>履修者10名の最終的な成績の平均値は77.4（±12.0）点であり、90点以上が3名（30.0%）、89～80点が2名（20.0%）、79～70点が2名（20.0%）、69～60点が3名（30.0%）であり、受講者全員が標準的レベル達しており、50%が理想的なレベルに達していた。</p> <p>授業評価アンケートに回答した5名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が1名、「まあまあと思う」が3名、であり、全員が肯定的に捉えていた（平均値3.5）。</p> <p>「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が3名と2名、「わりにそうだと思う」が1名と1名、「まあまあそうだと思う」が1名（質問項目3のみ）であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値4.3～4.8）。</p> <p>「技能・表現（DP5）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目7と8）についても、「かなりそうだと思う」が1名と1名、「まあまあそうだと思う」が3名と3名であり、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.5～3.8）。</p>
--	--

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

専門教育科目の「保健・医療関係科目」に含まれる科目である。授業では高齢者、妊婦、子どもそれぞれの特徴を理解させた上で、それぞれに適した運動（遊び）プログラムの作成方法について具体的に解説を行った。「知識・理解（DP1）」、「思考・判断（DP2）」および「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価は、平均値が3.5～4.8であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。

学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生の割合は、2,3回が1名、1回が1名、0回が2名%であった。1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、6回が1名、4,5回が1名、2,3回が1名、0回が1名であった。

また授業課題以外の学習については、4名の学生の取り組んでいなかった。学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

目標は概ね達成できたと考える。

今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	樋口 善之

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域保健学Ⅰ	3	後期	選択	いいえ	38

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の実施にあたっては、本科目が養護教諭コースを希望する学生が受講していることから、地域保健の仕組みや実践活動の具体例など、養護教諭として知っておくべき基本的内容を網羅することに努めた。また、授業の準備性を高めるため、適宜、学校保健との関連性について説明を加えた。学修準備性については、おおむね良好であった。課題以外の学習に取り組みなかった者もみられたが、(30分以上の予習が0回の者が7/18、30分以上の復習が0回の者が5/18)、昨年度よりは向上していた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、養護教諭の実践力の育成に関連する科目であり、知識理解に重点を置いた。学習到達度の自己評価として、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値は4.4であり、知識理解は達成できたと考える。また、思考判断・意欲関心についても「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」が4.5点、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」が4.4点であった。両方とも昨年度よりも良い評価であった。</p> <p>昨年度に比較して、技能表現については良い評価であった。講義形式であったが「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.3点、「コミュニケーション能力や表現力を高めることができた」が4.3点と他の項目に比べて若干低くなっていたものの概ね満足できる結果であると考ええる。</p> <p>最終的な成績の平均点は76.0点となり、到達度としては若干残念な結果であったと考える。授業の予習復習や課題への課題については取り組む姿勢が見られたが、最終評価自体は昨年度よりも低いものとなった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

カリキュラムとして、本科目は養護教諭を希望する学生が受講する選択科目であり、専門教育科目として位置づけられている。学校保健の実践者になる上で必要な関連知識を学ぶ位置づけであることから、講義の内容としては、基礎的な知識の修得と意欲の醸成に重点を置き、成績評価としては学校保健との関連づけた内容理解を問うレポート課題をとり、地域保健に関する基礎的知識と共に、養護教諭を目指すうえで自己の考えを述べる設問内容としている。カリキュラムの位置づけとしての内容的妥当性に問題は無いと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、より学校保健との関連性についての説明を適宜加えていくことが学修意欲を高めることにつながると考える。公衆衛生学や地域保健に関する高度な内容の解説よりも、学校保健との関連性から地域保健に関する施策や実態、取り組みの背景や課題などを考えることによって、知識だけでなく、将来の養護教諭として活躍するための積極的な主体的学びにつながると考える。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

総合的評価として、概ね良好であったと思われる。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
看護学	2	後期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要なものである」78.9%、「必須科目である」57.9%、「関心のある内容である」31.6%であった。これらのことから、講義を通して基礎的な知識が定着できるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。</p> <p>②授業では、養護教諭に必要な看護理論について基礎を学び、その定着を図るために解剖生理学の復習を取り入れながら授業をおこなった。また、学校現場において実践に生かすことができるように、児童生徒に多い疾患についてグループワークを取り入れた。さらに、学校現場における養護教諭に必要な看護の知識をわかりやすく解説することに心がけ、意欲関心が高まるよう授業内容の改善に心がけた。授業では、classroomに事前に資料を掲載し、学生が事前学習をして授業に取り組むことができるように心がけた。自由記述では、「教科書で復習をした」、「講義資料を用いて復習をした」、「講義内で疑問に思ったり、興味を持った内容についてすぐに調べて理解した」などの意見がみられ意欲的に学習に取り組んでいる様子うかがえた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な平均値は75.0点（±8.8）であった。理想的レベル（80点以上）14名であった。</p> <p>目標別の達成度は知識・理解に関しては、75.0%、思考・判断75.0%、意欲・関心74.0%、態度75.0%であった。知識・理解では、基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。</p> <p>学生の授業評価においては思考・判断において、自分が学ぼうとしている専門分野において課題を検討する力を得ることができた（平均値4.5中央値5.0）、関心・意欲において、自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.5中央値5.0）であった。また、職業選択の参考になった（平均値4.7中央値5.0）であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状を取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。受講動機としては、「資格取得に必要である」78.9%、「必須科目である」57.9%、「関心のある内容である」31.6%であった。学生の授業評価においては、知識・理解において、知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(平均値4.5中央値5.0) また、関心・意欲においては、自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた(平均値4.5中央値5.0)と答えている。また、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。</p> <p>②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て最終の平均値は高かった。さらに基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業に取り組んだこととして、授業内容をもとに提出した課題や授業の復習に真摯に取り組んでいた。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>養護教諭として学校現場で、救急処置等実践できるような基礎的知識と実践力を身につけることができるように授業内容を工夫していきたい。また、オリエンテーションの際に授業について丁寧に説明を行い、課題について自分の目標が達成できるように目標シートを提示し、自己評価を提出させ、学生の課題への取り組みへの振り返りに役立てた。自由記述では、課題以外に取り組んだこととして、「授業内容をノートのまとめた」、「計算問題等気になったところを調べた」、「わからないところは自分なりに調べた」など熱心に授業に取り組んでいる意見があった。また、「(授業内容について)分かりやすかった」という意見があり、今後も分かりやすく丁寧な授業内容を工夫していきたい。</p>
---	--

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総合的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では医学的な知識を持った専門職として臨機応変な対応が求められる。基礎的な知識を定着させ、学んだ知識をさらに活用し、実践力が身につくような授業構造に取り組んでいきたい。また今後もclassroomを活用し、授業の予習や復習に学習に役立つような資料を提供していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生命倫理	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年次の選択科目であり、「保健・医療関係科目」として位置づけられている。したがって学生の受講動機を見てみると、「関心のある内容である」が100%、「単位数を確保する」が50%であった。人を支援する専門職をめざす学生にとって、生老病死をめぐって社会で生じている現代的な課題への理解を深め、これらの課題に直面した際の考え方や態度を養っておくことは重要である。そのため学生が比較的身近に感じられるテーマとして、出産にかかわる生殖補助医療や出生前診断、親の介護等にかかわる安楽死、尊厳死などを取り上げ、生命倫理の課題に対して学生ができるだけ関心を持ち、考えられることに重点を置き、授業を展開した。またDVDなどの視聴覚教材を通して課題をイメージ化することや、グループ討議を通してそれぞれの価値観の違いをふまえて考えを深めていけるように工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は90点、中央値は94点、A評価が75.0%、D評価が12.5%であり、優秀な成績であった。学生の自己評価をみてみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値4.8、中央値5.0であった。知識理解についての評価は、平均値4.8、中央値5.0、思考判断については、平均値4.3-4.8、中央値4.5-5.0、意欲関心は平均値4.5、中央値5.0、態度は平均値4.5、中央値5.0であり、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。したがって教育目標は達成されたと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は「保健・医療関係科目」として位置づけられている。4. に記載したような成績、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

4. に記したように成績、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業の質評価については、平均値4.3-4.5、中央値4.5-5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから授業の進め方については問題がなかったと考える。

学習量の評価を見てみると、予習、復習、自発的学習に取り組んだ学生はいなかった。学生の自由記述を見てみると、「授業内で理解できた」との回答が多くみられた。講義を通してさらに学生の関心意欲を高め、自発的学習を促せるような工夫が必要である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

6. に記したように、講義を通してさらに学生の意欲関心を高め、自発的学習を促していく工夫が必要である。また、講義履修者8名に対し、授業評価アンケートに回答した学生は4名であった。アンケートの回収率をあげられるよう、学生へ促していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育原理	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○学生にとってわかりにくい授業のひとつであり、授業において教育を本質・文化・制度など多面的に理解するためのフックを工夫した。</p> <p>○保育に携わる者にとって教育の意味をイメージできるようつとめた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		どちらともいえない		
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○ (本年度) : 平均点74.2点。秀0名 (0.0%)、優2名 (33.3%)、良3名 (50.0%)、可1名 (16.7%)、不可0名 (0.0%)。SD7.36。</p> <p>○ (昨年度) : 平均点81.0点。秀2名 (16.7%)、優5名 (41.7%)、良4名 (33.3%)、可1名 (8.3%)、不可0名 (0.0%)。SD7.05。</p> <p>○平均点は低下し、良を中心にと優・可にまとまって分布した。昨年度の二極化は解消した。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○DP、CP、カリキュラムマップ上では子ども家庭福祉コースに必要なものとして位置づけられており、内容妥当性について問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○授業ごとに取り扱う内容をコンパクトにしたテキストを用いたが、学習内容に抽象的なものが多いと多く、その解説に時間を取られてしまった。

○高校時代の世界史の知識を活用できる資料を作成し、社会や文化と教育の関連を具体的資料や事例を通じて理解できるよう工夫した。

○報告書など調査データを一緒に読み取りながら意味を解説し、現代の教育の現状と課題を結びつける工夫を行った。グラフの読み取りなどを丁寧に行ったが、学生の興味関心はおそらく低かったと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○昨年度と比較して全体的な理解度のばらつきが小さくなったが、平均点が低下しており、全体的な動機づけに問題があると感じた。

○課題としては興味のある事例が写真資料や歴史的解説を充実させた範囲に集中する傾向があり、資料の読み取りのような数値を通じた理解の領域への反応が今一つであった。

○イラストのように模式化された教育制度図を解説すると、ある程度興味を持ったようだった。なるべく多様な教材を使うようにしているが、テーマやおそらく教材の種類（イラスト、写真、具体的エピソードなどには反応する）による差が大きい。抽象的概念への興味・理解を高めたい。

○本授業だけでなく、様々な機会に資料活用や理解を促す経験を充実させる必要を感じた。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	西崎 亜紀子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子どもの食と栄養	3	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>子どもたちの食生活は、生涯にわたり心身の健康に大きく影響することが明らかにされている。</p> <p>受講動機をみると「必修科目である」80%、「資格取得に必要である」56.3%と多いが、講義、演習ともに「関心のある内容」は3割を満たしておらず、単位取得のため、友人が履修しているとの回答もある。これを機に食生活に興味をもち、栄養学の重要性を感じ、まずは、自分自身の健康管理ができること、また毎日の食事が乳幼児のからだの成長を支える場となる事を理解することを重点とした。</p> <p>食品学や栄養学、調理学など基礎知識を身につけ、自ら、バランスの良い食事をとることができる等健康な食生活を実践し、子どもに食の大切さを伝え、家庭や社会への食育支援ができるようにした。</p> <p>時折、復習や確認チェックを行い、学習状況を確認した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は90.8点であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達していた。</p> <p>実習以外でも離乳食を作った等の意見もあり、乳幼児の食事について日ごろから意識していると考えられる。レポートにおいてもそれぞれ異なるテーマを選び、内容もよくまとめられ、理解していると考えられた。</p> <p>また、授業の中でのグループワークや発表も積極的に行われていた。</p> <p>授業で学んだことをどのように実践していくか、さまざまな場合、場面をイメージする力をどのように獲得していくかという点を課題と捉え、次年度にむけて検討したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

DRDPSカリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

国家試験に備え、現場で活かせるものとして、講義、演習を行った。

学生はグループワーク等に積極的に参加し、課題も十分理解し、応え、一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、休講による講義、演習の日程変更があったが、口頭だけではなく、インターネットの共同授業（クラスルーム）や、メールも活用できるように改善を図りたい。

また、講義の中でも学生の話し合う時間、参加できる時間を今よりも取り入れるように改善を図りたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業過程を振り返ってみたとき、事例を検討する時間をとることができたが、発表する等の時間があまりとれなかった。

講義においては『コミュニケーション力や表現力を高めることができた』が3.7と他の項目に比べると低く、授業の記録をとっていない者もいたので配布資料、内容を再考したい。また、図書館の利用も多くないので改善を図りたい。

以上のことから、毎回のねらいを具体的に示す、可能な限り考える時間をとる、予習・復習課題を意識的に提示する、発表の場を設けることなどを加えていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 総論	3	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目である。とはいえ、3年後期ということで、専門科目も学習してきており、1回目の保育所実習も終了後となるため、具体性の高い内容を設定し、今年度は、実施に保育現場にも行って演習を行なった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」からも、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。保育現場での演習のための準備においても、概ね全ての学生が積極的に取り組んでおり、「資格取得に必要な科目」でありながら、意欲関心が非常に高く、主体的な学びの様子が確認された。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

保育士資格取得のための必須科目であり、保育内容におけるまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であるとする。また、保育内容の各論を踏まえ実習後に総合的に保育内容について理解する科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

他科目との関連から、課題量が負担になると言う意見が多く、一つの課題にかける時間を増やす代わりに、学外演習を取り入れる等、内容を深めたが、学生の取り組み、成績評価から、一定の成果があったと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 健康	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であったが、意欲的に学ぼうとする姿が見られた。そのため、講義形式で知識の伝達等に留まらず、演習の中で専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子には開講まで正確に把握することはできないため授業内での学生の興味・関心や技能・経験を把握することに努め、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を遠隔で行い、机上の知識とならないよう配慮した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された		達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>学生の「達成度自己評価」については概ね達成できたと考えている。しかし、成績評価から全員が目標を達成したとは言えず、「やや達成された」とした。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性についても個人によって意欲・能力に差異があり、教員側が期待する学習量を満たす学生は一部のみの学生に限られた。資格取得のための科目ではあるが、学生が主体的に授業に参加したと思える割合を増やすことで意欲を持って授業に臨めるようになった学生も少なくなく、全体としての目標達成度は達成された部分が多い。</p>					
*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標>						
「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、DPの知識理解、技能表現に合致するものであり、CP、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

一部成績下位の学生については、学習方法が明確でないこと習慣が身につけていない学生が一部存在すると考える。これらの学生に対しては、さらに具体的な学習方法の提示や、課題に対するアセスメントを行いながら、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であると考える一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標にしている本科目で、成績評価と学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと考える。一方で、授業内容や授業スケジュールなど、学生にとって見通しを持って学習ができるように情報の提示の仕方を工夫する必要がある。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容 ことば	1	後期	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保育士資格取得のための必須科目であり、全ての学生の動機がそれに該当科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価結果から全体的な教育目標は達成できたと考える。学生の「到達度自己評価」から、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連DPについては妥当であると考えている。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の表現技術について教授した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
障害児保育	3	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前期後期をとおして学生に課題を提示し発表や討議等を実施した。受講者は少人数であるため一部の学生の授業参加度の低さが目立った。授業中に注意し参加を促したが、授業内容の理解がうまくいっておらずその後の参加度もかえりがみられなかった。他方予習復習と十分な準備をして参加している学生もあり理解度等には大きなバラツキがあった。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	授業での発表や討議の状況、提出物、レポート等で評価したが、上述のように学生間のバラツキが大きかった。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的な妥当性はあると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

少人数の授業であるので、学生間の意思疎通が比較的良いと思われたが、一部の学生間ではうまくできていないことがあり、コミュニケーションに困難を持つ学生が参加する共同授業であり、少し配慮を要した。このことは当初から把握していたが学生の自発性に任せた。一部不満が残ったかもしれない。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

少人数授業であるため平均的にはある程度学習の効果があつたが、問題意識や思考等を見ると大きなバラツキは否めない。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅰ	3	通年	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保育士資格取得のための必須科目であり、ほぼ全ての学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。</p> <p>学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	成績評価から、全体的な教育目標はやや達成できたと考える。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>実習の準備に関わる科目のため、授業内容、進行については大きな変更は困難であるが、説明についてより詳しくする必要があると考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進行した。講義だけでは、学生の理解に差が出るため、学習進度に合わせて授業時間外に個別に対応し、全体の授業進行を均一に保った。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。学生の学力差に対する対応が今後の課題である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅱ	4	通年	選択	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保育士資格取得のための必須科目であり、全学生の動機がそれに該当する。基本的には保育士資格取得希望者のみを受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うというよりは、必然的に受講している科目である。</p> <p>学生の受講動機に関わらず、保育実習に行くための準備科目であるため、社会人としての基礎的なマナーから実習に必要な書類作成、実習の心がけ、基本的な保育技術について教授する準備を整えた。また、2度目の保育所実習ということで、1回目の実習を踏まえて、各個人について必要な保育技術についても事前に聞き取りを行い準備した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の「到達度自己評価」において全受講生が目標を達したと回答しており、学生の主観的な達成度も概ね高いと考える。また、実習後の保育所からの評価についても全学生とも標準以上の評価であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

保育士資格取得のための必須科目であり、学内の学びを総合的に実践の場で学ぶ機会であるため、上級学年での開講の必要がある。その点を踏まえて、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実習に行くために必要な知識・技術を身に着けるための科目であるため、必要な教授内容を系統的に配置し、進行した。特に2回目の保育所実習であることから、高い保育技術を教授できるよう、全受講学生のニーズに個別に合わせ2名の教員で授業時間外にも個別に対応した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

実習先からの評価、成績評価から概ね教育目標は達成できていると考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実習指導Ⅲ	4	通年	選択		7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は保育士養成科目の一つであり、「保育実習Ⅲ」の事前指導、事後指導、スーパービジョンを行うものである。実習前指導においては、実習で求められる専門的知識・技術の確認と実習課題の明確化をはかり、実習中のスーパービジョンと事後指導においては、実践と理論の統合化を学生の主体的な学びと気づきの中から達成できるようスーパービジョンを行い、保育士として求められる総合的に対応することのできる力の涵養に努めた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>履修学生数に対して授業評価アンケートに回答した学生の数は少なく、DP1～5に関連する達成度自己評価においてはすべての項目で「わりにそうだと思う」との回答が50%、「まあまあそうだと思う」50%であった。新型コロナウイルス感染予防のため、さまざまな制限がある中での保育実習Ⅲの実施となったが、学生一人一人が熱心に事前学習に取り組み、実習先からも高い評価をいただいて実習を終えることができた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP:行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記述したように、学生の到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。</p> <p>②CP:カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は「保育実習Ⅲ」と連動して展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、事前学習、学びの整理を行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>新型コロナウイルス感染予防の観点から、さまざまな制限がある中での保育実習Ⅲの実施となったが、感染症予防に細心の注意をはらいつつ生活の維持向上、生命の保持のための支援実践されている児童福祉施設において実習を受け入れていただけたこと、子どもとの関わりが制限される部分を補うために実習施設側が様々な準備や工夫をしてくださったことにより、多くの貴重な体験と学びを得ることができた。このような状況下での実習にあたり、学生一人一人が事前学習に取り組み実習に臨んだが、卒業後も学び続けながら知識と技術を高めていく専門家であるために、本科目においては主体的に事前学習に取り組み、実習後も学びの総括として十分に振り返りを行えるよう、学びの支援に力を注いでいきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、主体的学習態度の形成において、さらなる取り組みが必要であると考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育実践演習	4	通年	選択	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保育士資格取得のための必須科目であり、履修者全員資格取得を目指している。基本的には保育士資格取得希望者のみが受講可能な科目であり、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。</p> <p>上記を踏まえ、保育士として勤務するに当たり必要となる実践的な知識・技術を演習形式でロールプレイを通して経験し、身に付けることが出来るよう、多様な演習内容を準備した。具体的には、5つの異なる演習の計画・実行・反省を通して、学修が進むように授業を進めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	到達度自己評価において全ての学生が達成されたと答えており、成績もそれを反映するものであった。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

保育士資格取得のための必須科目であり、4年間のまとめとなる科目のため、関連DPについては妥当であると考えます。また、4年間の学習後に総合的に保育実践力を身に付ける科目として位置付けていることから、CP、カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業への取り組み、授業内のディスカッションの内容、各演習の実施、振り返り、成績評価を踏まえて、授業の進め方は概ね問題ないと考えます。各演習課題の準備について準備時間が不足するという学生の意見については、準備時間は必要に応じて設けているにも関わらず、取り組みが遅く、直前で時間が足りていない様子が見受けられるため、準備期間中に継続的に課題に取り組むよう促し、適宜サポートする必要があると考えています。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考えます。授業進行については、継続的な課題への取り組みの促しとサポートが必要であると考えます。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	はい	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は「必修科目である」が100%である、アンケートに回答した者が極少数であったが、学生たちに3年次から4年次にかけてゼミ進行予定を渡し行ってきた。自らが研究領域、テーマを3年次最後に決め、主体的、積極的に研究の成果をまとめるよう指示した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	極少数の回答であったが、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力をうる事ができた」に回答するものがいたことは評価できる。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「到達度自己評価」にもあるように「自分なりの目標を達した」とする学生の意見は評価できる。今後も学生の主体性に任せることにしたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

卒業研究を各自のテーマで取り組ませ、図書館、インターネットなどを活用するよう指導したが、インターネットを活用することが主になっていた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

卒業研究のテーマは各自の主体的な考えからのものであった。専門職に就いた者、一般企業に就職した者といったが、それぞれが自らの取り組みで将来の方向性へと進んだことは学生の努力の成果だと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	18

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いている。ゼミで、司法施設や福祉施設のWebでの見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会のWeb研修会にも積極的に参加した。本ゼミを選択するに当たり、事前に全員と面談を行い、趣旨説明やゼミの学習内容を説明した。Webでの外部活動を行ったら、必ず振り返りを行い、レポートにまとさせた。更には、4年次につながる様に、最終的に卒業研究である「ゼミ論」のテーマの選定が行えるよう、アドバイスを行った。</p> <p>なお、学生からの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対するモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標から見た見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

昨年度及び一昨年度は、学術データベースの利用に関して殆どなされてない状況であったので、卒業研究にもかかわる重要事項でもあり、利用の仕方からのインフォメーションを行った。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。最終学年になることも考慮して、時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多く、精神保健福祉士養成レーンの学生が18名であった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授し、メンタルヘルスに関する内容も教授した。次年度には専門研究Ⅱが設定されているので、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、実践現場のWebでの見学を行ったので、現状と課題を追求できるように、さらなる内容を吟味していく必要があると感じた。次年度は予習復習に関しても、引き続き具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○上級生の専門研究Ⅱとの連携が困難であるため、卒業生の情報提供などそれをカバーすることを意識した。</p> <p>○全員が教職課程履修者であり、教育現場での実践力養成の観点から準備された。</p> <p>○各自の興味関心に沿ったテーマ設定などから導入した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>○コロナの影響がある程度見られた。</p> <p>○全員が教職課程履修者であり、教育現場での実践力養成の観点から準備された。</p> <p>○全員が養護教諭を目指す意欲を持って専門研究Ⅰに参加した。</p> <p>○人数が多いこともあるが、個人個人の活発な議論の展開が難しかった。一部の学生が積極的に発言すると、他の学生が遠慮しているようにも見受けられた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○DP、CP、カリキュラムマップ上に位置づけられた科目であり、内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○ほぼ全員が手探りでゼミを始め、毎回学習成果をまとめて発表することに少しずつ慣れていった。集団レベルでの積極性に差が見られた。一方で、個別の質問だと発言できる学生もいた。

○知識の整理や習得に学習が偏りがちで、養護教諭の具体的なイメージを固めることが不十分なケースも見られた。

○社会福祉士国家試験受験資格に伴うカリキュラムとの両立は負担が大きい。事前にそのことは知っていても、実際に授業や実習をこなすことが厳しい部分もあり、専門研究Ⅰの取り組みだけでなく、学科のカリキュラム全体で検討が必要だろう。

○意見や質問を促しても、誰も発言しない場面も多く見られた。人数が多いことも理由のひとつと考えられるが、専門ゼミⅡでは積極性を促したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○専門研究Ⅰを教職課程や福祉士カリキュラムと連動させながら、学生が学びたい内容と学問的研究手法や態度を両立できるよう、様々な企画を準備したい。また学生自身からのアイデアを積極的に募り、自分たちでゼミ運営をする意識を高めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	6

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生一人ひとりの興味関心のあることが異なり、学習準備性も不揃いであったため、共に学び合い教え合うことを通じて、学びの意欲を高めると同時に理解を深められるよう授業を進めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習の到達度自己評価においては、「知識を確認・修正したり、新たに得ることができた」「専門分野について学びを深めたいと意欲をもつことができた」において「かなりそうだと思う」33.3%、「わりにそうだと思う」66.6%、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「専門分野において的確に判断する力を得ることができた」「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」において、「わりにそうだと思う」66.6%、「まあまあそうだと思う」33.3%であった。教育目標は概ね達成されたと考え、学生自身がより「達成された」と実感できるようさらに改善に取り組む必要があると考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。学生の学ぶ意欲を引き出し、これまでの大学の授業で学んだ知識、理解を土台として、自身の専門領域における関心と学びを深めていくこと、主体的自発的に学ぼうとする態度を形成することによって、自立した専門職として自身をさらに向上させていく人となるうえで重要な科目と捉えている。本科目はDP,CP,カリキュラムマップにおける位置づけから見て内容的に妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価は平均値4.0～4.7であった。授業の進め方は概ね問題はなかったと捉えてよいと考える。今後も学生の学習意欲を高めること、主体的に学びを深める態度を形成することに取り組んでいきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目における教育目標は概ね達成されたと考えている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅰ	3	通年	必修	いいえ	19

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機としては、「必須科目である」90.0%、「関心のある科目である」40.0%の学生が答えている。</p> <p>専門研究では個人で設定したテーマやグループで設定したテーマをもとに演習形式で行った。オリエンテーションではお互いを知るために、他己紹介等のグループワークを取り入れた。さらに、個人の興味のあるテーマについてディスカッションを行い、各自がテーマを設定しテーマについて、プレゼンテーションを行い、その後そのテーマについてグループワークを行った。授業においては、グループワーク等を取り入れ積極的な意見交換を行い、自己の意見を発表したり、まとめたりする場面を保障するように心がけた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な平均値は83.0点(±7.5)であった。</p> <p>授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。</p> <p>学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.6中央値5.0）、また意欲・関心が高く、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.5中央値5.0）、コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.4中央値5.0）、職業選択の参考になった（平均値4.4 中央値4.5）と答えていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。

学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.6中央値5.0）、また意欲関心においては、コミュニケーション力や表現力を高めることができた（平均値4.4中央値5.0）と答えていた。

学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の学習量の評価においては、「興味があることを調べた」、「関連がある内容を調べた」、「教員採用試験対策」、「参考書などを買って勉強した」などして積極的に授業に取り組んだという意見があった。また、図書館での学習などを通して、学生が学習準備をしていた。本年度は学生が主体的に取り組めるような授業内容の工夫を行った。学生が学校現場の模擬遠足を計画し、実際に養護教諭として引率する場合の持参する救急薬品、模擬遠足体験における危険個所の把握など実際に模擬遠足を体験するなどの工夫を行った。

本科目を通して養護教諭として専門性を深めていけるよう、グループ討議、模擬体験などを取り入れ授業構造を改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目を通して養護教諭としての専門性を深め、学校現場において活躍できるような実践力を身につけることができるように授業工夫していきたい。学生の意見として「先生の養護教諭としての体験談を聞けてとてもよかったなと感じます」という意見があった。今後も実務家教員として、養護教諭としての実務経験を活かし講義内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究 II	4	通年	必修	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>この授業では、専門研究 I で学び、得た知識をもとに、学生自身がさらに興味関心をもったテーマを決定させ、それについて調べ、まとめさせた。</p> <p>学生各自がテーマに沿って調べてきた内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>履修者7名の最終的な成績の平均値は79.6 (±10.5) 点であった。成績分布別にみると、90点以上が1名、89～80点3名、79～70点が2名であり、69～60点が1名であり、全員が標準的レベルに達しており、57%の学生が理想的レベルに達していた。</p> <p>授業評価アンケートに回答した2名の学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が1名、「わりにそう思う」が1名であった。</p> <p>「知識・理解 (DP1)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）については、2名とも「かなりそうだと思う」あるいは「わりにそう思う」と答えており、肯定的に捉えていた（平均値4.5～5.0）。</p> <p>「思考・判断 (DP2)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目4と5）についても、「かなりそうだと思う」、「わりにそう思う」、「まあまあそうだと思う」のいずれかで答えており、肯定的に捉えていた（平均値4.0～4.5）。</p> <p>「意欲・関心 (DP3)」に関する学生の到達度自己評価（質問項目6）についても、「かなりそうだと思う」あるいは「わりにそう思う」と答えており、肯定的に捉えていた（平均値4.5）。</p> <p>その他、「技能・表現 (DP5)」（質問項目7と8）、「態度 (DP4)」（質問項目9）に関する学生の到達度自己評価については、「かなりそうだと思う」あるいは「まあまあそうだと思う」と答えており、肯定的に捉えていた（平均値4.0）。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

専門教育科目の「専門研究科目」に含まれる科目である。この授業では、専門研究Ⅰで学び、得た知識をもとに学生各自が設定したテーマに沿って調べ、その内容を定期的に提出させ、その進捗状況をチェックするとともに、内容についての改善ポイントなどコメントすることによって、研究レポートを作成させた。

すべてのDPおよび「全体を通して」に関する学生の到達度自己評価では、すべての学生が肯定的な回答を行っていた。これらのことから、本科目はDP、CP、カリキュラムマップの位置づけからみて内容的に妥当であると考ええる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価では、平均値が4.5～5.0であり、授業の進め方は良かったと考える。

学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習を行った学生は、6回が2名であった。また、1回30分程度以上の復習を行った学生の割合は、6回が1名、0回が1名であった。授業課題以外の学習に取り組んでいる学生はいなかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

目標は概ね達成できたと考える。

今後の課題としては、学生の興味関心をさらに高め、積極的に研究する姿勢を身に付けさせるために、具体策を考えることである。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	23

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>3年次からの引き続きで、社会福祉専門職を目指す学生、特段メンタルヘルス分野（精神保健福祉領域）に興味を持つ学生を対象としたゼミである。可能な限りリアリティを重視し、現場実践学を学ぶ機会の提供を行うことに重点を置いた。ゼミで、司法施設や福祉施設の見学を積極的に行ったり、社会福祉士会や精神保健福祉士協会のWeb研修会にも積極的に参加した。3年次に設定した、自分の卒業研究の課題を「ゼミ論」としてまとめさせ、それに伴う文献研究や実践現場でのインタビューや調査等の指導を行った。なお、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価については、全員合格領域に到達しており、理想的レベルには達成した。また、ゼミ論、参加意欲、態度、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全学生が80点以上であり、理想的レベルに達している。ゼミ論、レポート等の内容から、幅広く福祉全般の関連分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容的妥当性については、卒業するための必須科目であり、講義に対するモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、メンタルヘルスや障害福祉、医療福祉領域に興味がある学生が選択しているということで、高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、理想的な到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標から見た見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

前年度は、一昨年度と同様に、ゼミ論をまとめるために、学術データベースが、あまり利用がなされていない状況であったので、今年度はその活用方法を教授した。次年度も、利用の仕方からのインフォメーションを行うことを引き続き行いたい。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、時間が無いという回答が複数あった。就職活動や国家試験対策で時間を取るが多くなるということも考慮して、時間の作り方に関しても、引き続き指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

メンタルヘルスについて興味関心がある学生が多く、全員精神保健福祉士養成レーンの学生の受講であった。これまでの精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授した。卒業研究のゼミ論完成に向けて、それに引き継ぐような関連性を持って講義を行った。また、よりリアリティを習得できるように、一部Webではあったが実践現場の見学を行って、現状と課題を追求できるように指導できた。最終的には、全ゼミ生（24名）の就職が決定し、国家試験も良い結果を残せた。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
専門研究 II	4	通年	必修	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>専門研究Ⅰの継続として、前年度の各個人の課題を把握し、個に即した課題を準備した。個別の指導に加え、授業外学習の必要性が増すため、他の課題と時期が重ならないよう配慮した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>「到達度自己評価」は概ね高く、学生の自己評価としては、学習目標が達成されたと考える。成績評価も全受講生が良好な結果であったと考える。学習量や図書館、インターネットの利用も充分になされており、各学生が課題意識をもって臨んだと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

卒業のための必須科目であり、学内の学びを総合的に学び自己課題をもって研究を行う科目であるため、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけにおいては妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

各個人が研究課題を明確にもって臨んでいたため、個々に対して必要な課題提示を行った。

「授業の質の評価」や「学習量の評価」「図書館、インターネット利用」についても課題提示の際に誘発されるよう組んだため、それを反映した結果となっている。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

総合的に授業目的は概ね達成できたと考える。他の授業との兼ね合いから、極端に課題が重なる時期があったことから、他の授業も含めた学生の利用可能時間の年間を通した均一化が必要であると考えます。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
専門研究Ⅱ	4	通年	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機としては、「必須科目である」83.3%、「資格取得に必要な科目である」16.7%という結果であった。</p> <p>専門研究Ⅱでは専門研究Ⅰで取り組んだテーマをもとに個人で発表を行い、テーマについてグループワークを行った。さらに、そのテーマについて探索的に研究し、養護教諭としての専門性を高めるように講義内容を工夫した。昨年度、新型コロナウイルス感染症の流行により実施できなかった保健室訪問について、実際に学校現場に向き、現職の養護教諭による保健室経営についての講話、児童生徒対応について学びを深めることができた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な平均値85.4点(±7.3)であった。</p> <p>授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。</p> <p>学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.7中央値5.0）、また思考・判断、自分が学ぼうとしている専門分野において様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.5中央値4.5）、また、意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.7中央値5.0）と答えていた。さらに職業選択の参考になった（平均値4.8中央値5.0）と答えていた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業では興味のあるテーマについて個人が発表し、そのテーマについてグループ討議を行い、テーマの深化を図った。
学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.7中央値5.0）、また意欲・関心において自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができ（平均値4.7中央値5.0）、また、職業選択の参考になった（平均値4.8中央値5.0）と答えていた。
学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の学習量の評価について、「自分で気になったことを調べたり、学んだことを練習したりした」、「ゼミの内容で興味を持った内容や疑問に思ったことなどに関して専門書や論文を読んだ」などの意見があった。また、図書館も積極的に活用していた。また、学生の意見として「西丸ゼミに入って、養護教諭になりたい気持ちが高まったとともに、より専門的な知識を学びました。西丸ゼミで学ぶことができるとてもよかったです」、「みんな仲良く心地よい空間でした」などの意見があった。さらに学生が充実感や達成感を味わってもらえるような授業内容を工夫していきたい。
本科目を通して養護教諭としての専門性を深めていけるよう、グループ討議などを取り入れ授業構造を改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目を通して養護教諭としての専門性を深め、学校現場において活躍できるような実践力を身につけることができるように授業構造を改善していきたい。
また、学生の自主性を育てるために、学生が計画した模擬保健室での実技練習なども積極的に取り入れていきたい。

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
養護概説	2	後期	選択	いいえ	47

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては、「資格取得に必要である」76.5%、「必須科目である」52.9%、「関心のある科目である」29.4%である。</p> <p>これらのことから、授業では養護教諭の執務について、学校保健で学んだことを基礎にできるだけ具体例を示し、グループワークやロールプレイを取り入れ、関心意欲を高めるように心がけた。</p> <p>②本科目は学校保健の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基ついた養護活動の基本について学ぶ。学生は自身が児童生徒のときに会った養護教諭のイメージを持っている学生が多い。そのため、オリエンテーションでは自分自身が児童生徒だった時の養護教諭のイメージと理想の養護教諭像のグループワークを行い、授業に対する関心意欲を高めるように心がけた。講義内容は、養護教諭の職務内容をわかりやすく解説し、学校現場の実践に役立つように、具体的な事例を提示し、養護教諭の職務内容への理解と専門性について解説した。さらに、第14回では学生自身が養護教諭として保健室経営がイメージできるように理想の保健室のレイアウト保健室の掲示物を作成し、グループ発表を通して、養護教諭の執務がより具体的にイメージできるように工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された	達成された	達成された	達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な平均値75.0(±7.3)であった。理想的レベル(80点以上)は15名であった。</p> <p>目標別の到達度は、知識・理解に関しては77.0%、思考・判断75.0%、関心・意欲76.0%であった。基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な知識の定着を確認しつつ、グループワークなどを通して応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。</p> <p>学生の授業評価においては知識・理解において、知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(平均値4.4中央値5.0)、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた(平均値4.4中央値5.0)また、関心意欲においては、自分が学ぼうとしている専門分野について学びを深めたいと意欲を持つことができた(平均値4.5中央値5.0)であった。</p> <p>次年度に向けて、基礎的な知識を活用し応用問題に対応できるように復習問題などの課題を取り入れていきたい。さらに、発展的に課題を解決していく力を身につけることができるように授業内容を工夫していきたい。課題以外に取り組んだこととして、「関連の資料等を読んだ」、「授業で習ったことを調べた」、「本を読んだ、試験問題を解いた」など意欲的に学習に取り組んでいた。</p>					
*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
<授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状を取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。 受講動機としては「資格取得に必要である」76.5%、「必須科目である」52.9%であった。 また、学生の授業評価においては知識・理解において、知識を確認したり、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.4中央値5.0）、また、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた（平均値4.5中央値5.0）、職業選択の参考になった（平均値4.6中央値5.0）と答えている。学生も一定の成績を取めていることから、内容的には妥当と考える。</p> <p>②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て知識・理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適應するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業以外に取り組んだこととして、授業内容をもとにレジュメを活用し、予習や復習に取り組んでいた。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の授業評価においては、「採用試験の過去問を解いた」、「自分なりのノートを作成した」、「わからないところをインターネット等で調べた」という意見があり、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえた。 模擬保健室を活用し、実技試験の練習や病院実習に向けてのバイタルサイン測定などの練習を実施することができた。また、学生が自主的に教員採用試験等の演習に活用し、採用試験対策に効果を上げることができた。 さらに授業では、学校現場で臨機応変に対応できるような実践力を身につけることができるように、グループワークなどを取り入れ、コミュニケーション力や表現力を身につけることができるように、授業内容を工夫していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、養護教諭は学校現場において、臨機応変に対応することが求められる。基礎的な知識を定着させ、さらに活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。今後もclassroomに資料を提示し、学生が事前学習や復習に役立てることができるように活用していきたい。また、グループワークなどを取り入れ、積極的な意見交換ができるよう学生の要望に応じていきたい。 さらに、授業内容について基礎的な知識の定着を図るとともに、復習課題を提示し、応用力の養成にも取り組んでいきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	山根 正夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会的養護Ⅱ	3	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>演習授業であり、発表や討議等の準備性は概ね良好であった。</p>
---	-------------------------------------

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>事前の準備をし授業に参加する形態で授業を展開した。事前準備については大方の学生はよく準備して参加していたことは評価できる。また討議についても大方の学生は内容が拡散せずに議論してまとめていた。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

内容の妥当性はある。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

課題が多い中、準備して授業に臨んでいた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

他の授業等を含めて課題が多い中よく準備して参加していた。知識技能は勿論であるが、社会事象をどのように捉え、自分なりに考えていくかが求められる科目であった。大方の学生は社会事象の多様な捉え方について理解が深まったのではないかと考えられる。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子どもの保健	1	後期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であるという結果であった。</p> <p>そのため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の「達成度自己評価」については概ね達成できたと考えているが、成績評価から全員が目標を達成したとは言い難く、「やや達成された」とした。課題に取り組む際に「図書館利用」「インターネット利用」については一部学生においては幅広いソースから学習の準備をしていたと判断できるが、学習準備性については、個人によって意欲・能力に差異がある。資格取得のための科目ではあるが、学生が主体的に授業に参加したと思える割合を増やすことで意欲を持って授業に臨めるようになった学生も少なくなく、全体としての目標達成度は達成された部分が多い。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、DPの知識理解、技能表現に合致するものであり、CP、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、今後の課題として学生と教員間でさらなる評価の共有を行うことで目的の共有が達成されたいと考えます。集団内の学力・意欲・態度に開きがあるため、全体の授業の流れとは別に、個人の学びに応じた支援方法を模索する必要があります。一部成績下位の学生については、授業開始時に実施する小テストが全く回答できていなかったり、「学習量の評価」の復習時間の短さの通り、学習習慣が身につけていない学生が一部存在すると思います。これらの学生に対しては、教科書の内容解説や専門職としての事例提示ではなく、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であると考え一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標としている本科目で、成績評価の結果からは、学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと思います。一部成績下位の学生や不合格の学生に対する関心・意欲を高める取り組みが課題である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
保育の心理学	2	後期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうことにしている。本時修了後にその内容を精査して回答や問題提議を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容にはいれた。自由記述の内容を見るとその準備がよかったようである。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に「保育士になるための実践的知識と大切な考え方を学べた」とのコメントがあった。③学生の出席状況が95パーセント以上であった。以上の事が達成の根拠である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

受講動機をアンケートに求めると「心理学的なことに興味をもっている」「人間行動の不思議を知りたい」「子どもの心を育てたい」など心理的な知識やそれを応用したいとの意欲が伺われるので、その成果から勘案してこのカリキュラムマップと講義内容との整合性は妥当であると思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の向上と実践力を実現するために「次回の授業までに日々の自分の生活の中で心にとどめておいてもらいたいこと」を伝えるように心がけた。しかしこのことについてはアンケートの結果からみてまだまだ実現されていないようである。予習の課題設定を今後試行継続してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

40年近く講義をしているが、今年度の達成状況の総括的評価は3段階ABC評価のBの上ではなかろうか。やはり授業は作為を超えた「アート」ではなかろうか。授業者の体調、学生の体調、両者の意欲と熱意、内容の鮮度と面白さ、抱える日常の悩みやストレスなどが微妙に絡み合う相互行為である。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。狩猟後の満足感が違うのである。今後も努力を重ねたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
子ども家庭支援の心理学	3	後期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は「必修科目である」70.0%、「資格取得に必要である」80.0%、「関心のある内容である」10.0%、「単位数を確保する」10.0%であった。</p> <p>本講義は、保育士資格取得に必修の科目である。したがって、資格取得のため十分に学修する意欲がある学生の履修が中心であることを念頭に授業を展開するよう心がけた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業成績の平均点は86.8点であった。90点以上の学生は50.0%、89点～80点の学生は41.7%、79～70点の学生は8.3%であった。すべての学生が標準レベル以上の学力を修得することができた。</p> <p>学生の到達度自己評価では、平均値は3.9～4.1であり、すべての項目において「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と答えていた。</p> <p>予習・復習を1回以上行った学生は予習は50%、復習は50%であった。自発的学習に取り組んだのは10%であった。自由記述によると「わからない用語を調べた」とのことであった。それ以外の学生は、「授業で理解できた」「課題をした」などの理由が見られた。毎回授業後に課題を課していたため、授業と課題を重視した学習をしたことがうかがえる。授業では指示していないが、図書利用として「インターネットのホームページを検索し、利用した」学生が30%いたことから、予習復習に加え、授業内容をきっかけに知識を広げようと試みた学生もいたことがうかがえる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目「子ども家庭支援の心理学」は、生涯発達心理学と親の心理、家庭の心理・社会的課題などの内容を含んでおり、子どもと家庭を支援対象としてどのように理解するかを学ぶ科目である。子どもを対象とする保育のみならず、養育者を対象とする支援のあり方にまで視野を拡げ支援を考えていくことが求められる。したがって、保育の基礎を1、2年次に学んだ後の3年次後期の開講は適切であると考えられる。また4年次以降の保育実践の展開に繋げていくためにも適切な時期に開講されていると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

テキストに沿って進めた。また、授業前にはテキストの内容が整理できるようプリントを配布し、授業後には課題プリント・自主学習プリントを配布した。テキストに不足する情報は資料として配布した。

授業の質評価では、「評価基準は明らかであった」「学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の平均値が4.3~4.4であり、「学生が参加する機会が作られていた」の平均値が4.3、「質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が4.1であった。授業の進め方はおおむね肯定されているといえる。昨年度と異なり、今年度は対面授業であったため、授業の質への満足度が高まったようであった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

達成できた。

履修した全ての学生が単位修得することができた。

学生の参加する機会や学生からの質疑への応答の機会を増やすことができ、学生同士の学び合いを促進し、到達度自己評価をより実感できるような授業展開ができた。引き続き学生の目標達成に向けて工夫しより良い授業が実施できるよう努めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	田中 沙織

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
乳児保育Ⅰ	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケートから、資格取得に必要な科目のため受講している学生達であるという結果であった。</p> <p>そのため、専門職として「必要な知識・技術」を獲得できるよう授業内容を構成した。非常勤という立場から、受講学生の普段の様子は開講まで正確に把握することはできないため、具体的な事例の提示、教科書の内容の実演を行い、机上の知識とならないよう配慮した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の「達成度自己評価」については達成できたと考えていることが分かるが、成績評価からは受講者全員が意欲的な学習が進められるような授業構成だったとはいえない。「図書館利用」も一部であり、「学習量の評価」からは、予習・復習をしたのは僅かであることが分かる。毎授業ごとの小テストを行うことで、前回の授業の重点ポイントを整理したり、学生のこれまでの生活の経験から授業内容が理解しやすくなるように事例を用いての理論の解説を試みたが、全体としての目標達成度はそれほど高いとは言えない。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は資格取得に必要な科目であり、具体的な「知識・技術」の取得を目指す科目である。そのため、DPの知識理解、技能表現に合致するものであり、CP、カリキュラムマップ上の位置づけにおいても妥当であると考えます。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、今後の課題として学生と教員間でさらなる評価の共有を行うことで目的の共有が達成されたいと考えます。集団内の学力・意欲・態度に開きがあるため、全体の授業の流れとは別に、個人の学びに応じた支援方法を模索する必要があります。一部成績下位の学生については、「学習量の評価」の復習時間の短さの通り、学習習慣が身につけていない学生が一部存在すると思えます。これらの学生に対しては、教科書の内容解説や専門職としての事例提示ではなく、大学生である現在の状況に即した事例提示や学習意欲を高める授業導入が必要であると思える一方で、科目教授内容の過密さから困難な側面もある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

資格取得に係る専門科目で知識理解、技能表現を身につけることを目標としている本科目で、成績評価の結果からは、学生が目標達成に向け取り組んだ結果として、概ね目標は達成できたと思えます。一部成績下位の学生や不合格の学生に対する関心・意欲を高める取り組みが課題である。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	上村 眞生

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保育内容の理解と方法Ⅳ	2	後期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>保育士資格取得のための必須科目であり、8割以上の学生の動機がそれに該当する科目である。そのため、受講に際して主体的・積極的動機づけを行うことは困難な科目の一つである。保育技術に関する教授内容であるが、技術獲得のための課題は授業時間中だけでは実施困難であるため、基本的には次回授業時提出の形をとった。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>授業評価アンケートにおいて全ての学生が「到達度事項評価」にて全項目達成できたと感じており、シラバスの達成目標を基に作成した自己評価チェックリストにおいても9割以上の学生が学修効果を実感している様子が確認された。成績評価上も良好で、学生の実感と近い結果であった。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

保育士資格取得のための必須科目であり、特に保育技術に関する内容の教授であることから、関連DPについては妥当であると考えている。また、実習に行く前に身につけておくべき内容であることも含めて、CP, カリキュラムマップ上の位置づけも妥当であると考えている。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方は概ね問題ないと考えている。実演形式で保育の技術について教授し、授業外の学習時間で課題を行うという進め方であったが、学生の目標到達や成績状も良好な結果であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

成績評価上も概ね教育目標は達成できていると考える。次の段階として、これ以降の授業で本授業で獲得した技術を発揮できる時間の確保ができればなお良いと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会学と社会システム	1	後期	選択	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○高校時代までに経験したことのない授業であり、いったい何を学ぶのかという戸惑いが大きい科目である。それを興味関心に結びつけることができるよう、様々な事例を準備した。</p> <p>○社会福祉士国家試験に対応した授業であるが、受講学年が1年生であるため、学習意欲との直接的な結びつきはないと考えられる。</p> <p>○抽象的な概念が多く出てくるため、それを具体的に考えるトレーニングを行う旨を初回授業で説明し、学生が意識的な授業参加をできるよう促した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>○平均点92.7点、秀54人 (73.0%)、優14人 (18.9%)、良4人 (5.4%) 可1人 (1.40%)、不可0人 (0.0%)。SD7.43。</p> <p>○(昨年度)：平均点93.7点。秀65名 (81.3%)、優9名 (11.3%)、良7名 (8.8%)、可2名 (2.5%)、不可1名 (1.3%)。SD10.1。</p> <p>○昨年度と同様、非常に良い結果である。</p>					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○社会福祉士国家試験の受験科目と対応しており、DP、CP、カリキュラムマップにおける位置付けからみた内容的妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○本年度は昨年と同程度の問題であったが、秀が増加した（一昨年度と似た傾向）。模擬テストを学生が繰り返して学習した結果が反映している。

○テキスト内容の難しい部分、イメージしにくい部分をレジュメで補足した。また、現代社会の課題などについては広い範囲から題材を準備し、学生の日常的興味関心を高める工夫を行った。

○1年生の科目を4年生でもう一度復習できるよう、国試対策クラスルームに模擬問題や解説を提供した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○国家試験科目で1年次履修なので、細かい知識の定着ではなく、社会学に関するイメージづくりと、現代社会の問題への興味関心を高めることに重点を置いた。

○1年次の学習を基盤に、4年でもう一度社会学を復習するための土台作りであり、高い平均点に集中することはモチベーションにも良いと考える。

○世界史の知識の有無が影響するため、高校時代の履修状況により学生の反応が異なる。大学時代に教養として世界史を学び直す働きかけも必要だと感じている。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	1	後期	必修	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験に関する指定科目で本学では必修科目でもある。特段、社会福祉専門職になるための基盤となる科目であり、本学科で非常に重要な科目であることから、動機付けを大切に講義している。</p> <p>第一回目の講義時に受講に関しての詳細の説明をし、シラバスに則って講義を進めた。講義の最初には、新聞等から毎時間必ず時事に関する話題を提供し、それが社会福祉専門職としてどのように捉えたらよいかを考えさせる時間を設けた。予習復習の内容の説明、理解しておくべきキーワード、実践につながるように専門職能団体の研修会案内等々も随時行った。リアクションペーパーに関しては、予習復習の時間の記入や、その方法、また本日の自己採点点数記入などを導入し、学習意欲の向上に努めるよう工夫した。</p> <p>なお、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価については、途中休学の学生を除いた受講学生が合格領域に到達しており、標準的レベル以上に達成したものと考えられる。定期試験、確認テスト、リアクションペーパー、レポート、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。また、遅刻や欠席がほとんどなく、定期試験の結果も理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、国家資格の受験資格を取得するためだけでなく、幅広く社会福祉専門職としての現状や考え方、障害福祉、精神保健福祉、貧困等々の多岐にわたる分野までの理解が深まった等の内容の記載もあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得するための必須専門科目でもあり、講義に対してのモチベーションは非常に高いものが感じられた。また、社会福祉を学ぶための1年生で開講する基礎的科目であることから、福祉専門職に興味があるということで、非常に高い意欲を感じられた。学生も成績評価から、一定の到達領域に達しており、内容的には妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見ての内容的妥当性については、成績評価から、知識・理解は一定程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得するために必要な科目ということと、前期の「ソーシャルワークの基盤と専門職」の講義から続く、福祉学科の福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて、思考が継続できるように教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

社会福祉士及び精神保健福祉士の、両方の国家試験受験資格を取得するために必要な科目であり、福祉学科における福祉の専門科目ということで、非常にモチベーションの高さを感じられた。また、今から開講される、社会福祉士や精神保健福祉士の関連科目とのつながりを考えて、思考が継続できるように教授を行った。次年度も、それらに引き継ぐような関連性を持ちながら講義を行いたいと考える。また、上記に示したように、よりリアリティを習得するために、事例を提供して検討を行ったが、さらなる検討方法の内容を吟味していく必要があると感じた。毎回福祉業界の時事に関する資料配布し、その説明を行い、福祉専門職としての理解を深められたと感じられる。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機については、「必修科目である」100%、「資格取得に必要なものである」55.9%、「関心のある内容である」5.9%であった。本科目は1年次「ソーシャルワークの基盤と専門職」、「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」の学習内容の理解を前提とした科目である。既習内容を踏まえてさらに理解を深めると同時に、ソーシャルワーク実践への理解が深まり、ソーシャルワーク関連科目を学ぶことへの意欲が高まることに重点をおいた。具体的で詳細な実践事例を用いてクライアントの状況へのイメージを膨らませつつ分析・考察を深め実践技法を理解することが可能となるような授業展開に努めた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された		やや達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」(DP1)において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う41.2%、わりにそうだと思う29.4%)「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(かなりそうだと思う41.2%、わりにそうだと思う32.4%)、「思考・判断」(DP2)においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(かなりそうだと思う47%、わりにそうだと思う26.5%)、「専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う44.1%、わりにそうだと思う32.4%)、「関心・意欲」(DP3)においては「専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(かなりそうだと思う50%、わりにそうだと思う23.5%)、「態度」(DP4)においては「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う35.3%、わりにそうだと思う32.4%)、「技能表現」(DP5)においては、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う47%、わりにそうだと思う26.5%)であった。本科目における教育目標はある程度達成できたと考えます。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP:行動目標からの内容的妥当性 4(2)に記載したように、試験の結果、学生の学習到達度自己評価から、DPにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える。</p> <p>②CP:カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は1年次の「ソーシャルワークの基盤と専門職」および「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」での学習内容の理解を前提とした科目であると同時にこれら2科目と比較して難度が高くなるため、これら2科目での学習内容を振り返りつつ、他の関連科目での学習内容も取り入れつつ、総合的かつ包括的にソーシャルワークを実践するための視点と求められる知識を培うことを意識した授業内容と展開を心掛けた。ソーシャルワーク関連科目での学びの統合が求められる科目という点から、適切な位置づけであると考えます。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価においては、平均値3.4～4.4であり、学習量の評価において、一度も「30分程度以上の準備」を行わなかった学生が59%、「30分程度以上の復習」を行わなかった学生が41%だった。その理由として、「取り組み方がわからなかった」や「授業内で理解できた」「授業内容で十分だと感じたから」などの自由記述が多く見られた。授業での学びをきっかけとして、自己学習でさらに学びを深められるような学習に向かう姿勢が養えるよう、改善に取り組みたいと考える。</p>
---	---

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総合的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目における教育目標は一定程度達成できたと考える。授業中の学習のみにとどまらず、学生自身がさらに学びを深めようとする意欲を引き出し、主体的自発的に学ぼうとする態度の形成につながるよう、さらなる改善を行ってきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	83

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>後期は、前期の学びを踏まえ、地域福祉を推進するためのソーシャルワーク（「地域福祉援助」）を中心に講義を展開した。具体的には、従来から社会福祉協議会等の基本的な実践技術であったコミュニティワーク（地域福祉の基盤づくり）に加え、近年「社会的つながりの弱い人々」や「制度の狭間」、「複合課題」等への対応として重視されるようになったコミュニティソーシャルワーク（地域を基盤としたソーシャルワーク）について指導をおこなった。また社会福祉法改正に併せ、近年、地域福祉に関連する施策（総合相談の窓口の設置、重層的支援体制整備事業など）が活発に展開されており、その動向を伝えながら「地域福祉のこれから」について学べるよう講義内容を構成した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しつつ、対面授業を展開した。① 講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域福祉の視点は、福祉専門職のみならず、教職・保育などと地域を担う支援者において横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。③ レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。④ 本講義の特性上、地域福祉に係る知識の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>2022年度も新型コロナウイルス感染症流行下であったが、対面授業が中心であった。平均値は3.9～4.4、中央値は4.0～5.0と全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」をはじめ、(2)～(6)、(10)が平均値4.4と最も高かった。次に(7)(9)が平均値4.3、そして、(1)が平均値4.1の順であった。3「授業の質評価」は平均値は4.1～4.5、中央値は4.0～5.0の水準であった。</p> <p>知識理解に関しては、地域福祉の観点からその知識について問うものである。地域福祉の概念・歴史、法律・制度、近年の地域福祉の問題等については、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、地域福祉の概念・歴史、法律・制度、サービスを理解できるように今後も務める。</p> <p>学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向を注視する必要があるが、2022年度の講義に関しては、学生も一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、今後の社会状況の変化による地域の実情(福祉的課題、地域の動向等)、福祉法制度・サービスの動向等についての表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値3.9と全体数値よりも低かった。本科目は地域における地域福祉の推進の主体や概念、近年の地域社会における福祉的課題の現状を踏まえて、地域における地域住民の役割、地域の支援機関・施設、地域を基盤としたソーシャルワークの実践概念・方法や今後の地域福祉の展望等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。そのため、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の専門を学ぶ位置づけであることから、地域福祉(コミュニティソーシャルワークなど)に関する実践をおこなうための知識・技術の教授については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、地域福祉は広範な知識を取り扱うため、イメージしにくい課題があると考えます。そのため事例の検討や演習活動を一部取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。</p> <p style="text-align: right;">以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
社会保障Ⅱ	2	後期	必修	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>回答者数は22名（回答率26.2%）であった。受講動機を見ると、「必修科目である」95.5%、「資格取得に必要である」50.0%であった。本学科における必修科目であるとともに、社会福祉士・精神保健福祉士指定科目であることから、国家試験の出題傾向を念頭に置きつつ、法改正が頻繁に行われる社会保障制度について、最新の情報を提供することに努めた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	やや達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年度は、すべて対面で授業を行った。成績評価については、遠隔授業時から引き続き実施した授業中の確認テスト、コメントに加えて、3年ぶりに実施した後期試験を用いた。素点の平均点は73.15点（福祉・養護教諭コース2年73.03点、子ども家庭福祉コース2年74.50点）であった。また、再試対象者は9名、理想的レベル（90点以上）に達した者は3名であった。前期の「社会保障I」と比べて、平均点が上昇しており、再試対象者も減少している。到達度自己評価について、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」の平均値はともに4.5、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の平均値は4.4、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」の平均値はいずれも4.3であるほか、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」を除くその他の項目の平均値は4.1-4.0であった。通年科目で行った昨年度を大幅に上回っているが、回答数が昨年度の半分以上であることから、意欲の高い学生が積極的に回答したものであると思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CPカリキュラムマップ上の位置づけから見ると本科目は「必修科目」、「福祉専門科目」であり、社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目でもある。国家試験を受験する予定の学生が多く、学生の講義に対する動機付けは高い。国家試験受験のために必要な最低限度の内容となっているため、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、自己評価と成績の分布に相関関係がみられることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価のうち、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均値は4.6、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.5、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.4、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の平均値は4.3であった。これも昨年度を大幅に上回っているが、回答数は昨年度の半分以上である。学習量について、予習をしていない学生が16名、復習をしていない学生が9名と、授業以外の学習をしていない学生の割合、とりわけ復習をしていない学生の割合は昨年度より減少している。授業の課題以外の学習に取り組んでいない学生は13名であったが、その理由については、「授業内容で十分だと感じたから」、「テスト前までやる気がでなかったため」との回答がみられた。他方、授業の課題以外の学習に取り組んだ学生は9名で、具体的に取り組んだ学習については、「自分なりにノートにまとめた」、「気になったことを調べた」、「関連する書籍、ニュース記事を積極的にみるようにした」などの回答があった。学生の意見については、「ありがとうございました!」とのコメントが見られた。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

福祉専門科目であり、かつ社会福祉士・精神保健福祉士指定科目である本科目の位置づけから、知識理解、意欲関心のいずれもある程度は達成できたと考えており、現時点で改善すべき点は特になく考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
障害者福祉	2	後期	必修	いいえ	86

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年次必修科目であり、社会福祉士指定科目である。本科目は社会福祉の基礎となる科目のひとつであるため、障害者福祉の理念や基本的な視点を伝えるとともに、国家試験に必要な知識を伝達できるようにした。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が100%、「資格取得に必要である」が48.6%、「関心のある内容である」が14.3%であり、本科目に対する学生の関心の低さがうかがえる。したがって、できるだけ学生の関心を高められるよう、出生前診断に象徴される優生思想や、「親亡き後」問題に象徴される社会的排除や孤立の問題といった具体的な事象を取り上げながら、アクティブラーニングを取り入れ、グループ討議を通して考えを深めていけるような取り組みを行った。また、障害者の実像について具体的にイメージできるような、できるだけ動画等の視覚教材を用いるようにした。さらに学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は71.3点、中央値72点であり、全体的に低い成績であった。内訳をみると、A評価13.6%、B評価14.8%、C評価28.4%、D評価23.5%、E評価17.3%であり、再試験対象者が14名であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の平均値4.0、中央値4.0であった。各項目をみると、DP1の知識理解については、平均値4.1-4.4、中央値4.0-5.0、DP2の思考判断については、平均値4.2、中央値4.0であったが、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。DP3の意欲関心については、平均値4.2、中央値4.0であったが、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。到達度自己評価を見ると、目標は達成されていたが、それに対して成績が低く、知識理解に結びついていないことが考えられた。講義内で学んだ知識を定着できるような取り組みが必要である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は2年次の必修科目であり、社会福祉士指定科目である。本科目は「福祉専門科目」の中でも、社会福祉の基礎となる科目であるため、知識理解を深められるよう、講義内で学んだ知識を定着できるような取り組みが必要である。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

4. に記したように、学生の知識理解を深められるよう、講義内で学んだ知識を定着できるような取り組みが必要である。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業の質評価を見ると、平均値4.1-4.3、中央値4.0-5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。したがって、授業の質は問題なかったと考える。

学習量の評価をみると、4, 5回以上の予習を行った学生が17.1%、4, 5回以上の復習を行った学生が22.9%、自発的学習を行った学生が42.9%であった。自発的学習については、「事業所など調べてみた」「障害者を取り巻く環境について調べた」「関連する書籍、動画をみるようにした」との回答がみられた。今後も障害者福祉に関連する動画や書籍等を講義内で紹介し、自発的学習を促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は2年次の必修科目であり、社会福祉士指定科目である。本科目は「福祉専門科目」の中でも、社会福祉の基礎となる科目であるため、全体的な成績の底上げができるよう、講義内で学んだ知識を定着できるような取り組みを行っていきたい。

また、科目履修者84名に対し、授業評価アンケートの回答者は35名であった。アンケートの回収率をあげられるよう、学生へ促していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は1年次の必修科目であるが、社会福祉士指定科目でもあり、2・3年次の「ソーシャルワーク実習」に向けた最も基礎的な知識・援助技術を学ぶ演習科目である。初年次生を対象としているものの、ソーシャルワークの展開過程やグループワークの展開過程、面接技術が内容に含まれるなど、ソーシャルワークの知識・技術が求められる演習科目である。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が92.3%、「資格取得に必要である」が61.5%、「関心のある内容である」が15.4%であり、本演習に対する関心は高くないことがうかがえる。</p> <p>本科目では、ソーシャルワークの倫理や自己覚知、基本的なコミュニケーション技術の習得に重点を置きながら、ソーシャルワークのベースとなる視点・技術を身につけられることを目標として授業を展開した。また初年次生が講義でも十分に履修できていない、ソーシャルワークやグループワークの展開過程に関しては、基礎的な事例を用い、基本的な専門用語の確認も加えながら、授業を展開した。またグループワークを通じて、学生同士で学び合える演習ができるよう努めた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は82.4点、中央値84.5点であり、標準的な成績であった。学生の学習到達度の自己評価をみると、「自分なりの目標を達成した」の項目については、平均値4.2、中央値4.0であった。各項目をみてみると、DP1の知識理解は、平均値4.2-4.4、中央値4.0-5.0、DP2の思考判断は、平均値4.4-4.5、中央値5.0、DP3の意欲関心は、平均値4.4、中央値4.0、DP4の態度は平均値4.5、中央値5.0、DP5の技能表現は、平均値4.5、中央値5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。以上の点から、目標は達成されたと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置付けられている。4. にも記したように、学生の成績、自己評価から、内容的妥当性はあったと考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

4. に記したように内容的妥当性はあったと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業の質評価は、平均値4.3-4.5、中央値4.0-5.0であった。ただし、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」の項目において、「少しそうでないと思う」と回答した学生が1名いた。次年度以降、質問の機会について、学生に明示していきたい。

学習量の評価を見ると、2, 3回以上の予習を行った学生は69.2%、復習を行った学生は69.2%、自発的学習を行った学生は46.2%であった。例年と比較して、予復習、自発的学習を行った学生が多く、課題の提示等により予復習等を促せたと考える。学生の自由回答を見ると、「ロールプレイなどを通して、ソーシャルワーカーに必要な知識や技術を学ぶことができた」「実際どのような面接技術をもってソーシャルワーカーが面接を行っているのかを学ぶことができた」との意見がみられた。次年度以降も実践場面を想定したロールプレイ等を多く取り入れていきたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

本科目は社会福祉士の指定科目であると同時に社会福祉の基礎を学ぶ専門科目として位置付けられている。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、教育目標は概ね達成されたと考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>ソーシャルワークにとって先ず自己を知ること、そして相手との信頼関係を如何に形成することが出来るかが最も要課題だと考える。その為、ソーシャルワーカーに求められる基礎的な知識と技術についてコミュニケーションを取りながら演習を進めた。情報利用の項で、「この授業を履修する際にシラバスの記載を参考にした」にほぼ全員が答えていたことに学生が演習に参加する姿勢を感じられた。1年生であり、学びに対する好奇心は大であった。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習については、「授業中にメモしたことを家に帰り振り返りをした」とコメントをあげていた者がいた。復習を中心に行っていたことがわかった。「到達度自己評価」はほぼ平均に近く学びの成果であると評価できる。ただ、図書館、インターネットの活用がなかったことは学び方に課題を残した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「到達度自己評価」の結果と「受講動機」からもわかるが、資格取得をめざし専門職となるべく目標に向かって行こうとする熱意は感じられた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

テキストによる演習ばかりでなく、「エコマップを実際に描いてむずかしかった」と意見があったように実際に気づくワークをもっと取り入れることが望ましいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

学生一人ひとりと接し考えを聞きながら演習を行う中で、将来を見つめて取り組んでいたことは実感でき評価できるものだと感じられた。今後演習教育で指導を続けていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>必修科目であり1年生の全員が受講するが、学生の授業への関心・学習準備性にはばらつきがあると考えられる科目である。また、講義系科目で未学習の部分についても取り上げることになっているため、できる限りわかりやすい説明に心がけながら、ソーシャルワークの全体像をできる限り現実に近いイメージとして学生一人ひとりが描けるよう、取り上げる事例の内容を吟味し、徐々にソーシャルワークの詳細な部分に触れていくような順序を考慮して授業計画をたてた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」(DP1)において「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(かなりそうだと思う90%、わりにそうだと思う10%)「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」(かなりそうだと思う70%、わりにそうだと思う20%)、「思考・判断」(DP2)においては、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」(かなりそうだと思う80%、わりにそうだと思う20%)「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」(かなりそうだと思う70%、わりにそうだと思う30%)、「関心・意欲」(DP3)においては「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」(かなりそうだと思う90%、わりにそうだと思う10%)、「態度」(DP4)においては「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(かなりそうだと思う80%、わりにそうだと思う20%)、「技能表現」(DP5)においては「必要となる技術を身につけることができた」(かなりそうだと思う70%、わりにそうだと思う20%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(かなりそうだと思う90%、わりにそうだと思う10%)であった。本科目における教育目標は概ね達成できたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性 本科目は福祉専門科目の導入にあたる科目であり、必修科目である。カリキュラムの改編に伴い、講義系科目における未学習の部分を先行して演習でとりあげる内容が含まれるが、講義系科目で既習の内容と未学習の内容を踏まえつつ綿密に授業計画を立てることで学生のソーシャルワークに関する理解度を高めること目指していきたい。新カリキュラムにおいて実習開始が2年生からに早まったことを踏まえ、そのための準備性を高めるうえでも重要な科目となる。カリキュラムマップ上の位置づけからみて内容的に妥当であると考え、さらに妥当性を高めるために、授業の運営については、毎年検討改善に取り組むことも必要であると考え。</p> <p>②DP行動目標からの内容的妥当性 それぞれにおいてある程度達成されており、内容的妥当性には問題はないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の平均値は4.6～4.9であった。特に「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」において「かなりそうだと思う」と回答した学生が90%と高い割合を占めた。グループディスカッションにあたっては、一人ひとりの学生の意見表明をしやすいするために、授業の説明の中でポイントを明確にすること、議論の焦点を絞ること、各自の意見を引き出すような工夫を加えることなどを行った。また、毎回の授業で提出されたワークシートの記述内容について、次の授業の始まりで共有し、様々な意見や視点が変わることで捉え方が変わることで、グループディスカッションにおいて多様な意見が出されることの重要性を伝えるとともに、他者の意見に耳を傾けることがさらにディスカッションの内容が発展している状況について評価することを大切にしたい。学生の中にはコミュニケーション場面での困難を抱えている学生が少なくないため、一人ひとりの様子を見守りつつ、個別のサポートも不可欠であったが、学生から「グループワークが多くあって、自分の意見以外に共感する力や、新たな視点の考え方など様々なことを学べた」「授業の最初に、みんなの感想を共有する機会を設けてくださってありがとうございました。自分で注目できなかった視点に気づき、内的に振り返ることができ、心に余裕をもって参加することができました」などの自由回答を得たことから、このような授業の進め方をさらに改善しつつ継続していきたいと考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>達成度自己評価の結果と学生の授業への取り組みや提出物から、教育目標は概ね達成できたと考える。演習科目が理論系科目の知識理解を促し、学生の学びを深める意欲を高めることにつながるよう、さらに改善に取り組みたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、ソーシャルワーク演習の体系、それぞれの位置づけについて理解した上で、1 社会や地域で起きている福祉的課題や問題の実情や背景、それらを抱えた人々（当事者）、2 社会福祉士の活動領域・場・具体的支援内容・役割、3 社会福祉士としての価値・倫理、4 自己覚知・他者理解、5 コミュニケーション技術について学ぶことを目的とし、授業を構成した。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。</p> <p>① グループワーク等を中心に、基礎的な視点(1～5に留意)に基づき、本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。</p> <p>② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。</p> <p>③ 講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。</p> <p>④ 本講義の特性上、福祉的な問題の理解や実際のコミュニケーション技術の方法等の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、本科目の平均値は4.0～4.5、中央値は4.0～4.5であった。到達度自己評価のうち、(1)「自分なりの目標を達成できた」をはじめ、(2)(4)(5)(7)(8)(10)が平均値・中央値共に4.5と最も高かった。3「授業の質評価」は平均値4.1～4.5、中央値4.0～4.5であった。知識理解に関しては、相談援助に携わる上で、①福祉的課題や問題の実情の把握、②社会福祉士としての倫理と価値、③社会福祉士の活動領域・場・支援内容、④自己覚知・他者理解、⑤コミュニケーション技術に関する知識について捉え、技能表現にて捉えた知識を演習課題を通して表現する練習に取り組んだ。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も努める。</p> <p>学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、社会福祉士がどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注釈する必要があるが、2021年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、1年生後期の段階では今後の履修状況において学びながら、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注釈したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。</p> <p>③まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達度自己評価において、(3)「事象(自然、人、社会、歴史など)を理解する視点や考え方を得ることができた」が4.0と全体数値よりも低かった。本年度は、地域社会における福祉的問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、1年次生であるため具体的なイメージをもちづらかったと考えられる。科目の性質上、社会福祉における基礎的な内容をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面において社会福祉士が社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。</p> <p>学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と基礎的なコミュニケーションについては概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、2年次のソーシャルワーク演習(専門)Ⅰにおいて社会福祉士が対応する事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。</p> <p>以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習	1	後期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>身近な事例や童話などを用いながら個人ワークとグループワークを取り入れた。個人ワークでまず、自分で考え、グループワークでは、自分の考えを発現する力、他人の意見を聞く力がつくことを意識し、授業を進めた。また、質問については、授業中や、ワークシートの感想を提出してもらったときに記入してもらおうよう伝え、質問があった場合には、翌週に全員で共有できるよう配慮した。毎週学生から提出してもらったワークシートの学生からの自由記述にコメントをつけて返却した。学生からも「コメントを見るのが楽しみでした」との意見があった。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生による自己評価は、4.3～4.6であり、概ね目標は達成された。また、「コミュニケーション能力を高めることができた」との回答は4.6であり、自由記述にも「コミュニケーション能力を高めるため、いろいろな人と交流を深めた」との意見もあった。このことから毎回のグループワークやロールプレイは有効であったと評価する。加えて、学生の自由記述で、「面接技法について自分で調べた」や「内容に興味を持ったことを調べた」など自己学習を行っていた記述もあり、学習量の評価からも、予習や復習を行った学生が半数以上いたことから、自己学習にもつながっていたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業の内容については、上記の内容と、学生の自由記述にも「現場での話をたくさん聞くことができ、勉強になった。楽しめる様々なワークで、楽しく学ぶことができた」との意見からも妥当であったと考える。ただし、自己学習などへの取り組みに関し、さらに研鑽を積む学生が増えるよう、意識して取り組みたい。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方については、学生の評価からも現状を基本とし、さらに学生が他の科目とのつながりなども意識し、興味を持つよう工夫したい。学生から、「支援をするにあたっての必要する知識や技法を学ぶことができた」、「先生のように面接できるソーシャルワーカーになりたい」などの意見があり、さらに自身の研鑽にも取り組みたいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

全体としては目標は達成したと考える。しかしながら、さらにわかりやすさや、学生の自己学習の向上につながるよう努力したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は社会福祉士指定科目（2年次対象・選択）の1つであり、ソーシャルワーク（専門）Ⅰ・Ⅲ・Ⅳと連動し、教員4名のオムニバス形式で展開している。新カリキュラムへの移行後、本年度が最初の開講となった。主な内容は、各教員の専門領域（障害福祉、高齢福祉、医療福祉、学校福祉）における事例を活用し、支援内容の検討やグループディスカッション、ロールプレイ等を行っている。</p> <p>授業評価アンケートにおける学生の受講動機では、「必修科目である」（81.3%）が最も多く、次に「資格取得に必要である」（56.3%）が見られた。一方、「関心のある内容である」は12.5%となっており、学生の関心・意欲等を高める授業内容・展開を工夫する必要があると考える。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>（1）教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	やや達成された
<p>（2）上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>各DP項目の達成度について授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「思考判断」（DP2）は、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」（かなりそうだと思う25.0%、わりにそうだと思う56.3%）となっており、目標は達成されたと言える。「意欲関心」（DP3）は、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」（かなりそうだと思う31.3%、わりにそうだと思う56.3%）であり、これも目標は達成されたと考える。「態度」（DP4）については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」（かなりそうだと思う18.8%、わりにそうだと思う62.5%）であり、目標を達成したと言える。「技能表現」（DP5）は、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」（かなりそうだと思う31.3%、わりにそうだと思う50.0%）、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」（かなりそうだと思う37.5%、わりにそうだと思う37.5%）であり、目標はやや達成されたと考える。</p> <p>以上のことから、教育目標は達成したと考える。しかし、学習量の評価（予習0回50.0%、復習0回68.8%）や図書館の利用状況（図書・雑誌や学術データベースを利用した0%、インターネットを利用した50.0%）からは、学生の主体的学習態度の涵養という点で課題が残ったと言える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP上の位置づけ
学生の到達度自己評価による教育目標の評価結果（「達成された」）から、DP上の位置づけに問題はないと考える。

②CP,カリキュラム上の位置づけ
本科目はソーシャルワークの専門的視点、態度、知識、技術を実践的に修得するものである。これらの学びはソーシャルワーク実習（2年次、3年次）の展開において不可欠であり、本科目のCP及びカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教育目標は達成されたと評価できる一方で、学生の学習量の確保や主体的学習態度の涵養という点では課題が残った。既述の通り、本科目はソーシャルワークⅠ・Ⅲ・Ⅳと連動しながら各専門領域の援助実践を学ぶ科目である。今後は明らかとなった課題について担当教員と共有し、改善策を検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本年度、科目の教育目標は達成された。今後も引き続き担当教員間の連携を図り、授業内容・展開方法の質の向上を目指したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は2年次の社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目である。</p> <p>本演習は、社会福祉士のカリキュラム改定により、本年度より新カリキュラムに移行した。</p> <p>学生の受講動機をみると、「必修科目である」が80.0%、「資格取得に必要である」が60.0%、「関心のある内容である」は0.0%であり、多くは資格取得のための履修であることがうかがえる。</p> <p>本科目では、福祉的課題を抱えた人々に対する支援事例を活用し、ソーシャルワークの展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。本演習は、2年次の学生が対象であるため、ソーシャルワークに関する基礎的な知識や技術等を再確認しながら、実習で実践的に用いられるソーシャルワークの視点や職業倫理、援助技術を習得できるような内容となるよう工夫した。また、ソーシャルワークの実践ではチームアプローチが基本となるため、できるだけグループワークを実施して、学生同士の意見交換から課題解決を導けるような演習となるよう工夫した。毎時間ごとにはふり返りの時間を設け、学生のコメントに対してフィードバックを行ったり、次回の演習の冒頭で紹介しながら、専門的視点への理解を深めたり、共有したりできる機会を設けた。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は、83点、中央値は82点であり、標準的な成績であった。学生の学習到達度の自己評価は、「自分なりの目標を達成した」の平均値4.0、中央値4.0で、目標は「達成された」と判断した。各項目をみると、DP2の「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の平均値4.2、中央値4.0、DP3の「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」が平均値4.2、中央値4.0、DP4の「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」が平均値4.4、中央値5.0、DP5の「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身に付けることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値4.2-4.6、中央値4.0-5.0であったため、目標は「達成された」と判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本演習は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目として位置付けられている。4. に記したように、内容的妥当性には問題がなかったと考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

上記同様、内容的に妥当であったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業の質評価の各項目は、平均値4.4-4.6、中央値5.0であり、「全くそうでないと思う」「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかったため、授業の質は問題なかったと判断した。

学習量の評価に関する自由記述をみると、「分からない単語などを調べた」との回答があり、課題等の提示を通して自己学習が促せたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は「ソーシャルワーク実習」と連動して行われるソーシャルワークの知識・援助技術を学ぶ演習科目であり、「社会福祉実践の展開」の科目である。4. に記した学習達成度の自己評価、6. に記した授業の質評価により、概ね授業の目標は達成されたと考えるが、新カリキュラムに移行したばかりの科目であるため、学生の実習における達成度評価等も踏まえ、次年度以降も教授内容を検討していきたい。

本科目履修者13名に対し、授業評価アンケートの回答者は5名であった。アンケートの回収率を上げられるよう、学生へ促していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、これまでの相談援助系の科目を通して学んだことを踏まえて、1いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、2課題を抱えた人々(当事者)の状況、3ソーシャルワーカー(社会福祉士)による具体的な支援内容、4ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めることを本授業の目的とした。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。なお本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止について配慮して、対面による授業を展開した。</p> <p>① グループワーク等を中心に、基礎的な視点に基づき、本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。</p> <p>② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。</p> <p>③ 講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。</p> <p>④ 本講義の特性上、福祉的な問題の理解や実際のコミュニケーション技術の方法等の理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された

<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が標準的レベル及び理想的レベルに達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、(2)「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」などのすべての項目の平均値及び中央値が5.0と最も高かった。3「授業の質評価」は平均値が4.3～5.0、中央値が5.0の水準であった。</p> <p>知識理解に関しては、相談援助に携わる上で、①いま地域で起きている福祉的課題の実情・社会的背景、②課題を抱えた人々(当事者)の状況、③ソーシャルワーカーによる具体的な支援内容、④ソーシャルワーカーに求められる社会的役割について、主に事例検討を通して理解を深めた。今後も現代の社会福祉問題に関連させ、ソーシャルワーカーの社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、相談援助の技法、専門職としての価値・倫理を基盤に基本的なコミュニケーション技術を理解できるように今後も努める。</p> <p>学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理する等、次年度に向けて検討したい。</p>
--	---

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉の基礎を学ぶ位置づけであり、必修科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目は相談援助職を目指す学生を対象に、社会福祉の基礎的な知識や技術を学ぶ科目である。そのため近年の福祉的課題や問題の実情を把握するとともに、ソーシャルワーカーがどのような倫理と価値をもち、実践するのか等の理解のために、グループワークを中心とした講義の展開が主であった。4年次の本学における社会福祉士・精神保健福祉士・養護教諭・保育士の実習に向けての横断的な知識と技術を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による社会福祉士の在り方や実践・方法論を注察する必要があるが、2022年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価からみても全体的に一定の水準を保っている。自己目標・職業選択に関する達成度が比較的低く、方法的妥当性の問題である。しかし、3年生の段階では自分自身の将来の選択肢について、その専門性を高め、自己内省を深め自己決定をしていくものであるため、本科目を学んでの今後の学生の成長を注察したい。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本年度は、地域社会における福祉的問題について具体的な事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会をもったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しつつ、グループディスカッション等を進めていった。科目の性質上、社会福祉における知識・技術、価値、専門性をおさえるため、次年度に向けた関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、相談援助場面においてソーシャルワーカーが社会的にどのような支援を行うのか、社会的な役割を果たすのか等、事例を提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。学生の意見として、授業での学びを深めるために、課題を提示し、その学びを整理するとともに、次年度の講義に生かしていきたい。</p>
---	--

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総合的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、「福祉専門科目」では、社会福祉実践の展開を学ぶ位置づけであることから、相談援助における基礎的知識の形成と事例を通してみた福祉専門職としての実践の在り方については概ね達成できたが、地域や多様な生活場面に応じた実践をする上での相談援助技術の面で課題を残した。この点は、次のソーシャルワーク演習（専門）Ⅲにおいてソーシャルワーカーが対応する実践事例の検討や演習活動を取り入れることで、学生自身の主体的な学びを促し、他の学生間との意見交換及び発表を介して、学ぶことの意欲を引き出していきたい。</p> <p>以上のことを踏まえ、可能な限り考える時間をとること、復習課題を意識的に提示するようにすることを加えていきたい。また、適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	中川 美幸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	後期	選択	いいえ	15

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	×	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>事例を用いながら個人ワークとグループワークを取り入れた。個人ワークでまず、自分で考え、グループワークでは、自分の考えを発現する力、他人の意見を聞く力、グループ内で様々な意見が出たときに、多数決でなく、話し合いでまとめる力がつくことを意識し、授業を進めた。さらに、ロールプレイも取り入れ、クライアント体験を行うことで、クライアントの気持ちを理解する機会も設けた。また、質問については、授業中や、ワークシートの感想を提出してもらったときに記入してもらおうよう伝え、質問があった場合には、翌週に全員で共有できるよう配慮した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された		達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生による自己評価を見ると、全体で4.1～4.7、「新たな知見を得ること」や、「コミュニケーション能力を高める項目」については、4.7という結果から考え、一応の目標は達成できたと考える。しかし、職業倫理と照らし合わせて考えることについて、4.1という結果を見ると、一定の基準は達成しているものの、今後、更に職業倫理との関連もわかりやすく伝える工夫が必要でないかと考える。また、課題を提出したものの学習量の評価で、30分以上の準備をしていないとの回答があり、今後課題の出題方法についても工夫したいと思う。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

学生の自己評価などからみて、内容的には妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

「職業倫理や行動規範について、関連して学ぶ」に対する評価が4.1だったことから、来年度からはより具体的に倫理綱領などの関連性を示していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

授業の進め方としての基本は、今のままで行うが、課題の出題方法や職業倫理などの関連性などは学生が興味を持ち、取り組めるよう工夫をしていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	文屋 典子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は社会福祉士指定科目の一つであり、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の実施に向けた準備段階として位置づけられる。児童福祉領域の実習で求められる知識・技術を確し習得すると同時に、実習に向けての動機づけが高まるよう、授業を展開した。新カリキュラムとなり、2年次の実習、実習指導は専門科目の履修と同時並行となるため、児童福祉領域の実習で求められる知識の確認については既習の内容と未学習の部分とを考慮しつつ、授業の進行等にも配慮した。新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から、見学実習等の実施が困難であったため、視聴覚教材による学習や意見交換・共有の機会を多くもつよう授業を構成し、これまでに福祉専門科目で学んできた様々な知識を実践的な場面と結びつけて理解し説明できるようになることに重点をおいた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学習到達度の自己評価においては、「知識・理解」(DP1)「思考・判断」(DP2)「関心・意欲」(DP3)「態度」(DP4)「技能表現」(DP5)のすべての質問項目において「かなりそうだと思う」33.3%、「わりにそうだと思う」33.3%、「まあまあそうだと思う」33.3%であった。ソーシャルワーク実習Ⅰの評価においては、実習目標をある程度達成しているとの評価が得られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけから見た内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP:行動目標からの内容的妥当性

4(2)に記述したように、一定程度の達成状況にあると考えることができ、本科目の位置づけから見た内容的妥当性に問題はないと考える

②CP:カリキュラムマップ上の位置づけからの内容的妥当性

本科目は「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の実施に向けて展開される科目であり、実習に向けた具体的準備、実習に向けての動機づけを行い、準備学習を深めていくものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

ソーシャルワーク実習Ⅰの評価においては、実習目標をある程度達成しているとの評価を得たが、実習指導者からのコメントとして、旧カリキュラムの実習と比較して「短期間であるため、学生の実習中の成長・変化にたどりつきにくい」ことに加えて、2年次の段階では思考力や知識を統合する力が十分に身につけていないことなどが指摘された。今後は準備学習を深めつつ具体的準備を進めていく中で、学生が実習に対する動機を高め、自己の十分な準備に支えられて実習に臨むことができるよう、授業の進め方をさらに改善したいと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

実習に必要な知識の習得、実習前の具体的準備を行い、実習後の振り返りを通して自己の課題を整理するという点から、本科目における教育目標はある程度達成できたと考えるが、上記6の課題が残った。さらなる改善、工夫に取り組んでいきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	荒木 剛

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、社会福祉士指定科目（2年次・通年）の1つであり、ソーシャルワーク実習Ⅰ（2年次）の事前及び事後指導を行うものである（本年度より新カリキュラムとして開講）。高齢者福祉領域と地域福祉領域を担当した。実習前指導では、実習関連書類の作成指導や実習現場で必要となる知識・技術の教授を通じて、学生の実習に向けた動機を高めた。実習後指導では、個別面談を通して実習で得た学びや気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問を行い、学生への個別指導と実習指導者への面談を通して、実習状況の確認を行った。</p> <p>※昨年同様に、新型コロナウイルスの影響で実習期間・施設等が大幅に変更となったため、授業運営においても個別対応を行った。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		やや達成された	達成された	やや達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>各DP項目の達成状況について、授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価から見ると、「知識理解」(DP1)については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」(わりにそうだと思う25.0%、かなりそうだと思う62.5%)となっており、目標を達成したと考える。「思考判断」(DP2)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた」(わりにそうだと思う37.5%、かなりそうだと思う37.5%)となっており、目標をある程度達成できたと考える。「意欲関心」(DP3)については、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」(わりにそうだと思う25.0%、かなりそうだと思う62.5%)であり、目標を達成できたと考える。「態度」(DP4)については、「職業倫理や行動規範について学ぶことができた」(わりにそうだと思う25.0%、かなりそうだと思う62.5%)となっており、目標を達成したと考える。「技能表現」(DP5)については、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」(わりにそうだと思う50.0%、かなりそうだと思う25.0%)、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」(わりにそうだと思う37.5%、かなりそうだと思う37.5%)となっており、目標をある程度達成できたと考える。</p> <p>以上、本科目の教育目標の達成については、各DP項目の達成度から全体としてある程度達成できたと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP上の位置づけ
授業評価アンケートにおける学生の到達度自己評価では、DP項目は全体としてある程度達成されており、本科目のDP上の位置づけに問題はないと考える。

②CP、カリキュラムマップ上の位置づけ
本科目はソーシャルワーク実習Ⅰの実施に向けた事務手続きや動機づけ、実習で得た学びの整理・振り返りを行うものである。本科目のCPおよびカリキュラムマップ上の位置づけに問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

実習前指導では、実習実施に向けた関連文書の作成、実習で必要となる知識・技術の獲得、動機づけ等を行っている。こうした過程において、学生には主体的学習態度が求められるが、授業評価アンケートの「授業の課題以外に学習に取り組みましたか」との問いでは、「取り組んだ」（75.0%）が見られ、ある程度、学生の学習意欲を引き出すことができたと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目における教育目標はある程度達成され、また、実習への動機づけや主体的学習態度を引き出す点でもある程度の成果が見られた。今後は本科目で修得した知識・技術が実際の実習現場でどのように役立ったか/役に立たなかったか、実習後指導（個別面談、発表、レポート）が知識・技術の修得に十分寄与したかといった点での評価も必要と考える。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	岡田 和敏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	通年	選択		16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2年に入る前に実習の領域を考え選択しているためか受講動機には「必須科目である」の回答は89%程であったが、「資格取得に必要」とする者が半数弱であった。実習先やそこで行われていることの具体的なイメージが掴めないでいる現れだと考える。その為、現場でのことを多く話し、何をするのかをイメージし理解できるように指導することにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全員が「到達度自己評価」各項目の4.0以上の回答であり教育目標は達成されたと考える。また、インターネットの利用はほぼ全員が検索をして調べ学習をしていることがわかった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

「到達度自己評価が高かったことは、学ぶことで実習領域への関心と理解が深まって来たものとする。自分から積極的に取り組む姿勢が感じられる回答であったと理解する。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

旧カリキュラムでは実習は3年生からであったが、2年次から実習に出ることになり、自分から積極的に取り組む姿勢をで取り組んでいたと評価できるものであった。3年次での実習を実りあるものとなるよう指導していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

実習先についてのイメージが掴めないでいるため、今後は現場の専門職からの話なども取り入れていけるようにしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	通山 久仁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	通年	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前・事後および実習期間中の指導を行う科目である。社会福祉士のカリキュラム改定により、本年度より新カリキュラムに移行し、2年次の実習が開始された。事前指導ではソーシャルワークの視点形成、事後指導ではスーパービジョンを通じた実践と理論との統合化を目標に展開した。2年次の学生であるため、障害者福祉に関する基本的知識・支援技術を伝えられるよう努めた。学生の受講動機を見てみると、「必修科目である」が60.0%、「資格取得に必要である」が100.0%を占め、「関心のある内容である」は20.0%であった。必ずしも社会福祉士取得に意欲の高い学生のみが受講している訳ではないことを踏まえ、将来の進路を見定めていくことも目標に加えて、できるだけ実習やソーシャルワーカーの仕事をイメージ化できるよう、実技指導を行いながら授業を展開した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均値は86.1点、中央値85点で優秀な成績であった。学生の学習達成度の自己評価においては、「自分なりの目標を達成した」の項目が、平均値4.0、中央値4.0であった。各項目をみてみると、DP1の知識理解が平均値4.2、中央値4.0、DP2の思考判断が平均値4.2、中央値4.0、DP3の意欲関心が平均値4.2、中央値4.0、DP4の態度が平均値4.0、中央値4.0、DP5の技能表現が平均値4.2、中央値4.0であった。また全ての項目において、「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから学生の自己評価においても目標は達成されたと判断した。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性

本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前・事後および実習期間中の指導を行う科目である。学生の資格取得へのモチベーションに課題はあるものの、「職業選択の参考になった」の平均値4.0、中央値4.0という評価をみると、本科目を通して学生が進路を定めていくことに貢献できた点で内容的妥当性はあったと考えられる。

②DP、行動目標からみでの内容的妥当性

4. に記したように成績の平均値、および学生の自己評価から内容的妥当性はあったと考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業の質評価の回答をみると、平均値4.2-4.4、中央値4.0-5.0であり、全ての項目において「全くそうでないと思う」、「少しそうでないと思う」と回答した学生はいなかった。このことから授業の質は問題なかったと判断した。

学習量の評価をみると、2, 3回以上の予習を行った学生が40%、復習を行った学生が40%であり、自発的学習を行った学生が60%であった。自発的学習に関する自由記述をみると、「教科書を読んだ」や、「障害について本やインターネットを使って調べた」との回答がみられた。講義内で課題や参考文献等を提示することにより、予復習や自発的な学習を促していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

本科目は社会福祉士指定科目であり、「ソーシャルワーク実習Ⅰ」の事前・事後および実習期間中の指導を行う科目である。今後は講義内で課題や参考文献等を提示することにより、予復習や自発的な学習を促していきたい。

本科目の履修者12名に対し、授業評価アンケートの回答者は5名と少数であった。アンケートの回収率をあげられるよう、学生に促していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	梶原 浩介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉制度論	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、メンタルヘルスの課題を抱える当事者(精神障害者等)の生活支援の意義と特徴及びそれに関する制度と施策についての理解を深めるとともに、さまざまな活動領域における精神保健福祉士の相談援助活動について理解することを目的に本授業を構成した。本年度は新型コロナウイルス感染症感染症拡大防止に留意しつつ、対面授業を軸に実践事例・福祉教材などを用いたり、社会的な課題について考察することで、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の生活支援システムについての知識と支援内容の基本的な理解を深めた。主には以下の点において授業準備に配慮をおいた。</p> <p>① 講話法を中心とした講義の展開が主であった。地域で生活するメンタルヘルスの課題を抱える当事者及び家族、支援者等に関する横断的な理解が求められる。そのため3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。</p> <p>② 初回講義の際には、本講義の全体像を示し、科目内容のポイント、今後の講義展開等について学生に教示した。</p> <p>③ これまでの講義内容の振り返りとして、レジュメ資料を作成し学生に共有した。おさえておくべきポイント等を整理のうえ、学生の理解度を把握したうえで、今後の講義の展開に生かすよう努めた。</p> <p>④ 本講義の特性上、地域で生活するメンタルヘルスの課題を抱える当事者、家族、支援者、各種法制度等の広範な理解が求められるため、モデル図や要約したものを新たな教材として作成した。また、教科書やレジュメではイメージしにくい内容については、視覚教材を併用して学生の理解を促した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>	<p>本年度は平均値が3.9～4.3、中央値が4.0と全員が標準的レベル及び理想的レベルに概ね達した。具体的には、2「到達度自己評価」によると、(6)「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」と(7)「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が平均値4.3が一番高く、次に(2)の順であった。3「授業の質評価」は中央値の水準であった。</p> <p>知識理解に関しては、地域福祉の観点からメンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える知識について問うものである。精神保健福祉に係る法制度、サービスについては、広範な情報量となるため、現代の社会福祉問題に関連させ、社会福祉士・精神保健福祉士の社会的な役割を示すことで、今後も学生の理解を促していきたい。具体的には、視覚教材の活用、事例の引用など、具体的な内容と照らし合わせながら、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える法律、制度、サービスを理解できるように今後も務める。</p> <p>学生による授業評価においては、学習量の評価において可能な限り、授業内での口頭説明・レジュメ資料での教授に努めているが、広範な情報量となるため、その点は課題として捉え、改めて要点を整理したり、グループ討議等、次年度に向けて検討したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の専門を学ぶ位置づけであり、選択科目である。授業準備の欄でも記述したように、本科目はメンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える支援の在り方、諸制度やサービスの仕組み等の理解のために、講話法を中心とした講義の展開が主であった。3年次以降の本学における実習に向けての必要な知識を概観しながら、重要事項をパワーポイントやレジュメ資料等でまとめるよう努めた。広範な内容であること、今後の社会状況の変化による法制度・サービスの動向を注視する必要があるが、2022年度の講義に関しては、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から表現技能に関する達成度が比較的低かったが、メンタルヘルスの課題を抱える当事者及び家族への支援や地域生活支援上の諸制度・サービスの表現の機会が少なかった点では方法的妥当性の問題である。今後の講義内容にて、学生間にて演習課題(具体的な事例)を提示し、学生とのコミュニケーションを介して、学んだ内容をアウトプットする機会をもつことで学生の本科目に対する学びを促したい。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>到達度自己評価において、「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が平均値4.0と全体数値よりも低かった。本講義は、講義形式により、メンタルヘルスの課題を抱える当事者の地域生活を支える知識について学ぶ機会を中心においたため、事例を取り上げて、考え、話し合い、発表する機会が少なかった。次年度に向けて関心意欲及び思考判断の行動目標をより具体的に示したうえで、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、「精神保健福祉関係科目」では、精神保健福祉の専門を学ぶ位置づけであることから、精神障害者に対する地域支援に求められる基礎的知識の形成については概ね達成できたが、関心意欲及び思考判断の面で課題を残した。この点は、3年次の精神保健福祉の関連科目(演習活動や現場での実習体験等)を通して、学生自身の主体的な学びを促し、精神保健福祉士に求められる倫理と価値、知識や技術を学ぶことの意欲を引き出していきたい。</p> <p>以上のことを踏まえ、可能な限り、学生自身の考える時間をとること、学生が体験的に捉えた学びを基に、コミュニケーションを図ることで、学生自身の学びを深めていきたい。そして、主体的な学びを深めていくためには、復習課題を意識的に提示する。適宜、授業内容を整理することで、授業中に課題を行う時間を増やすように努めたい。配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	高口 恵美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
精神保健福祉の原理 II	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の受講動機は「必修科目である」が73%であり、「資格取得に必要である」が82%、「関心のある内容である」が27%であった。精神保健福祉士を目指すものにとって基本的な知識を得る教科であるが受講動機として「関心」は低かった。実践がイメージ出来るような事例を豊富に取り入れながら授業を行い、実践で役立つよう要約や記録の機会を多く設けた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
		やや達成された	やや達成された	やや達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>達成度自己評価によると全体的に平均値4前後であり、知識の確認や専門分野の学びを深めることは出来ている。成績の平均はAであり、全体的に出席率や参加、貢献度、試験結果は良好である。「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」が3.6と最も低い評価であるが、本教科の中では要約することや、自己学習を深めることを重視し、交流の時間が短かったことが影響している。今後の授業では意見交換やグループワークを導入し、相互の学びの時間を設けたいと考える。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけから見て、本科目は資格取得に必要な「選択科目」であり、精神保健福祉に関する援助の基盤となる知識を高める教科である。学生からの感想では「精神保健福祉に関する関心が高まった」とあり、学習達成度の自己評価からみても、DP、CPともに内容は妥当であると考えられる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価について「評価基準が明らかである」の平均値は4.1、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.1、「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.1、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど学生が参加する機会が作られていた」の平均値は4.5、「口頭、文書など、何らかの形で質問を受け付け、答える機会が作られていた」の平均値は4.1であった。前述の通り意見交換やグループワークの時間は多く設けなかったこと、要約や自身で学びを深める時間を意識的に設けたことは、体感として現れていると考える。学習量の評価では、自主学習に取り組む機会を設けることが出来なかった様子がうかがえた。評価基準を明確に示し、学生が自主的に考察し自学に取り組むことが出来るよう工夫したい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

精神保健福祉の基本的知識を「学ぶ」時間と、学んだことを要約し記録する時間を多く設けたことから、学生の知識向上につながったと考える。しかし、得た知識や考察を交流する場面を設定することが出来なかったことは課題である。以上のことから、授業の中での学びあいの時間を取り入れるよう努めていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	三木 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
精神医学と精神医療	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>精神医学は診断基準を始め大きな転換期にあるため、最新の状況を反映することを心がけた。また臨床感覚を伝えるため、実際の症例をなるべく組み入れることを行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	やや達成された		達成された	やや達成された	
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	全員のレポート提出があり、内容も全て一定の水準を満たしていた。					
<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

必修の授業であるが、一般教養としても理解が必要な分野であり、幅広い知識の伝達に勤めた。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

全面的に対面授業に移行したため、最新の情報を取り入れた講義資料に更新を行った。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

受講態度も良く概ね意図は達成できた。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
ソーシャルワーク演習（専門）A	2	後期	選択	いいえ	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>精神保健福祉士の国家試験受験資格に関する科目であり、受講学生は、全員が精神保健福祉士レーンである。精神保健福祉士との関連性が十分ある科目であることから、1年生時や2年生前期において受講済みの精神保健福祉士受験資格科目の内容を踏まえた上で、更には精神保健福祉士レーンで初めての演習グループであることも十分に考慮をして講義を展開させた。具体的には、第一回目の講義の時に、受講についての詳細な説明を文書で提示した。シラバスに記載していることを前提として、今までの開講科目の精神保健福祉士受験資格関連科目との関係性を説明した。他には予習復習の件、欠席遅刻の件、理解をしておくべきキーワード、理解を深めるための専門職能団体の研修会案内の件、リアクションペーパーの件等々を詳細に説明した。さらには、理解度を深めるために、北九州市における精神保健福祉社会資源マップの作成をグループ化して行うことを事前に知らせ準備させた。毎回講義のレジュメを作成して配布し、理解度を高めた。</p> <p>なお、リアクションペーパーの感想等にて、専門性の高い学習体制はとれていたと感じられた。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価については、全員合格領域に到達しており、標準的レベルには達成した。また、演習参加協力度、リアクションペーパー、出欠状況を十分に踏まえた上で、最終的に判断した。全体的に80点以上が殆どを占め、理想的レベルに達している。リアクションペーパーからは、初めての精神グループでの演習で、仲間との理解も深まったし精神に進んでよかったと思ったや、次年度からも精神保健福祉関連の講義が楽しみです等の内容の記載もあった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性については、受講の全学生が、精神保健福祉士のレーン選択の学生であり、精神障害者福祉や医療福祉領域に興味があるということで、講義に対してのモチベーションは非常に意欲的なものが感じられ、高い関心を感じられた。学生も成績評価からみて、一定の到達領域に達しており、内容的には十分に妥当であると思われる。DP、行動目標からみた見での内容的妥当性についても、成績評価から、知識・理解はある程度できていると感じられる。以上のようなことから、内容的妥当性には、問題が無いと思われる。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均点が、他の項目と比較すると低かった。その場面設定を行い、実際にグループ化して社会資源マップを作成する作業を行った。2年生になって初めての自分の専攻の演習であったので、なかなか慣れていないということもあったかもしれないが、可能な限り今以上に展開できるように、次年度以降も工夫をしていきたい。また、昨年度は、調査の作業を課したのでインターネット上での検索は多く、残念ながら学術データベースの活用が殆どなされてなかった。今年度は利用の仕方からのインフォメーションを行い、積極的に活用できるよう指導をした。学生の意見として、授業の課題以外に学習していない理由として、忙しかったという回答があった。時間の作り方に関しても、引き続き具体的な方法を提示するなどの指導を行いたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

精神保健福祉士国家試験受験資格の必須科目であり、全員が精神保健福祉士養成レーンの学生であった。1年次や2年前期での精神保健福祉士関連科目とのつながりを考えて教授したが、初めての専攻のグループであるので、前半部分は相談援助の基本的なことの復習も含めて講義を進めていくこととした。また、後半部分は、実際に援助支援をする時に必要なものに理解を深めさせるために、地元の精神保健福祉の社会資源マップの作成をグループ化して分担で課した。更には、上記に示したように、よりリアリティを習得できるように、ロールプレイを取り入れ実際に演じてみるという演習を行って、良い意識づけはできたと思う。毎回資料配布しその説明を行い、理解を深めることができたと感じられる。次年度も引き続き、予習復習、学術データベースの利用方法に関しても、具体的な指示を出すことにしたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉本 有紗

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
心理学と心理的支援 II	1	後期	選択	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は「必修科目である」76.0%、「資格に必要である」64.0%、「関心のある内容である」36.0%、「単位数を確保する」22.0%、「GPAをあげる」2.0%、「友人が履修している」2.0%であった。本科目は、社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家資格の受験資格に必修の科目であるため、「必修科目」「資格に必要」と答えた学生の比率が高い。</p> <p>1年次科目であるため、まずは資格取得科目として受講してみようかという学生が中心である。また、本科目は前期の心理学と心理的支援Ⅰの続きであり、学生が初めて触れるような心理学の基礎的理論や研究を扱うことから、できるだけ具体的な例を挙げて、専門性のある概念や言葉に親しみ、関心を深めるようにしている。</p> <p>毎回、授業前に前回の復習として、授業の流れを振り返り、繰り返し説明することで、知識の定着を図った。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP 1)	思考判断 (DP 2)	意欲関心 (DP 3)	態度 (DP 4)	技能表現 (DP 5)
		達成された	達成された		達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は76.0点であった。80点以上の理想的レベルの者の割合は44.7%、60点～79点の標準レベルの者の割合は42.1%であった。再試験の学生も出席した者はすべて標準レベルの成績を収めた。殆どの学生が標準～標準以上のレベルの目標達成ができたと考えられる。</p> <p>学生の自己評価においても「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点は4.3点と高かった。また、「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「必要となる技術を身につけることができた」の平均点は4.1点であり、実感のある学びができたと考えられる。「さまざまな課題を検討する力を得ることができた」「的確に判断する力を得ることができた」「学びを深めたいと意欲を持つことができた」の項目も平均点は4.2であり、授業を通して学ぶ意欲を引き出すことができたことが伺える。</p> <p>アンケートの自由記述には「復習に、一所懸命取り組みました」「授業だけで十分だと感じるくらいの濃い内容だった」などの記述がみられ、授業の内容の充実と学生の努力により達成されたと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

本科目は、卒業必修ではないが、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験受験必修科目である。また、それらの資格に加え、養護教諭、保育士など対人援助職としての専門性を養うには、人のこころの理解は基礎である。したがって、1年次の心理学と心理的支援の学習は重要でかつ妥当であるとする。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質の評価において「評価基準は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」の平均値は4.2であった。また、「学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は4.3であり、教授内容を質、量ともに概ね適切に伝達することができたと考えられる。「とても分かりやすい講義でした」「話し方がとても丁寧でゆっくりわかりやすく日常にある例を踏まえて説明してくれるのでとてもわかりやすい講義でした」という意見も得られた。

一部、受講生の中に「説明は理解しやすいものであった」に「全くそうではない」と思う方がおられたようである。

予習をした学生は、62.0%であった。復習をした学生は74.0%であった。復習に力を入れて取り組んだ学生が多かったと考えられる。

授業以外の課題に取り組んだ学生は54.0%であった。授業以外の課題に取り組まなかった学生もまた「復習に、一所懸命取り組みました」「振り返りに時間がかかった」「授業の予復習」「プリントを見て復習するくらいしかやり方がわからなかった」などと記述しており、自主的に予習復習に取り組んでいる様子がうかがえる。

授業以外の課題に取り組んだ学生は「資料を読む」「ノートをまとめた」「予習復習をした」など学習内容の定着を図ったり、「わからないところを教科書やインターネットで調べた」「関連する本を読んだ」「理論の立論者の歴史や生い立ちを調べてみた」など、学習したことさらに知識を広げる行動をとったようである。授業で積極的に利用を促したわけではないが、図書館の利用者が6.0%、インターネットの利用者が28.0%であった。学生同士で積極的に学びの姿勢を共有し合うような声掛けを行っていきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目の目的とする基礎的知識の形成について、概ね達成できた。

一部学生に、自主的な予習・復習を行い、日々の授業内容について行くことが難しい学生がいたことから、今後そのような学生に対しても個別に対応ができることを周知し、十分な学びを促していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育原理	1	後期	選択	はい	53

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、教育の原理的内容が含まれていることから、教育思想、教育制度の歴史をまず教授し、次いで現代的な問題について取り組んでいる。</p> <p>③1年生ということもありまだ教職への意識が強固とは言えない。したがって、教職を意識しつつ、市民的教養という側面からも教育・学校・子どもについて、知識や関心を持つように授業の構成を考えた。</p> <p>④学生同士の意見交換を大事にしたいと思い、グループワーク、ディベートを取り入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、授業への参加具合、レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上4名、80点以上90点未満14名、70点以上80点未満24名、60点以上70点未満4名、レポート未提出（単位の放棄）6名、平均点71.4であった、上位者の割合、平均点も、低調である。</p> <p>③評価の重点をレポートに置いたために、日ごろの学修具合を検証することが難しかった。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、ディベートでは熱心な討論が行われた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DPカリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほとどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の意見に、素材が古いという意見があったが、「コアカリキュラム」でも教育思想史や制度史に触れることを求められており、歴史の授業は不可欠である。学生の中に歴史学習への意識がないのか、あるいは授業方法が合わないのかわからないが、「歴史嫌い」があるとすれば興味を持てる歴史授業を構築する必要がある。

②授業中の感想の中に理不尽ともいえる要求があり、対応に苦慮している。そうした要求について、どう学生と問題意識を共有すべきか工夫してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

①教育学の基礎に関する総括的な授業であるために、教職への志向を高める内容が不足していた。2年時の教職概論との連携を考えて授業内容の構成を工夫したい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育社会学	2	後期	選択	はい	46

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>○教職課程の科目であり、学生の参加意欲はある程度みられるが、教職教養科目であるため教師の専門性との結びつきは明確でないことが多い。</p> <p>○教育の現代的課題などと結びつけながら理解させることで、科目の意味を理解できるよう意識した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
		達成された	達成された	やや達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差, S, A, B, C, Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>○全学科：平均点83.3点、秀14人（20.6%）、優34人（50.0%）、良17人（25.0%）、可2人（2.9%）、不可1人（1.5%）。SD8.04。</p> <p>○福祉学科（本年度）：平均点83.3点、秀10人（21.7%）、優24人（52.2%）、良9人（19.6%）可2人（4.3%）、不可1人（2.2%）。SD8.76。</p> <p>○福祉学科（昨年度）：平均点93.0点、秀29人（74.4%）、優7人（17.9%）、良2人（5.1%）可1人（2.6%）、不可0人（0.0%）。SD8.33。</p> <p>○本年度は昨年度と比べると秀の数が低下し、優を中心に分布した。平均点も低下したが、出題難易度や持ち込み等の試験条件の変更に伴う影響も考えられる。全体として満足できる結果であったが、可と不可（6.5%）が課題となる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

○教職課程の科目であり、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置付けからみた内容妥当性に問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方策を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

○昨年度と同程度の学習内容・程度であった。

○試験問題や昨年度より思考を求めるものが増え、やや難化した。

○本年度は次の2点に取り組んだ。(1)レジュメにおける事例や用語解説を充実させた。(2)オンライン授業で活用されたクラスルーム機能を維持するため、資料の提供などを充実させた。

○到達度が昨年度より低下したのは、試験問題の難易度などが影響したと予想される。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

○本年度は全体的に満足できる結果であった。平均点は優レベルであり、知識の定着・思考を要求する問題とも大きな問題ない。

○少数ながら可と不可の学生があり、学習の動機づけに一層工夫をこらしたい。

○昨年度に比較すると分散が大きいが、試験によって学生の実力を測定するという意味で、昨年度よりは適切であったと考える。

○次年度はより思考力を要求する授業内容を充実させ、試験の要求レベルも上げていきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	木村 政伸

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育課程論	2	後期	選択	はい	48

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程の必修科目として位置づけられており、また「教職コアカリキュラム」によって取り扱うべき内容が決められていることから、それに沿いつつ時宜に合わせて授業の内容を精査している。</p> <p>②「教職コアカリキュラム」に、本科目の骨子が規定されていることから、教育課程の原理的歴史をまず教授し、次いで現代的な教育課程をめぐる問題について取り組んでいる。</p> <p>③2年生後期となって、少しずつ教職への意識がめばえている。したがって、教職を意識しつつ、具体的な教員としての資質形成につながるような工夫を行った。</p> <p>④学生同士の意見交換などのような学修上の主体性を大事にしたいと思い、グループワークを半分ちかく取り入れ、また反転授業にも取り組んだ。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①評価は、授業への参加具合、ミニレポート、期末レポート提出の合計点で行った。</p> <p>②90点以上2名、80点以上90点未満21名、70点以上80点未満13名、60点以上70点未満4名、60点以下4名、レポート未提出（単位の放棄）1名、平均点75.9であった。合格者の平均は低調であったが、きわめて優秀な学生も数は少ないがいた。一方、60点代の学生が複数名おり、学修意欲に疑問なしとはしない。全体として、学生の姿勢にばらつきがめだっている。</p> <p>③評価の重点をレポートに置いたために、日ごろの学修具合を検証することが難しかった。</p> <p>④グループワークに慣れていない面は見られたが、少しずつ慣れてきて意見の要約を構造的にできるようになってきた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP,カリキュラムマップにおける本科目の位置づけ

本科目は教職課程の科目であり、ほぼどの大学にでも共通するカリキュラムマップにそっており、内容的な妥当性は問題ないとする。

②DPについて

教職課程独自のDPがないために、評価項目が授業のねらいと必ずしも整合的でない。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

①学生の自由記述にほとんど記述がない。授業の感想は毎時間書かせているのでそこで授業の反応はわかるが、後期全体の感想がほとんどないというのは、一考の余地があるだろう。

②授業中の感想の中に理不尽ともいえる要求があり、対応に苦慮している。そうした要求について、どう学生と問題意識を共有すべきか工夫してみたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

①教育課程論という学科の専門科目と全く異なる分野の学修への動機は、教職希望ということをお断してもなかなか高めがたい。アクティブラーニングをできるだけ導入して、学生の主体性に期待する授業構成を目指しているのが、学生自身にこれまでしみついた受動的な姿勢からの転換が難しい。少しずつでも、受動的な姿勢から能動的な姿勢へ転換できるように、工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校保健教育法	3	前期（後期）	選択	いいえ	37

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。受講動機としては「資格取得に必要である」100%、「必須科目である」0.0%、「関心のある内容である」37.5%であった。</p> <p>これらのことから、授業のオリエンテーションを丁寧に行い授業への関心が高まるように工夫をした。また講義を通して基礎的な知識が定着できるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。</p> <p>②授業では、保健教育の授業の基礎（学習指導要領における保健教育の位置づけ、指導案の作成方法など）を講義と演習を通して行った。さらに、学生が題材を決定し学んだことをもとに模擬授業の指導案を作成し、10分間の保健指導を行った。また、4年生が実施する模擬授業を参観し、授業に対する具体的なイメージができるように授業内容を工夫した。模擬授業をおこなうだけでなく、自己評価、他者評価を行い授業への関心意欲を高め、また授業の質が向上するように工夫した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な平均値は80.0点（±6.2）であった。理想的レベル（80点以上）は20名であった。</p> <p>目標別の達成度は知識・理解に関しては、80.0%、思考・判断82.0%、意欲・関心81.0%、技能・表現80.0%であった。知識・理解では、基礎的な問題の正答率は高かったが、基礎的な知識を応用した論述問題の正答率が低かった。このことは、基礎的な知識の定着とそれを応用しての理解が不十分であったと考えられる。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していった。</p> <p>学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.3中央値4.5）、また、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.5中央値5.0）、であった。また、職業選択の参考になった（平均値4.6中央値5.0）であった。</p> <p>さらに、学生が行った模擬授業において、指導案、教材等の作成の方法などを具体的に示し、達成感を得ることのできる授業内容の工夫を行っていった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性

本科目は「保健・医療関係科目」であり、養護教諭一種免許状取得するための看護臨床実習、養護実習の履修要件科目である。

受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」100%、「必須科目である」0.0%、「関心のある内容である」37.5%であった。

また、学生の授業評価においては、知識・理解において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた(平均値4.3中央値4.5)と答えている。また、思考・判断において自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた(平均値4.3、中央値4.5)、自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた(平均値4.3中央値4.5)と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。

②DP,行動面から見ての内容の妥当性

成績評価から見て知識・理解に関する達成度が比較的低かったが、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。また学生の授業以外に取り組んだこととして、「模擬授業に向けての調べ学習」、「自主学習」、「復習」、「わからない内容などをインターネットで調べた」など授業に積極的に取り組んでいた。

③まとめ

以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の授業評価においては、「模擬授業は、先生になりきって自分なりに頑張れたのでよかったです」、「復習をした」、「調べ学習をした」などの意見があった。今後も4年生の授業の参観を実施し、模擬授業の具体的なイメージができるように授業内容を工夫していきたい。

授業では、講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で授業を実践できるような力を身につけることができるように授業を改善していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、養護教諭は、学校現場で保健教育の中心となり活躍することが求められる。基礎的な知識を定着させ、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくように授業構造を改善していきたい。さらに、教材開発の方法などを取り入れ、学生が保健の授業の楽しさを味わうことができ、達成感を持つことができるような授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
養護実習事前事後指導	3~4	三期	選択	いいえ	35

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は教職課程における、養護教諭になるための学習として位置づけられている。また、受講動機としては「資格取得に必要である」71.4%、「必須科目である」57.1%、「関心のある内容である」28.6%であった。</p> <p>これらのことから、養護実習に向けての準備や実習後のカンファレンスを通して、自分が目指す養護教諭像や学校現場での実践についてより具体的にイメージできるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。さらに学生が養護実習で経験する職務内容について、学校現場で実践できるように具体的な事例を示し、わかりやすく解説することを心がけた。また、学校保健、養護概説等で学んだ既習知識を活かし、健康診断実施計画案、保健だよりの作成など養護実習の事前準備として実践的な内容を取り入れ授業内容を工夫した。さらに、授業の事前準備として、classroomに事前に資料を掲載し、予習・復習に役立つようにした。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な平均値は83.0点であった。理想的レベル (90点以上) は7名であった。</p> <p>目標別の達成度は知識・理解に関しては85.0%、思考・判断85.0%、意欲・関心86.0%、技能表現80.0%であった。授業では基礎的な問題の定着を確認しつつ、復習問題を課題に出すなどの工夫を通して、応用力の定着を図るように授業構造を改善していきたい。</p> <p>学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた (平均値4.6中央値5.0)、また意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において様々な課題を検討する力を得ることができた (平均値4.6中央値5.0) であった。さらに、職業選択の参考になった (平均値4.6中央値5.0) であった。</p>					
<p>*根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別) の平均値や分布 (標準偏差, S, A, B, C, Dの度数), 独自に設けた基準による達成度, 学生の授業評価アンケートの結果など, できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」, 「学習到達度の自己評価」, 「学習量の評価」, 「学修のための情報利用」, 「図書館, インターネット利用」, 自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p><授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「教職課程科目」であり、養護教諭になるための学習として位置付けられている。 受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」71.4%、「必須科目である」57.1%、「関心のある内容である」28.6%であった。 また、学生の授業評価においては、思考・判断において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.6中央値5.0）と答えている。また、関心・意欲においては自分が学ぼうとしている専門分野について、さまざまな課題を検討する力を得ることができた（平均値4.6中央値5.0）、職業選択の参考になった（平均値4.6中央値5.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。</p> <p>②DP,行動面から見ての内容の妥当性 成績評価から見て知識理解に関する達成度をさらに定着させるために、基礎知識を活用し、応用問題に適応するように授業構造を検討していくことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p><授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の学習量の評価においては、「採用試験の勉強を通して学習に取り組んだ」、「自分の知識を深めるための調べ物をした」、「分からないところを調べた」などの意見があり、熱心に授業に取り組んでいた。講義でしっかりと基礎知識を身につけ、グループワークなどを取り入れ、学校現場で臨機応変に活躍できるような実践的な力を身につけることができるように授業を改善していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は、養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目である。基礎的な知識は概ね達成できたが、学校現場では、医学的知識を身につけた専門職としての活躍が期待されている。養護実習で経験する救急処置について、実践事例を通して、学んだ知識をさらに活用できるような実践力が身につくように授業内容を工夫していきたい。授業においてもclassroomの機能を活用し、積極的に演習ができるような授業内容を工夫していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	西丸 月美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職実践演習（養護教諭）	4	後期	選択	はい	34

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は教職課程における、養護教諭になるための学習として位置づけられ、さらに教職実践の進化を図るための科目として位置づけられている。</p> <p>受講動機としては「資格取得に必要である」69.2%、「必須科目である」46.2%、「関心のある内容である」15.4%であった。</p> <p>本科目では、養護実習で学んだことを通して、自分が目指す養護教諭像や学校現場での実践についてより具体的にイメージできるように、講義と演習のバランスを考え授業計画を立て、関心を高めるように心がけた。さらに学校現場においてより実践力を身に付けることができるように、保健教育における「性に関する指導」について現職養護教諭の講話を実施した。その後グループで指導案を作成し、代表者が模擬授業を実施し、実践力を身に付けることができるように授業内容を工夫した。さらに「養護教諭と多職種連携について」の講義内容を設け、グループで事例検討を行い、養護教諭の職務内容と専門性について理解が深まるように授業内容を工夫した。</p>
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解（DP1）	思考判断（DP2）	意欲関心（DP3）	態度（DP4）	技能表現（DP5）
		達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な平均値は86.0点（±5.8）であった。理想的レベル（90点以上）は15名であった。</p> <p>目標別の達成度は知識・理解に関しては、85.0%、思考・判断85.0%、関心・意欲87.0%、技能・表現87.0%であった。</p> <p>授業では、養護実習の実践を通して個人で振り返り、個人の課題を把握しグループワークを通して課題に取り組み、学校現場での実践に生かすことができるように授業内容を工夫した。また、学校現場において対応を求められている現代的な健康課題に対応できるように、「養護教諭と多職種連携について」事例を通じた授業展開を行った。</p> <p>学生の授業評価においては知識・理解において知識を確認したり、修正したり新たに得ることができた（平均値4.4中央値4.0）、また意欲・関心においては、自分が学ぼうとしている専門分野において学びを深めたいと意欲を持つことができた（平均値4.6中央値5.0）、職業選択の参考になった（平均値4.6中央値5.0）であった。</p> <p>今後も学生が養護教諭としての執務の具体的なイメージがよりできるように事例の見直しを行い授業内容の改善を行っていきたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>
「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

①DP,CPカリキュラム上の位置づけから見ての内容の妥当性
本科目は「教職課程科目」であり、養護教諭になるための学習、教職実践の深化を図る科目として位置づけられている。
受講動機としては受講動機としては「資格取得に必要である」69.2%、「必須科目である」46.2%、「関心のある内容である」15.4%であった。
また、学生の授業評価においては、思考・判断において知識を確認、修正したり、新たに得ることができた（平均値4.4中央値4.0）、意欲・関心においては自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた（平均値4.6中央値5.0）と答えている。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当と考える。

②DP,行動面から見ての内容の妥当性
本科目は、教職課程の深化を図るための科目として位置付けられている。授業においては養護実習の経験を通して、学校現場で実践できる力を養成するために、講義と演習のバランスを考慮した。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。

③まとめ
以上のことから、内容的妥当性には問題はないと考える。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>
「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学習量の評価として授業の課題以外に取り組んだこととして、「教員採用試験の勉強」、「授業に関する本を読んだ」、「指導案を作成するために情報を集めた」など採用試験の勉強や授業に熱心に取り組んでいた。また、学生の意見として「この講義を通して、性教育の必要性、多職種連携の必要性をより強く思うようになりました。また、自身の（養護教諭としての）理想像を模造紙に書き、発表することで養護教諭になることへのモチベーションも高まりました。ありがとうございました」などの意見があった。今後も学校現場で臨機応変に活躍し、実践できるような力を身につけることができるように、グループワークや発表の機会などを積極的に取り入れ、授業内容を工夫していきたい。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

本科目は、教職実践の深化を図る科目である。養護教諭は学校において、医学的知識を身につけた専門職としての活躍が期待されている。子どもたちを取り巻く環境は複雑化しており、養護教諭は多職種と連携し課題を解決できるような実践力が求められる。福祉学科の特性を活かし「養護教諭と多職種連携」についての講義を通し、課題解決に向けて学んだ知識をさらに活用し実践力が身につくように授業内容を工夫していきたい。

リフレクションカード 2022年度後期

学科	福祉学科
氏名	太田 かおり

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教育におけるICT活用	1	後期	選択	いいえ	50

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。</p> <p>開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教育におけるICT活用は、本年度からの新規開講科目であり、全学の教職課程1年次生全員が履修する科目である。授業は複数の担当者がオムニバス形式で授業を行い、またICTの利活用に関する外部講師を招いて授業を実施した。</p> <p>学生が教育現場における情報通信技術の活用方法やその歴史的経緯、現状、今後の方向性等について理解を深めることができるよう指導を行った。</p> <p>教育におけるICT活用方法の他、学習評価や公務におけるICT活用、教育データの活用などを取り上げた。教育におけるICTの活用について理解を深める科目であることから、本授業内においても課題の提出や意見発表、意見共有を積極的にICTを活用して行うよう授業を工夫した。</p>
--	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された		やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p><授業評価の指標></p> <p>「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>授業評価アンケート調査の結果から、授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」は5.0満点中4.3、「期間内に行べき学習の範囲や課題は明らかであった」は4.4、「説明は理解しやすいものであった」は4.4、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」は3.6、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」は4.3と概ね良好であった。講義が中心となる授業形態であったため、今後は学生が話し合ったり、意見を発表し合う機会を多く設けるよう工夫したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。

<授業評価の指標>

「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など

授業評価アンケート調査の結果から、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は5.0満点中4.0、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲をもつことができた」は4.3、「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」は4.2と概ね良好であった。

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。

また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職課程の学生たちのICT活用力の向上に尽力する。

7. 総合的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総合的評価と課題をお示しください。

達成状況については概ね良好であった。今年度の成果と課題を踏まえ、来年度も引き続き、教職を目指す学生たちの指導に力を尽くしたい。